

【包含層出土土器】(第69図)

全調査区が一次調査区と接しているため、統一を図るため、今回の調査区内での分類は、一次調査の分類をもとに行っている。遺構から出土したものに關しては先述のとおりであるので、以下では包含層出土の資料を主体に記述していきたい。

ただし、二・三次調査区は、該当時期の遺物包含層は一次調査ほどⅢ層以上の堆積状況がよくなかったため、小片が多く、全体を把握できる資料が少ない。確認できた当該期の土器はⅢ群が主となった。

【押型文土器】(第67図)

一次調査でいうⅢ群である。

I 山形押型文

口縁部は出土しなかったため、各類型に分類することが困難であった。

220・221は、外面にナデ調整の後、横走する山形押型文を施文している。内面はナデ調整である。200は、口縁部は残存していないが、頭部にあたる部分に文様は施文されていない。222～225は、外面に縦走する山形押型文を施文している。内面はいずれもナデ調整である。226・227は外面に施文された縦走する山形押型文が、ナデ消されている。特に、226に關しては押型文間にナデによって無文帯を形成していることがわかる。

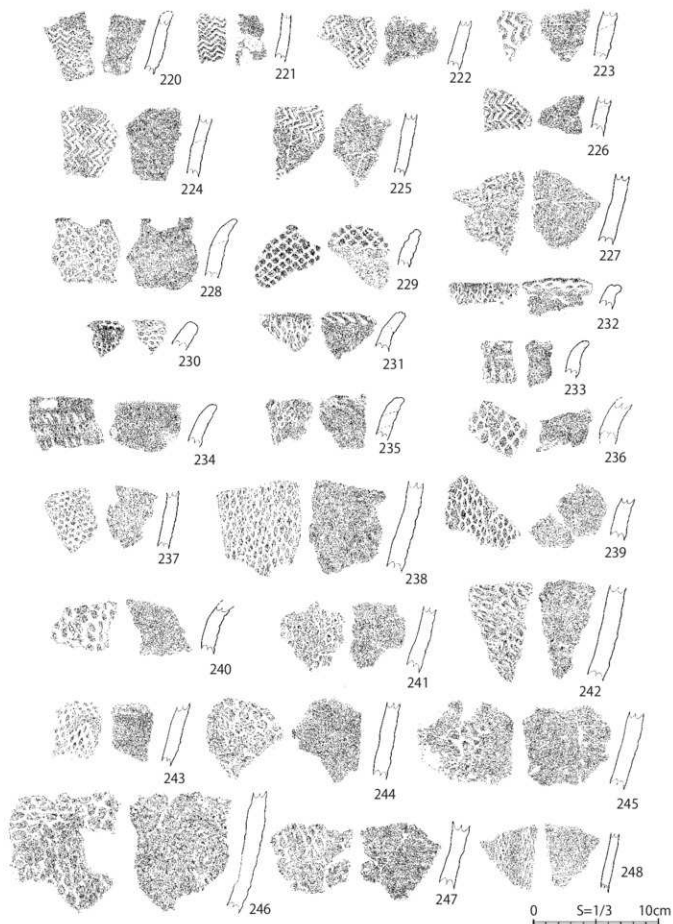
II 楕円押型文

4 D類

229～234が該当する。229は、口縁部、平らな口唇部に縦走する楕円押型文を施し、内面は上端部分に横走する楕円押型文を施す。やや外反した口縁部である。230は、外面は口縁部、内面はナデ調整後、口縁部上端まで縦走する楕円押型文を施す。234は、口縁部は

分類	分類基準	細分類							
I群	爪形文土器	縄文時代早期期のいわゆる爪形文土器。二・三次調査では確認できていない。							
II群	無文土器	口縁部	I やや内側にすぼまる II 直口または外側に開き気味						
		口唇部	i 尖り気味 ii 丸みを帯びる iii 帯垣						
III群	押型文土器	文様	I 山形押型文 II 楕円押型文 III 複合押型文 IV 格子目文 V 枝回転文 VI 縄文 VII 撫糸文 VIII その他						
			外面施文	I 文様小、横方向 2 文様小、縦方向・斜方向 3 文様大、横方向 4 文様大、縦方向・斜方向 A 横方向+原体変換 B 原体変換 C 2重の原体変換 D 横方向 E 無文					
				内面施文	① 直口または外側に開き気味。砲弾形に近い。 ② 頸部に指れをもち、口縁部外反、もしくは口縁部のみ外反するもの。				
					口縁部	1類 貝殻線縁刺突文+楕形突帯文 2類 貝殻線縁刺引文+楕形突帯文 3類 貝殻変換で羽状文を施す 4類 連続貝殻線縁刺引文 5類 貝殻変換文			
						IV群	貝殻文系・変換文系土器	文様 (施文原体)	
		V群						沈線文系土器	文様
			VI群						その他
				1類 沈線文+連点文 2類 沈線文+網目状撫糸文 3類 沈線文					
				I～V群以外					

第3表 縄文時代早期土器分類表



第 67 图 包含層出土繩文土器実測図

やや開き、内面には横走する楕円押型文を施す。口唇部は尖る。口縁部上端と、内面はナデ調整である。231はナデ調整を施された後、口唇部に刻みが施されている。

4 E類

228・233・235が該当する。228は、口縁部が、外反しており、口唇部はやや尖り気味である。外面にはやや粒の丸い縦走する楕円押型文を施す。内面はナデ調整である。233は外反する口縁部で内面はナデ調整である。235は、口縁部はやや開く程度で、口唇部も丸い。口縁部上端に強いナデ、内面はナデ調整である。

各類型に分類することが困難であった資料については以下のとおりである。236～240は、外面に縦走する楕円押型文を施し、内面はナデ調整である。237はその中でも、粒径が小さい。24・245は、外面の文様が、ナデによって245は縦方向、244は斜め方向に一部消されている。243・246は、横走する楕円押型文と、縦走するものが混在する資料である。246の文様の粒径は大きく、施文が粗雑である。247は文様の施文が途中でとまっている。

Ⅲ 燃糸押型文

248はベルト状の網目燃糸文を施したものである。1点のみ出土している。

【石鏃】(第70図)

二・三次調査では計19点出土しており、そのうち11点図化している。すべてI層以上から出土しているが、中には、いわゆる鋳形鏃や、黒曜石の小形三角形鏃など、縄文時代早期と判断できるものも含まれるためII層以下からの上方拡散を考慮すべきである。掲載数が少ないため、縄文時代後期以降と思われる資料とあわせて報告したい。

出土層位と形態から縄文時代早期と判断できるものは、249～251である。249・250は、黒曜石の小型の三角形鏃である。基部は挟りの浅い凹基で、全面に剥離による調整がなされている。251は形態が正三角形に近く、基部はU字に大きく抉れた、いわゆる鋳形鏃である。剥離による全面調整を施したのち、鋸歯状剥離による周縁調整をおこなっている。

出土層位はI層であるが、技術・形態的に縄文時代早期の可能性が高いものは、252～257である。252は

251と同様の鋳形鏃であるが大きさが異なる。251・253～255は形態が長身二等辺三角形であり、基部の挟りが深い。鋸歯状剥離による周縁調整がなされる。253・254は鋳形の両端に丸みを帯びる。

縄文時代後期以降と判断できるものは、255・258である。一次調査出土の縄文時代後期以降のものとして判断された石鏃は、凹基無鋸歯で占められており、使用石材もホルンフェルス類が多い傾向にあると報告されている。これらと比較すると、技術的・形態的にも同様なものは2点である。255はホルンフェルス(Ho II群)製で形状は長身二等辺三角形である。挟りは浅く、縄文時代早期としたものよりもカーブは緩やかである。剥離による全面調整であるが、石材に起因するものなのか、後縁は明瞭ではない。259はチャート(Ch II群)製である。基部が破損しているため詳細は不明である。

縄文時代後・晩期の遺物

全調査区を通して、I層を中心とした包含層から当該期の遺物が出土している。遺構は確認できていない。(今回の調査で、一次調査時に確認していた調査区外に延びる竈穴住居跡の続きがH区で、確認できた。第I分冊にて報告済みである。)特に、I層の堆積の厚いF区からは多くの土器・石器類の出土が認められた。本遺跡の出土遺物に関しては、一次調査で詳細な分類をおこなっているため、二・三次調査分もそれに準じて土器・石器ごとに器種分類をおこなっている。

【石器】(第68図～78図)

【打欠石鏃】(第68図～71図)

一次調査では5,000点近い、大量の打欠石鏃が出土しているが、今回の調査でも553点出土している。そのうち図化しているものは54点である。

打欠部の位置で分類をおこなっている(第4表)。

I類(第68図～78図)

本遺跡出土551点中512点と、大半がこの類型である。紐掛け部は剥離、敲打、両極打法などによって作り出されている。以下では特徴的なものを挙げ、その他は観察表を参照されたい。

今回の調査で出土した石鏃の中で、特徴的なものは260～277である。長径4～6cmと本遺跡で出土した全石鏃のなかでも、小型の部類に入る石鏃である。多くは紐掛け部の作出は剥離によるものだが、262・

打製石斧	無挾群	平面形の両側縁がほぼ直線ないし若干張り出すラインで構成されるグループ	
		I類	短冊形 長方形ないし隅円長方形の平面形。基礎部ほぼ直線で構成される。 a: 両側縁がほぼ平行 b: 両側縁がやや膨らむ
		II類	垂短冊形 長台形の平面形。I類とほぼ同様であるが、刃部に向かってわずかに両側縁が広がる。刃部平刃または円刃 a: 両側縁がほぼ直線 b: 両側縁がやや膨らむ。広がりの方が進むとIII類となる
		III類	楕形 a: II a類に連続する長台形 b: 基礎が尖り刃部を底辺とする二等辺三角形の平面形 c: 両側縁がやや内反る
		IV類	小判型 I類に含まれる平面形が隅円長方形のものがさらに丸みを帯び、長楕円形の平面形になるもの。刃部は円刃 a: 器長が長いもの b: すんぐりとした楕円形
	V類	細形 細身の形を有する a: 両側縁がほぼ平行 b: 刃部・基部の両端がすばまり、紡錘形に近いもの	
	有挾群	体部中程ないし上半の側縁に挟りを有するグループ	
		VI類	体部上半の両側縁に挟りを有する。 a: 刃部形態が平刃 b: 刃部形態が尖刃 c: 刃部形態が円刃
	VII類	分銅形 体部中程の両側縁に挟りを有し、ほぼ上下対称の形態となる a: 隅円三角形の形態が連続するもの b: 円形が連続するもの	
	有柄群	体部上半と下半の幅が異なり、挟りではなく肩のない段状の境目を有するグループ	
		III類	下半が円形をなすもの a: 柄部が短小なもの b: 相対的に柄部が長く下半が狭小なもの
		IX類	漏斗形 短小な柄部から刃部に向かって両側縁が末広がりになるグループ 先鋭な肩部を有するグループいわゆる「有肩」と形容される資料を含む
		X類	a: 正方形ないし長方形の長軸の一端に短小な柄部が組み合わさる(羽子板形) b: 長方形の短軸の一端に柄部が組み合わさる(凸字形) c: 尖った刃部を有する(矢印形: 弥生時代)
	磨製石斧	I類	楕形 基部から刃部に向かって両側縁が末広がりになるグループ
		II類	短冊形 両側縁がほぼ平行し、隅円長方形の平面形をなすグループ
III類		紡錘形 胴部中央から刃部・基部に向かって両側縁がすばまるグループ	
IV類		細形 細長い棒状の形をなすグループ	
V類		石鑿	
打欠石鏢	I類	長軸打欠 素材の鏢の長軸方向だけに打欠き部をもつ	
	II類	短軸打欠 素材の鏢の短軸方向だけに打欠き部をもつ。長短比が1:1のものも含む	
	III類	双軸打欠 素材の鏢の長・短軸方向両方に四方ないし三方に打欠き部をもつ。長短比が1:1のものも含む。	
磨石	I類	碁石形 円形ないし楕円形の扁平鏢を素材とする。周縁部は未加工・未使用	
	II類	ボール形 球形の鏢を素材とする。明確な使用痕が乏しい。	
	III類	タブレット形 円形ないし楕円形の扁平鏢を素材とする。敲打痕が摩擦面にほぼ直交する面を側縁に形成する。 a: 敲打痕が単一の面が扁平鏢の周囲を巡る b: 敲打痕が部分的に見られる	
	IV類	算盤玉形 敲石の範疇に入る。厚みのある扁平な鏢を素材とする。側縁には摩擦面に対しやや斜めの角度から敲打痕がみられる a: 敲打痕は複数面見られ、両側縁には稜線が直線的に形成される。残存形態がいわゆる算盤玉形になるもの b: 敲打痕が部分的に見られる c: 敲打面によって形成される両側面の稜線がジグザグにはしるもの	
	V類	俵形 厚みのある棒状鏢を素材と推定され、端部に敲打痕が観察できる。 a: 長軸端部に摩擦面に直交する形で敲打面が形成される。 b: 敲打痕が複数面みられる	
敲石	砂岩の棒状鏢 尾勢山産滑結凝灰岩の扁平円鏢		

第4表 縄文時代後・晩期石器分類表

263・265・266の紐掛け部は剥離をおこなった後、敲打を加えている。281は、尾鈴山酸性岩類を素材とした石鐮である。もともと厚みのある礫を手頃な大きさに割り、剥離によって紐欠け部を作り出している。287は、剥離面が少なく、紐掛け部の縁辺には、顕著な潰れが認められるため、紐掛け部は敲打もしくは擦りによる作出しと考えられる。片方には、紐掛け部を作り出した後におこなわれた剥離がみられる。また、紐掛け部に直交方向に溝がみられる。溝は剥離や敲打を切っているため、紐を掛ける時の摩擦によるものの可能性が高い。293～298は、やや厚めの礫を素材としている。299は、紐掛け部縁辺の挟りの度合いが低く、帯状に潰れが顕著に見られるため、両極打法の使用が想定される。295・296は棒状の礫を素材としており他のⅠ類と様相が異なる。

Ⅱ類

Ⅱ類は、553点中34点とⅠ類に比べ数は極端に減る。紐掛け部の位置が短軸方向にあること、また、素材の礫自体が長短比1:1のものであることがⅠ類とは異なる点である。製作技法はⅠ類と同様である。

309は、もとは縦長であったであろう礫を器体の両端それぞれ1/3におよぶまで剥離によって紐掛け部を作出している。

Ⅲ類

Ⅲ類もⅡ類同様、紐掛け部の位置に違いはあるものの、製作技法の点では、Ⅰ類でみられる技術がほぼあてはまる。出土総数553点中5点が該当する。

311は、四方に線状の顕著な潰れがみられる。すべて剥離のなかで潰れの範囲は収まるため、紐を掛けた時の痕跡の可能性が高い。315は、剥離と敲打、もしくは擦りによって作られた紐掛け部にまで赤化がおよんでいるため、石鐮として使われたのち、礫が赤化していると判断できる。

【打製石斧（第71～74図）】

二・三次調査では、打製石斧は未成品・破損品等を含めると145点出土している。そのうち27点図化している。本遺跡の打製石斧は、着装の仕様や、破損後の変形と機能・用途の差を考慮した分類がなされている（第4表）。

Ⅰ類

出土総数145点中29点が該当する。そのうち1点を図化している。316は、基部が欠損しており、詳細は不明であるが、両側縁はほぼ直線に近い。ただし、純粋に長方形というわけではなく、体部中央にわずかながら挟りが見られる。

Ⅲ類

出土総数145点中14点が該当する。そのうち6点を図化している。317～319はⅡa類から連続する長台形のⅢa類である。317は幅が狭く器厚も薄い。体部上半にわずかであるが、挟りが確認できる。318は、砂岩製である。礫を薄く打ち割った後、両側縁部に細かい剥離を施している。319は基部が欠損している。また、体部中央から刃部にかけて、板状に剥離しており、薄い。320は、やや小ぶりである。両面ともに両側縁に調整加工が施されている。321は片方に素材の礫面を残し、側縁に剥離を施している。風化が著しく稜線は明瞭ではない。322は、両面ともに粗雑な調整加工が施されている。縦断面は湾曲しており、刃部については、湾曲した側は、剥離は少なく、平らな面をもつ。擦痕等は、摩滅しており明瞭ではない。尖った刃部をもつ。上記のいずれもⅢb類にあたる打製石斧である。

Ⅳ類

出土総数145点中10点が該当する。そのうち3点を図化している。323は、一方に礫面を残す。基部に細かい剥離を加え、刃部には一部擦痕が見られる。324は、両面中央部は節理面である。側縁と刃部に調整加工を施している。片方に、何かで引っ掻いたような筋状の痕跡が見られる。この痕跡は、剥離に切られていることが観察できるため、製作時についたものであると判断している。325は、Ⅳa類にあたる。両面に調整加工を施している。基部付近で装柄時の痕跡の可能性が高い。側縁の端から端に線状の潰れが確認できる。326は大型で、片方に素材の礫面を残す、円刃の打製石斧である。一方は主要剥離面を残し、粗雑な調整加工を施すのみである。Ⅳb類にあたる。

Ⅴ類

出土総数145点中13点が該当する。そのうち2点を図化している。323は、338は、両側縁がほぼ並行するⅤa類である。基部と刃部の一部に敲打痕がみられる。337は、刃部に擦痕が見られる。使用時の摩滅と

いうよりも、研磨で刃部を成形しているため、製作時についた痕跡の可能性が高い。V類である。

VI類

出土総数145点中7点が該当する。327は、刃部形態からVI b類とする。小型であり、括れ部分に若干の摩滅がみられる。328は、両面に礫面を残し、特に基部は礫本来の丸みが残る。円形が連結したような形状である。括れ部以外は粗雑な調整加工を施している。括れ部には、一部潰れが観察される。329は、基部が破損しているが、おおよそ体部中央に括れをもつ。粗雑な剥離が目立つ。括れ部の片方に小さな袈りが入り、反対側は、緩やかに括れる。330は柄部が欠損している。欠損面から推測して、柄部は短い。袈りを入れるため、丁寧な調整加工が施されている。いずれもVI類である。

VII類

出土総数145点中2点が該当する。331は、基部が欠損しており、全体の形状は不明であるが、欠損面から推測して、おそらくVII類と推定される。袈りが明瞭ではないが、両側縁の調整加工が、他と比べ細かい。片面には礫面を残す。VII a類である。

VIII類

339は、柄部が長く下半は狭小（VIII b類）である。風化が著しく調整加工は不明瞭である。

IX類

出土総数145点中4点が該当する。335は、柄部に細かい調整加工が施される以外は、粗雑な剥離が目立つ。刃部が斜めに欠損している。

X類

出土総数145点中9点が該当する。332は、全体的に風化が著しいため、調整は明瞭ではない。柄部が円形でVII a類にも類似するが、明らかに肩部を持つため、X類とした。333は、器厚は薄く、肩部から刃部にかけて、側縁に細かい剥離が見られる。刃部が斜めに欠損している。334は、長方形の長軸の一端に柄部が組み合わさるX a類である。柄部から刃部にかけて側縁に調整加工を施す。幅広の刃部であり、一部欠損している。340・341は、いずれも平面形が、先端が尖った形状をしている（矢印型）。341は、基部の片面のみ、摩耗している部分がある。片面にしかみられないため、着柄時の接地面として、平らに加工した際の痕跡

である可能性が高い。

【磨製石斧】（第76～77図）

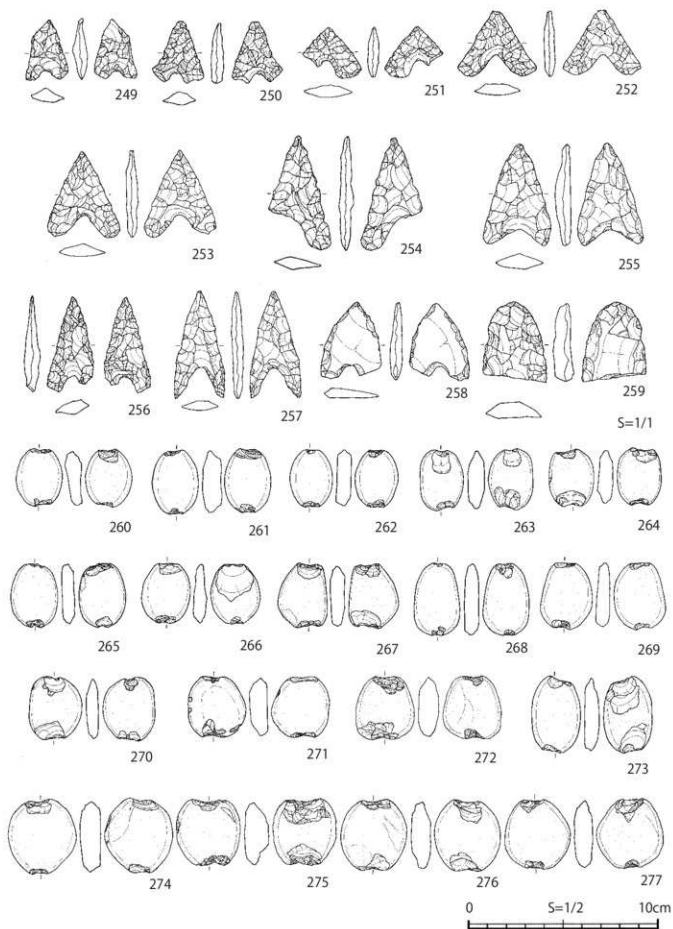
二・三次調査で出土した磨製石斧は総計63点であり、そのうち9点図化している。一次調査での分類は平面形態をもとに、五つに大別しているが、今回は、掲載分すべてが、その分類に則さないため、個別の報告にとどめる。

342・343は、両側縁がほぼ平行する。いわゆる「乳棒状」の石斧である。細長い礫を素材とし、両側縁は敲打で整形し、表裏面に部分的であるが、研磨が見られる。342には敲打→剥離の成形工程が観察できる。ただし、刃部の剥離は、製作段階の可能性は低い。体部下半に鉄分の付着が見られる。343の基部は剥離で成形されている。344は刃部側に向かって、やや広がり、中央部に敲打による整形後の研磨が見られる。2点とも刃部が欠損している。345～347は、基部側が細くなる。敲打による整形はいずれも変わらないが、346は礫面のカーブをそのまま基部としており、側面も礫面をそのまま使用した部分と、敲打によって整形された部分がみられる。345・347は敲打による整形後、研磨を行っている。すべて刃部が欠損している。348～350はさらに基部が先細り尖っている。349は、大きな剥片を剥離によって成形し、基部は敲打によって整形している。刃部は礫面を利用しているが、整形方法は不明。全体的に風化が進み、稜線が不明瞭である。348・350は全面、敲打による整形を行っている。この2本は、刃部が欠損している。

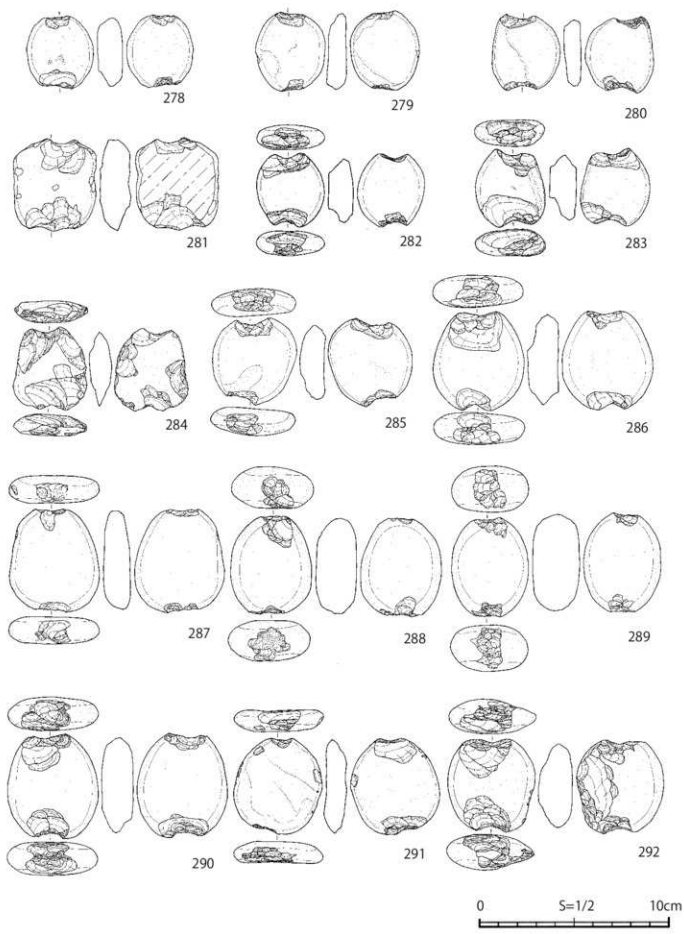
他の石斧と性格が異なるものに351（第75図）が挙げられる。小型で、全面研磨を施している。側面に一部剥離がみられるが、全面研磨後の剥離であるため、意図的な剥離とは考えにくい。石材は、白色流紋岩がホルンフェルス化したものであり、白色の石斧である。上記の磨製石斧と比べ、この個体は、非常に小型で、石材も異質である。

【磨石】（第76図）

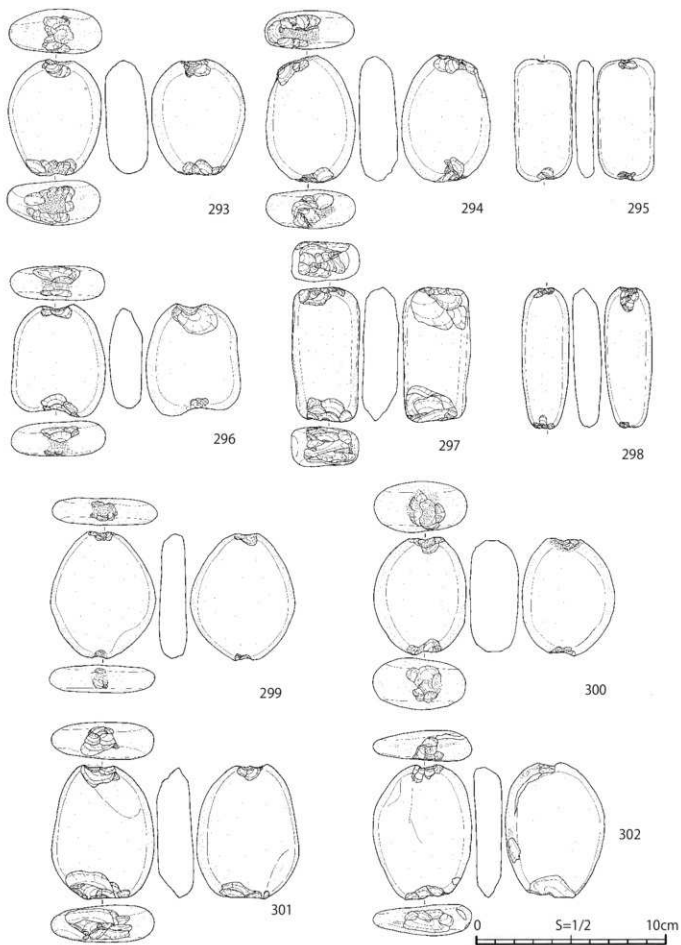
59点出土し、そのうち12点図化している。主に円礫を素材とし、使用にともなう摩滅が見られるものを挙げている。一次調査のIV類にあたる、周縁に敲打痕が観察できる敲石の範疇に入る資料がほとんどであるが、摩滅が観察できるものについては、磨石とした。



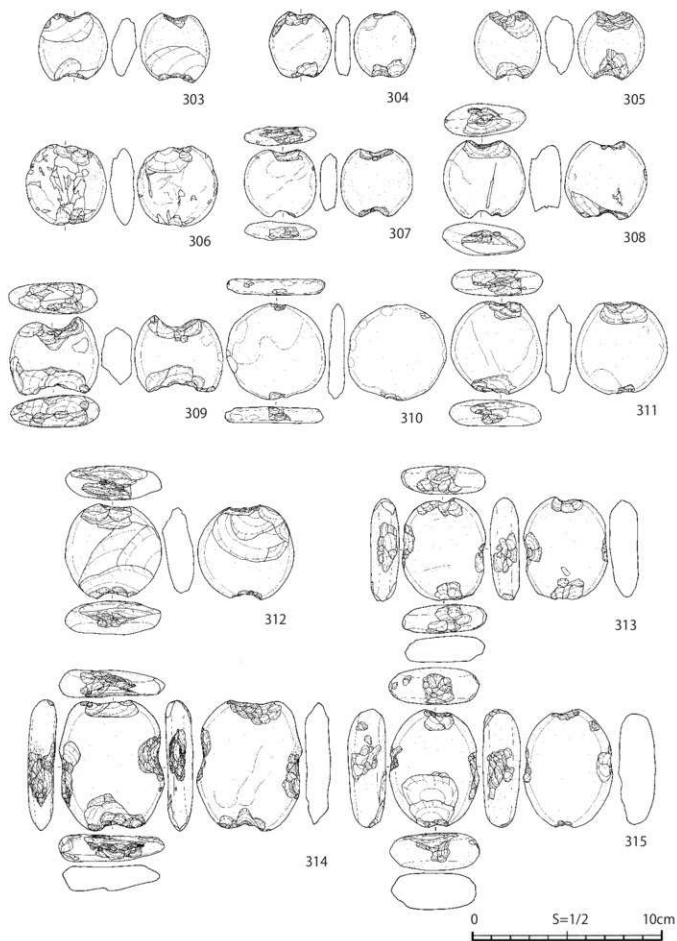
第 68 図 縄文時代早期・後・晚期石器（石鏃・石錘）実測図



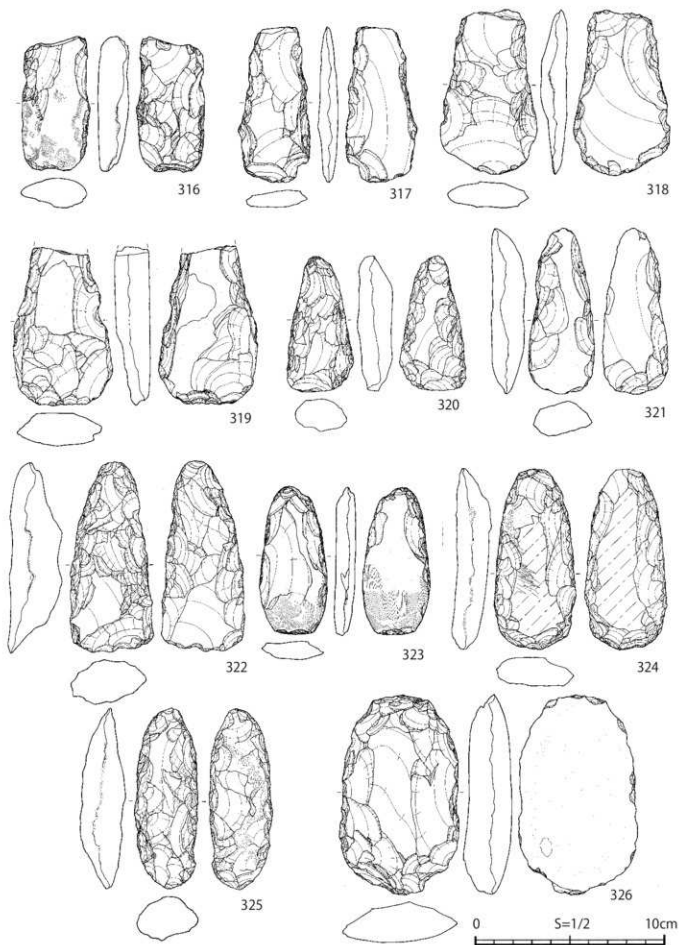
第 69 図 縄文時代後・晩期石器 (石錘) 実測図 (1)



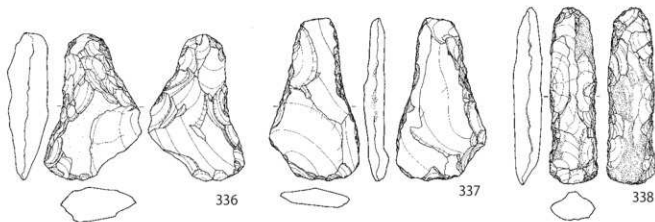
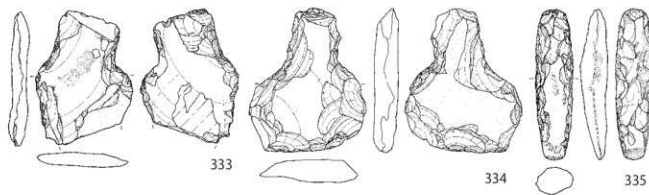
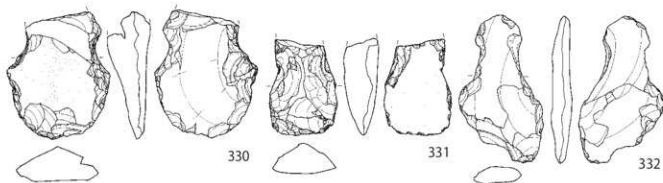
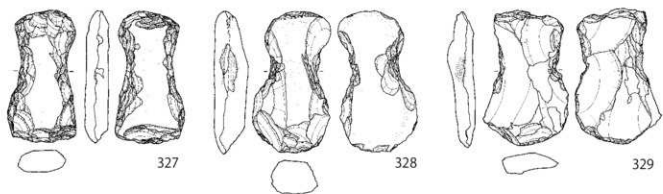
第70図 縄文時代後・晩期石器(石錘)実測図(2)



第71図 縄文時代後・晩期石器（石鍾）実測図（3）

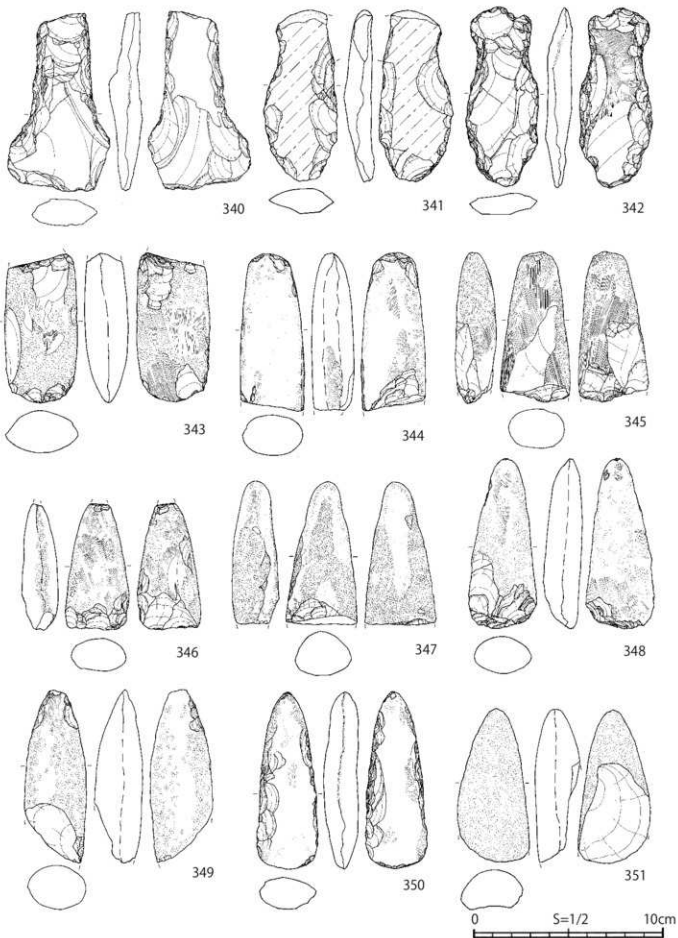


第72図 縄文時代後・晩期石器(石斧)実測図(1)



0 5=1/2 10cm

第73図 縄文時代後・晩期石器(石斧)実測図(2)



第74図 縄文時代後・晩期石器（石斧）実測図（3）

I類

出土総数59点中15点が該当する。352は、両面に摩擦痕がみられる。周縁部は未加工・未使用であり、礫面を残す。

III類

出土総数59点中32点が該当する。大きさは大小様々である。354・356・358は単一面の敲打痕が周縁を巡るもの(III a類)にあたり、352・355・359は敲打痕が、部分的に見られる(III b類)ものである。

IV類

出土総数59点中12点が該当する。摩擦面に対して、やや斜め方向からの敲打痕が見られる。360・362・363は複数面の敲打痕が、周縁を巡り、側面の稜線が直線的に見える。361は、敲打痕は、周縁に巡るのではなく両端にしか見られない。

【凹石】(第77図)

円礫を素材とし、平坦に近い面を敲打によって凹みが形成された石器である。出土した7点すべて図化している。365・368は、平坦面の凹み以外に、長軸側縁に敲打痕が残り、敲石としての使用も想定できる。366は、平坦面ではなく、礫の一番盛り上がっている部分に凹みが見られる。369は、長軸側に石錘の紐掛け部のような剥離と潰れが、一方のみ確認できる。

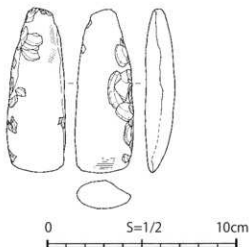
【敲石】(第77～78図)

今回の調査で46点の敲石が出土している。そのうち図化したものは7点である。棒状の礫を素材とし、長軸の両端もしくは、一端に敲打痕が見られるものと、磨石に含まれるもので、扁平な礫を素材とし、周縁に敲打痕が認められるものがある。

370～374はすべて前者にあたる。373・378は、長軸側だけではなく、短軸側もしくは側縁にも敲打痕が見られる。370は、扁平な礫を素材としている。風化が著しいため明瞭ではないが、周縁に剥離と、敲打痕がみられる。側面と平坦面の間に溝状の凹みが見られ、373・378のもののように、単純に使用による敲打とは性格が異なる。

【円盤状石器】(第78図)

3点を当該器種とした。380は小型品であり、素材の礫の周縁に部分的に剥離による整形を行っている。377は扁平な礫の周縁に剥離によって整形している。



第75図 縄文時代後・晩期石器(石斧)実測図(4)

381は、大きな礫から剥片を割出し、その剥片に剥離整形を行いさらに周縁には、細かい剥離を施している。

【台石・石皿】(第78図)

完形で残っているものがなく、2点のみ掲載している。379は中央部分に摩擦がみられ、一部敲打痕も確認できる。380は、扁平な礫の一部で中央付近が、摩擦している。全体が赤化しているため、集石遺構の配石に使用されていた可能性もある。

【土器および土製品】(第79～85図)

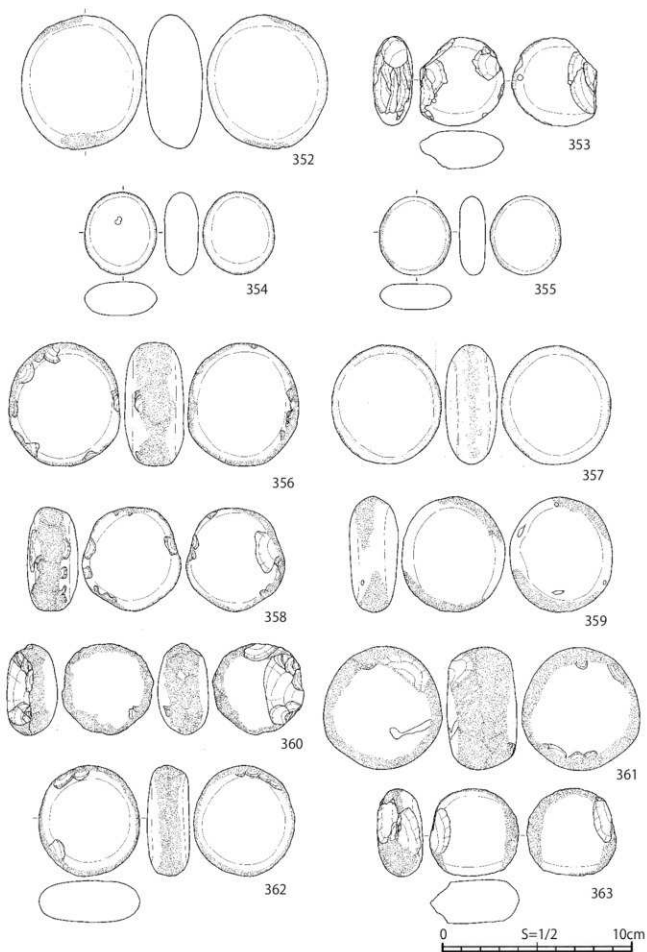
包含層出土の土器は破片資料が多く、全体の形状を把握できるものが無い。そのため、特徴のある文様をもつものや、口縁部、底部などの、パーツごとの抽出となった。接合に関しては、今回の調査区と隣接する一次調査区出土の膨大な資料との接合が必要となるため、時間的な制約上行えなかった。

各分類については、一次調査の報告で文様を中心に1～VI群に詳細な分類を行っているため、二・三次調査もそれに基づき分類を行い、以下で報告することとする。なお、遺構出土としているものであっても、ほとんどピットからの出土であるため、遺構の時期を決める上で、有効でない出土状況のものや一括性のない資料である。これらに関しては、包含層出土資料とともに、報告したい。

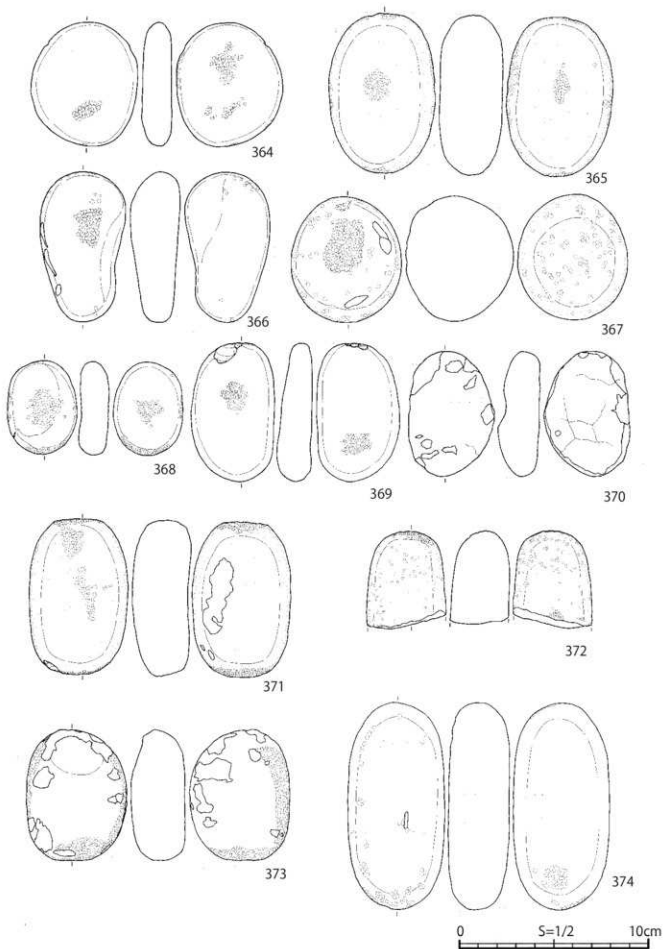
各分類基準は第5表に記したとおりであり、各遺物の詳細は第11表を参照されたい。

【第1群 貝殻文系】(第79図)

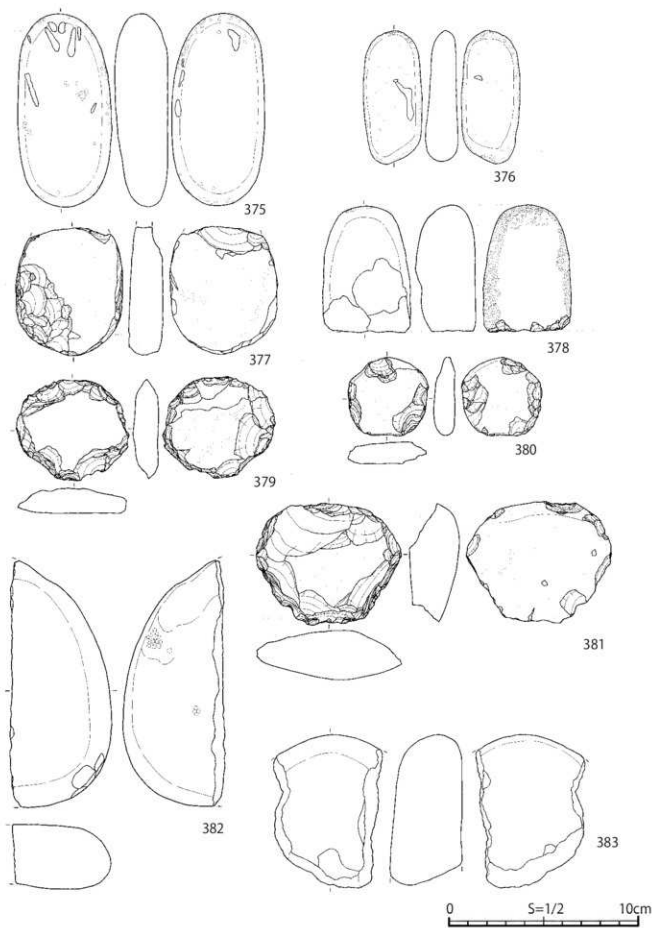
384～392が該当する。384・385は、口縁部が、ゆる



第 76 図 縄文時代後・晩期石器（磨石）実測図



第77図 縄文時代後・晩期石器（凹石・鼓石）実測図



第78図 縄文時代後・晩期石器（敲石・円板状石器・台石）実測図

やかな「く」の字状をなす。貝殻縁刺突文が施されており、385は、二条施文している。内面と、外面の器面調整は、貝殻による調整の後、ナデ調整を行い、文様を施している。1類A-1にあたる。387は、丸みをおびる口縁をもつ。386・389は口唇部が平らに成形されている。いずれも内・外面の器面調整は、貝殻によるものである。1類A-2にあたる。396は、遺構出土である。施文部分は、粘土を継ぎ足している。竹管文が施されている口縁部以外はミガキ調整であり、施文部分は、ナデ調整後、ランダムに施文している。394も同様に内・外面ともに施文部分以外は、ミガキ調整である。竹管文施文部分と、口唇部に赤色顔料が確認できる。3段文様を施している。1類B-iである。393・395は、口唇部に粘土粒を貼り付けている。1類B-iiである。脚部は2点出土している。いずれも、内外面ともナデ調整である。397は、赤色顔料が付着している。

【第2群 磨消縄文系】(第79～81図)

399～431が該当する。402～408は、3-①類にあたる。口唇部をつまみあげ、断面形が鋭角三角形である。いずれも内面に沈線文を施す。409～416は、口唇部に「く」の字状に屈曲し、上部部に平坦面をつくる一群である。412～416は内面に沈線文を施し、409・410は内面が無文であるが、411は粘土を重ね、上部部で折り返すことによって段差を作り出している。412は沈線ではなく、ナデによって、段差をつけている。これらは3-②類にあたる。418・419は、口唇部が屈曲せず、直線的で、上部は平坦である。内面には、一条の凹線を施している。417は内面に2条の沈線を施す。3-③類にあたる。

425～431は胴部である。425～429までの文様モチーフは、平行沈線文と磨消縄文で、425・429の頸部には、連続刺突文が施される。いずれも球形を基調とした器形である。430・431は頸部に平行沈線文、胴部に半円状の沈線文を施す。431は縄目が残っている。447は高坏の脚部である。内・外面ともにナデ調整であり、下部と、頸部に二条の沈線文を施している。また、2段の沈線文には挟まれた、中間に穿孔が確認できる。

【第4群 黒色磨研系】(第83図)

432～439は、凹線が2条のものと、3条のものがある。すべて内・外面ともミガキが施される。432～438はミガキによる凹線文であるが、439は工具によって段差をつくっている。B-1類である。437は、口縁部は短く、頸部からゆるやかに外反する口縁部をもち、下部に明確な凹線文を施す。内・外面ともにミガキ調整が施されている。B-3類にあたる。440～444はB-4類である。440・441は口縁部が長く、442～444は短い。441・443・444は口縁部上端の外面にも沈線が一条入る。すべてミガキによる調整が施されている。445・446は、B-5類である。445は口縁部に凹線が入る。

【第5群 突帯文系】(第82図)

1-①類は、448・449が該当する。口縁部の上端から粘土をかぶせるように継ぎ足し、突帯状に成形する。突帯の断面は、448はM字型で、449は半円形である。1-②類は、450～454が該当し、口縁部に粘土を貼付け、突帯をつまみ出し、突帯状文としている。2類にも突帯文の成形過程に違いが見られる。455～458は、粘土を上端から継ぎ足し、突帯文とし、その下に孔列文を施す。458は、突帯文として認識しづらいが、若干粘土を継ぎ足し、突帯状に成形している。459・460は粘土をつまみ出し、その下に孔列文を施している。461は単純に口縁部に粘土を継ぎ足し、突帯状に成形せずに孔列文を施している。また、穿孔についてであるが、455は、内面まで貫通しているが、その他のものは、途中で穿孔が止まっている。

【第6群 無文系】(第83図)

468～470が該当する。いずれも口縁部の外反は緩やかであり、それに伴い、頸部内面の稜も緩やかである。

【その他】(第83図)

471～476までは、各類型にあてはめるのが困難であった資料である。471・474は、皿の口縁部で474は、二条の沈線を施す。471は、口縁部にナデによる凹みが見られる。外面は貝殻条痕調整の後、ナデ調整を施している。476は深鉢の口縁部で、断面形態が「く」の字状に屈曲し斜め方向の刻みが施される。屈曲部のすぐ下に穿孔が認められる。473は、口唇に沿って貝殻刺突文を施し、外面はさらに二条の沈線を施した

1群 貝殻文系	1類	丸尾式	A 深鉢	1 貝殻による施文
				2 無文
				i 半截竹管文
				ii 突帯文・粘土貼付
				iii 沈線文
B 脚台付皿	iv 貝殻文			
	v i + ii			
	1類 西平式			
	2類 太郎迫式	i 有文		
	3類 三万田式 並行期	ii 無文		
① 断面三角形、口唇部つまみあげる				
② 断面三角形、①より鈍角				
4類 型式分類不可	③ ②より鈍角			
3群 沈線文系	1類 直線			
	2類 曲線			
	3類 弧状			
4群 黒色磨研系	三万田式～天城式 並行期	A 鉢	B 浅鉢	1 胴部から口縁部が屈曲して立ち上がる。口縁部が文様帯。
				2 胴部の上に内湾する頸部がある。口縁部は頸部から直線的に立ち上がり、口縁部と胴部最大径が文様帯。
				3 胴部の上に内湾する頸部がある。頸部からゆるやかに外反する口縁部が続く。
				4 3よりも口縁部が長く、外反する。
				5 屈曲する胴部から「く」の字形の口縁部が続く。
C 注口土器	D 高坏	i 沈線文	① 2本	
		ii 凹線文	② 3本	
			(一) 凹線間丸い (二) 凹線間の稜上突る	
iii 無文				
5群 突帯文系	1類 無刻目突帯文	① 口縁部上端から粘土凝ぎ足し一突帯状に成形		
	2類 無刻目突帯文十孔列文	② 突帯部つまみだし		
	3類 刻目突帯文	③ 突帯断面半月形		
6群 無文系	1類 やや外反する口縁部+ゆるやかに屈曲する胴部			
	2類 やや外反する口縁部+砲弾形の胴部			

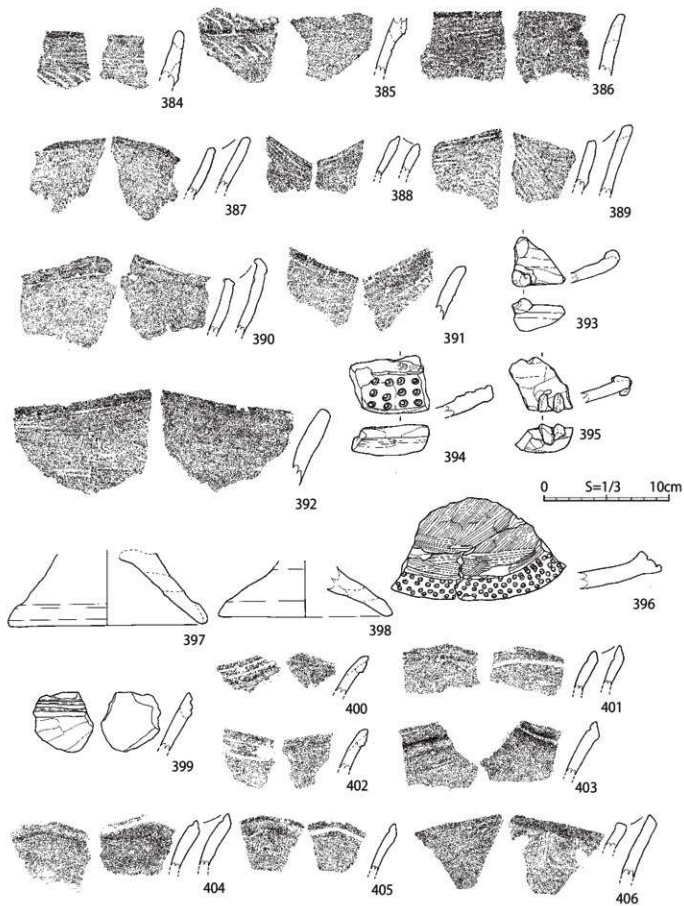
底部

1類	形態	① 大ぶりの底部から直線的な胴部へと至る。
		② 張り出しのある①
		③ 小型の底部からゆるやかに張り出した胴部に至る。
2類	接地部	① 接地部が鋭角
		② 接地部が鈍角
		③ 接地部が平坦

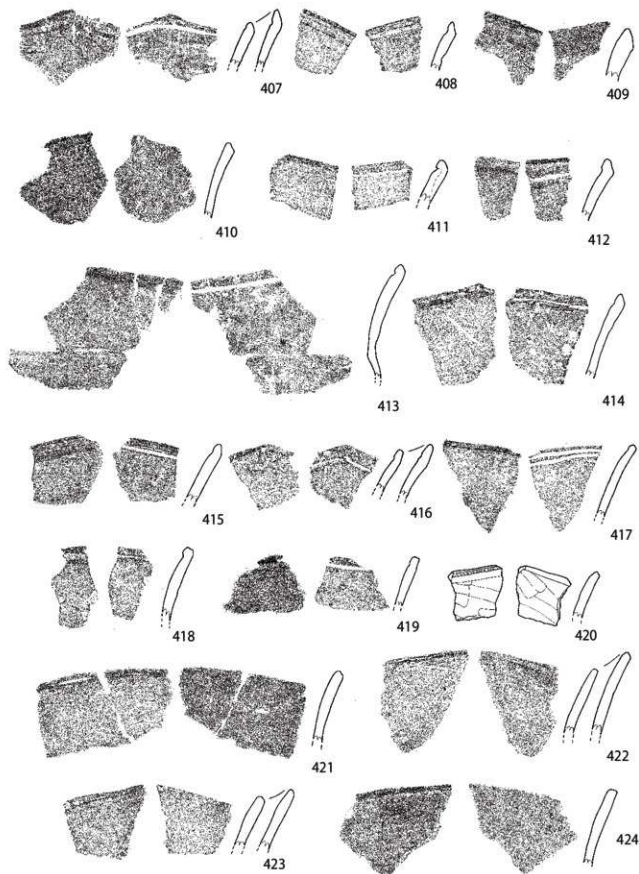
土器片鉢

平面形態	1類 楕円形
	2類 方形 (隅円方形)
紐掛部の位置	A 長軸側
	B 短軸側

第5表 縄文時代後・晩期土器分類表

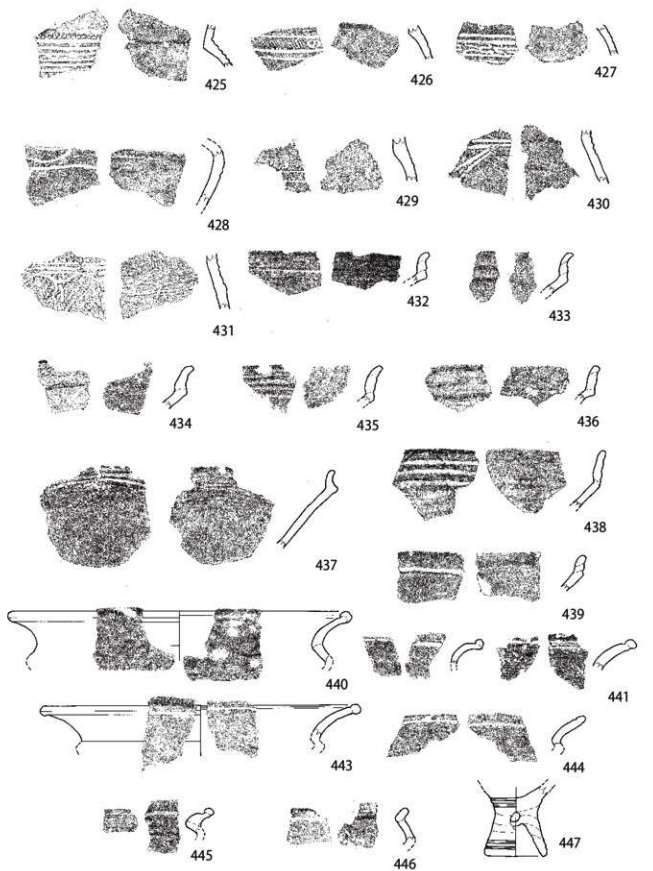


第79図 縄文時代後・晩期土器（第1・2群）実測図



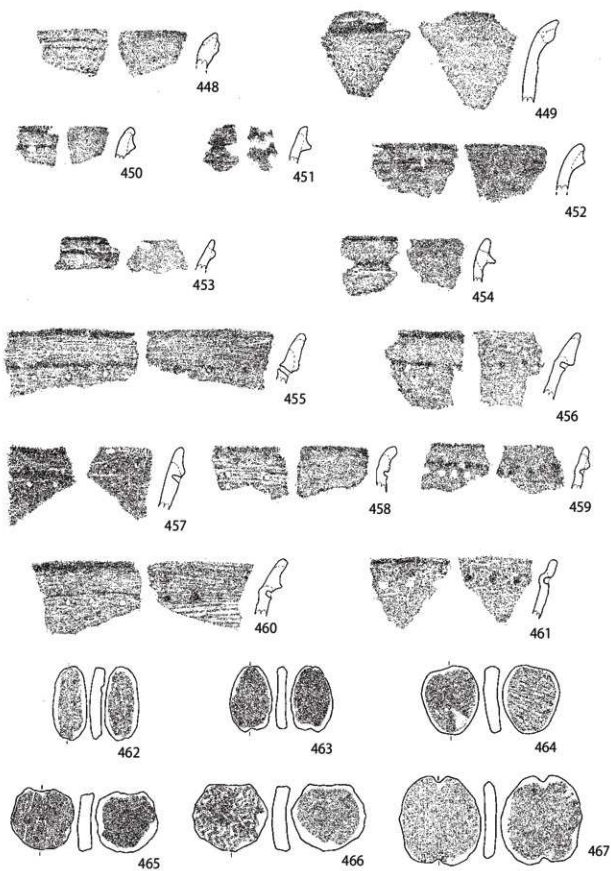
0 S=1/3 10cm

第80図 縄文時代後・晩期土器（第2群）実測図



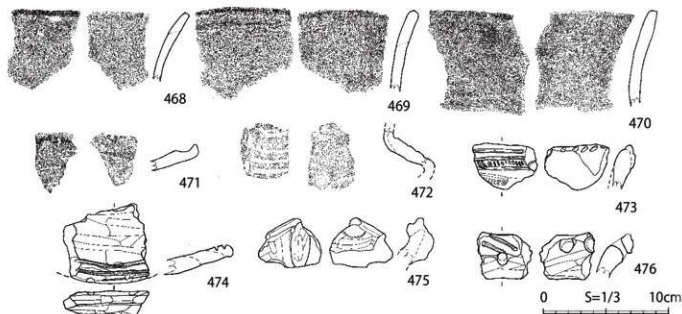
0 5=1/3 10cm

第 81 図 縄文時代後・晩期土器 (第 3 群) 実測図



0 S=1/3 10cm

第82図 縄文時代後・晩期土器（第5群・土器片鍾）実測図



第83図 縄文時代後・晩期土器 (第6群・その他) 実測図

後、貝殻刺突文を施している。その下には、一条の沈線が施されており、内面はミガキ調整である。外面の調整より内面の調整は丁寧であり、穿孔は口唇部に対してほぼ垂直に穿たれているため、脚台付皿の皿部の類と推測される。472は胴部が強く屈曲し、幅の狭い施文帯に磨消縄文を施す鉢の肩部であろうか。475は口縁部に楕円形の突起を持っている。

【土製品】(第82図)

土器片鏟

462～464は1-A類である。462・463は長楕円形で、小ぶりである。内・外面とも、ナデ調整が主体である。464は内面が貝殻条痕調整であり、第1群の土器を転用し、整形した可能性が高い。

467は大型のものである。内・外面ともナデ調整が主体である。一部、被熱によるものである可能性が高い変色が見られる。465は口縁部を転用したものであり、外面には、沈線が施され、一部ナデ調整により、潰れている。466は、横走する山形押型文の深鉢の口縁部を転用し制作したものである。

【底部】(第84・85図)

底部に関しては、一次調査の報告にもあったように、完形が出土していないためどの底部が、どの類型と組み合わせるのか、特定するのは非常に困難である。よって、ここでも底部は文様主体の分類ではなく、器形による分類をおこない報告することとする。

1類 平底

① (第84図477～480)

平底である。477は若干括れが見られるが、ほぼ直線的に胴部へ立ち上がる。底部から胴部への立ち上がり部分は、①底面内部、②底面もしくは底面外周、③胴部のパーツに分け、粘土を積み成形している。

② (第84図481～486)

底部が張り出す一群である。張り出した部分、あるいは、括れ部分に粘土を継ぎ足すのが特徴である。

③ (第84図487～497)

底部から緩やかに張り出した胴部をもつ一群である。底面は丸型の粘土で、そこから粘土紐を積み上げて胴部を成形している可能性が高い。

2類 上底

① (第84・85図498・499)

底部の設地面が鋭角である。出土量はきわめて少ない。底面の外周に粘土を継ぎ足し、底部から胴部を成形する際のナデ調整により設地面が鋭角になっている。

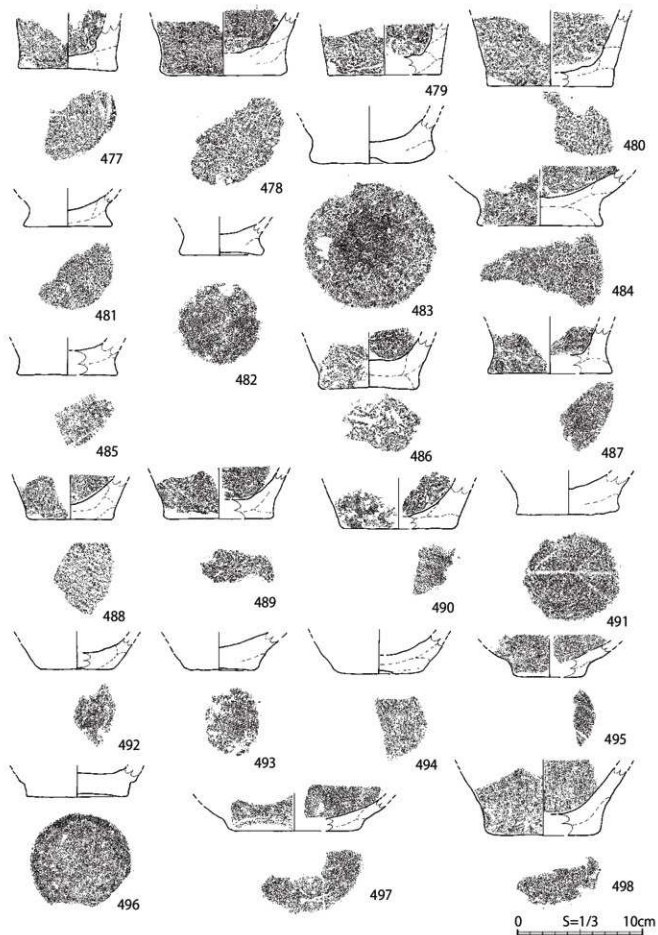
② (第85図500～509)

底部の設地面は鈍角である。基本的には①と成形手法は同様である。503は乾燥により、粘土の接着がうまくいっておらず、底部を残し、きれいに剥離している。調整はミガキ調整のものもある。

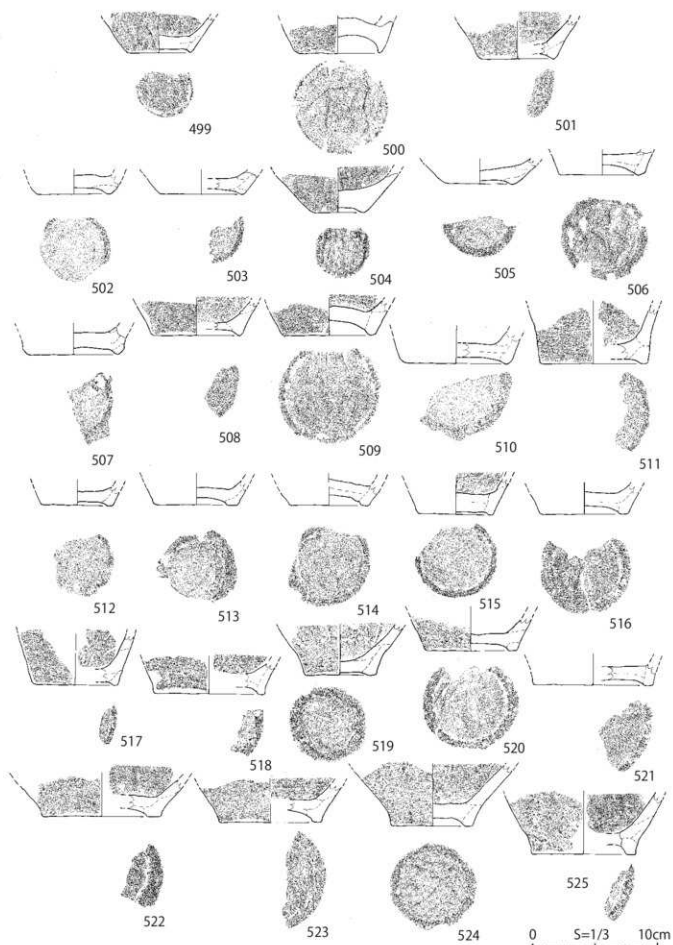
③ (第85図510～525)

出土量が多い一群である。設地面は、底面の外周に粘土を継ぎ足し、底面を平らに成形している。

内部に丸くススが付着しているものが多い。



第 84 図 縄文時代後・晩期土器（底部 1 類）実測図



第 85 図 縄文時代後・晩期土器（底部 2 類）実測図

第3節 古墳時代以降の遺構と遺物

古墳時代の遺構と遺物

【竪穴住居跡】(第86図)

今回の調査では、一次調査のA区で一部確認できていた竪穴住居跡の続きを検出している。

一次調査では、二軒が切り合うと予想されていたが、掘り上げた最終形態が、一次調査時に記録していたプランと軸が一致し、土層堆積状況からも二軒が切り合うような様子が見受けられなかったため、二次調査では一軒の住居跡として記録した。

遺構番号は、一次調査の際つけられた「SA8」としている。4×4mの方形で、中央部分に不定形の凹みを持ち、壁溝がめぐる住居跡である。南西側に1×1.5m、深さ約1mの土坑が掘り込まれている。壁に沿って掘られているものであり、土層の堆積状況からも竪穴住居に伴う住居内土坑と判断している。

【遺物】(第87図)

遺物は、埋土中及び床面直上から甕、鉢、高坏などが出土している。また、瑪瑙の小玉も出土している。そのうち、床面直上の遺物としているものは、甕、鉢、高坏であり、そのうち6点図化している。526・527は鉢で、525はミニチュアの鉢である。527は底部が特徴的で、底面を指で押し、上底にしている。528は高坏である。外・内面とも調整は摩滅しており、不明瞭である。529～531は甕である。外面調整はタタキが主体で、内面はハケ目調整とナデ調整の2種類ある。528・529は他の住居跡から出土したものより、小ぶりである。532は、瑪瑙の小玉である。穿孔部の周囲に、研磨されずに、剥離面が残っている。遺物の出土状況は床面直上で、甕、鉢それぞれ住居跡の南東側に集中しており、中央部分には遺物はほとんど見られなかった。

一次調査では、住居の廃絶時期を甕の編年に頼っており(文献12)、口縁部形態が「く」の字状になり、頭部の稜線が明瞭なA類と、A類よりも立ち上がり角度が大きく直立気味に緩やかに広がり、頭部の稜線が不明瞭なB類の2種類見られることからSA10との切り合い関係を指摘している。一次調査で出土資料の中で、明らかに時期の異なるものは頭部の稜線は不明

瞭で外面のタタキ調整が見られないものが1点ある。しかし、出土状況および、層の詳細が明らかではない。その他は、二次調査出土の529は、内面にハケ目調整があるが、外面はタタキ調整を行うものの、粘土紐接合痕を消しきれておらず、同様のものが一次調査の資料でも確認できている。また、中型品のサイズではあるが、内面はナデ調整で頭部の屈曲も緩やかになるといった一次調査時報告の1551などを挙げると、今塩屋・松永編年でいう4期の範囲内ととらえることができる。このことから、SA8の廃絶時期は5世紀中頃を想定したい。

古代以降の遺物

表土中から、古代の遺物が出土している。いずれの小片であるため、図化したものはわずかである。

【須恵器】(第89図533～534)

2点のみである。533は塊である。534は高台付塊の蓋で、回転ナデ後ケズリが一部見られる。内面が硯として使用されている。

【陶磁器】

出土したものは全て表探資料で、図化に耐えうるものが少ないため掲載していない。

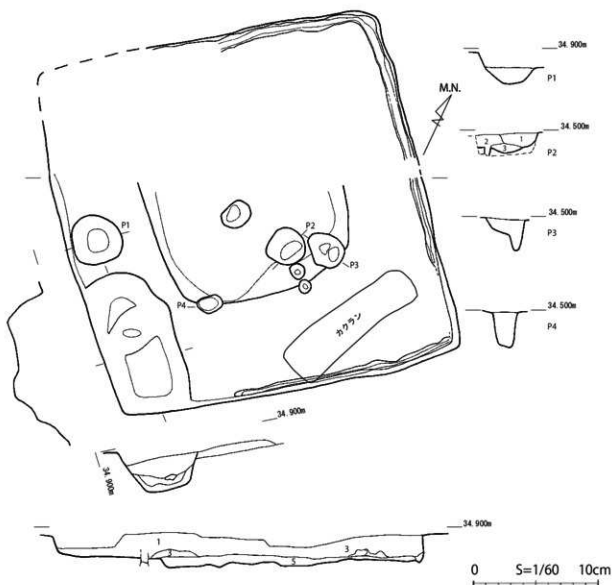
第4節 その他の遺構と遺物

その他の遺構

二・三次調査では、溝を3条検出している。その中には、一次調査で、報告されている溝状遺構の続きがF区北側で見つかっている。プランははっきりせず、深さも浅いため溝というよりも流路に近い。また、F区で時期不明の溝が、H区では近代以降の遺物を多く含む溝が検出されている。

その他の遺物

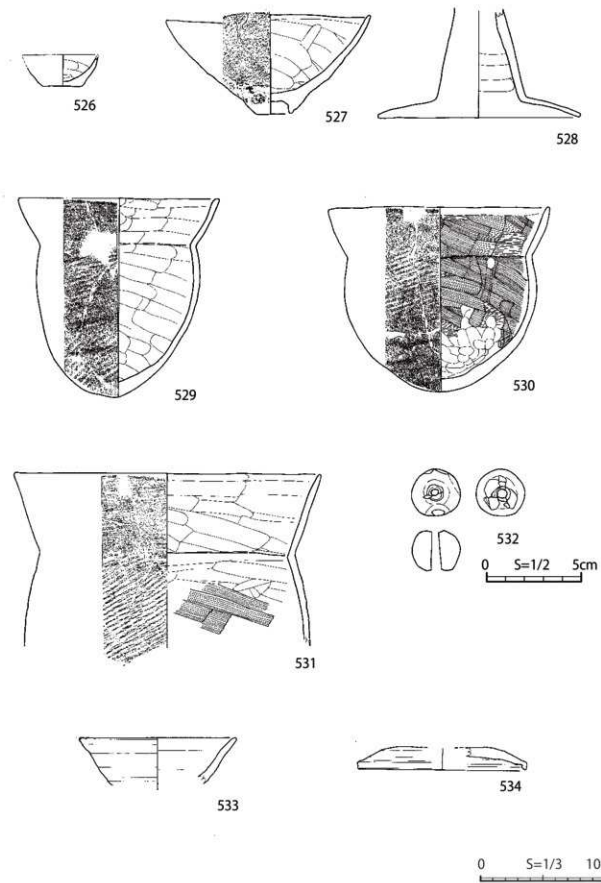
その他遺物としては、三次調査中に表土から「南部8mm弾」の不発弾が表土から出土している。8mm(弾頭直径)×21mm(莖莖)の銃弾である。ドイツでは弾頭が9mm、アメリカでは0.45インチのものを使用しているため、この銃弾は、日本軍使用の銃弾であるといえる。使用拳銃として挙げられるものは十四年式拳銃か九十四式拳銃である。第二次世界大戦関連の遺物では、南中原第1遺跡(一・二次調査)出土の認識表や銃剣がある。



SAB

- 1 黒褐色 (7.5YR2/2) しまり強い、粘性弱い、φ 5cm程度の暗褐色土ブロック (Kr-Kb 由来か) 少量含む。
- 2 黒褐色 (7.5YR2/2) しまり強い、粘性弱い、φ 5cm程度の暗褐色土ブロック (Kr-Kb 由来か) 中量含む。
- 3 黒褐色 (10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、φ 5cm程度の暗褐色土ブロック (Kr-Kb 由来か) 少量含む。
- 4 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強い、粘性やや強い、硬質埋土か。
- 5 黒褐色 (10YR3/2) しまり非常に強い、粘性弱い、φ 5cm程度の暗褐色・黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 6 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや強い、粘性強い。
- 7 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや強い。

第 86 図 古墳時代 SA 8 実測図



第 87 図 SA 8 出土遺物・古墳時代以降の遺物実測図

第四章 調査成果と課題

第1節 縄文時代早期の遺構について

野首第2遺跡の縄文時代早期の遺構で主なものは、炉穴と集石遺構である。今回の報告では、一次調査分も含めておこなっているため、検討対象数は多く、遺跡内である程度の傾向を見いだすことができた。

以下では、本遺跡でみられる集石遺構の形態と集石遺構・炉穴の分布状況について、若干の考察を行っている。

集石遺構について

本遺跡で集石遺構として認定しているものは、一〜三次調査を含めて206基である。これらは、Ⅲ章で述べたように、5タイプに分類することができた。

配石と土坑の形状

配石を有する集石遺構は、47基検出されており、本遺跡での検出数の約3割を占めている。土壌消失現象により削平を受けていたり、二次的な移動が考えられる上部の礫と同様の条件が考えられるⅠ類は今回の検討対象から外し、製作者の意図が反映され、かつ削平・二次的移動の影響を受けにくい配石と土坑の底面形状について検討していきたい。

【Ⅱ類】

配石を持つⅡa類は、土坑の形状・規模にばらつきがある。配石の配置方法も幅広の底面に扁平であることは共通しているが、大きさが一定ではない礫を平置きするものが多い。Ⅱa類は配石をされているものの、その配置の規則性は乏しい集石遺構と考えられる。

【Ⅲ類】

Ⅲa類の土坑は、検出面から30cm以上掘り込まれているものが多く、最も深いもので75cmを測る。上部が土壌消失現象の影響を受けたと仮定すると、掘り込みはさらに深いものであったことが想定できる。このような深いものは、すべて底面に向かって先細りしていくのが特徴である。その中で、今回の分類では細分しなかったが、S161のように、土坑の下部に配石が収まる程度のさらに小さな土坑をもつものが確認されている(第41図)。このタイプの土坑を便宜上「二段土坑」

としておく。「二段土坑」の配石は底面中央に礫を平置きし、それを囲うように、壁に沿って配置する方法がほとんどであり、Ⅲa類全体を通して配置は「二段土坑」に見られる配石の配置方法は共通するものである。二段土坑も含め、底面に向かって段状に狭く掘り込むⅢ類は、同一類型内の配石の配置方法の共通性から、配石をあらかじめ想定した集石遺構であると言える。また、配石に使用される礫に注目してみると、Ⅲa類の配石に使用される礫はどれも扁平で、人頭大以上のものである。重量も上部の礫やⅡa類の礫と比較すると格段に重く、安易に持ち運ぶことが難しいものばかりである。このような礫は、河原か礫層が露出する場所までわざわざ調達しにいかねば手に入らない礫である。持ち運びが難しい礫を調達する労力を考えると、配石を置くことをあらかじめ想定し、極力少ない回数で礫を調達したと考えるのが妥当である。今回の調査では検討に耐えうるデータの集積がなされていないため、今後のデータ収集の視点として提示するにとどめたい。

【野首第2遺跡出土の集石遺構の性格】

物的根拠が乏しいため、集石遺構の機能まで言及することは難しいが、Ⅲa類は土坑の大きさや形態、配石方法について同一の規格をもった集石遺構であり、用途は限られたものであろう。平面規模や配石の有無にばらつきがあるⅡa類は、Ⅲa類に見られるような規格性の強い集石遺構ではなく土坑は大小様々であり、用途に応じて規模や規格が変化した集石遺構であった可能性もある。

【炭素14年代測定と集石遺構】

清武町の滑川第1遺跡では、炭素14年代測定の結果と、集石遺構の特徴から使用時期の時期大別を行っており、川南町の尾花A遺跡でも検討の結果、滑川第1遺跡と同様の結果が得られている。本遺跡でも、13基の集石遺構に対して炭素14年代測定法を実施している。その中で、8200～8400年BPにかけての集石遺構は、土坑・配石を伴うものであることがわかっている。

ただし、上記の2遺跡のように集石遺構に伴う土坑形態の特徴と年代測定の結果からⅡa類とⅢa類の使用時期に明確な差を確認することができなかった。

集石遺構と炉穴の展開

【集石遺構の展開】

本遺跡の集石遺構の分布範囲は、主にA区に中心に押型文土器を伴う集石遺構が集中する傾向にある。B・C区には集石遺構はほとんど見られないが、G区の南側に3基、H区に2基、E区に20基と再び集石遺構が展開している。C・E区で検出された集石遺構は、貝殻条痕文土器を伴うものである。また、北側にⅢa・b類の分布範囲は収まり、南側にはⅢ類の集石遺構がなく集石遺構形態ごとにも分布の差がみられる（第35図）。

【炉穴の展開】

本遺跡で確認された炉穴はA・I区を中心に北側に多く分布し、B・C区は空白地帯である。南側は、H・E区に分布している。集石遺構と同様の状況であり、お互いを切り合うことは少ない。基本的に集石遺構の密度が低い場所に炉穴は分布している。

本遺跡の炉穴は、赤化面を一つしかもたない単独のもの、複数もつものなどで大別できる。また、第Ⅲ章でも触れたとおり、底面がⅥ層（AT層）のものとしてⅤ層のものがある。Ⅴ層を底面とするものは明確な赤化面は存在しないが、埋土の質感や炭化物を含むなどの特徴から炉穴と断定している。一次調査でも同様に明確な赤化面を持たないが炉穴が確認されている。

また、複数の赤化面を持つ炉穴のそれぞれの先後関係に関しては、極めて近い時期に複数の土坑を掘削したためか土層断面では切り合いは確認できなかった。

【集石遺構と炉穴の分布】

集石遺構と炉穴の先後関係については、A・I区で見られる限りでは、炉穴→集石遺構、集石遺構→炉穴の両方が確認できるため、集石遺構と炉穴は一定の期間内に両者が存続していることがわかる。しかし、北側調査区のA・I区に分布する集石遺構はⅢ類が主体であり、南側調査区であるC・E・H区にはⅢ類は存在しないことや、出土土器や検出数の違いは明確であり、遺跡の中央部を空白地帯とし、遺跡の北南で空間利用の違いがある可能性が高い。

今後の課題

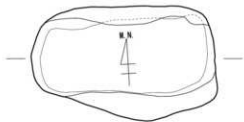
今回の調査により、本遺跡における縄文時代早期の遺構の粗密は、上に挙げたように遺跡の北側と南側に

偏って分布することがわかり、縄文時代早期における本遺跡の空間利用の一端を検出することができた。

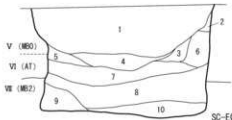
しかし、本遺跡の特徴として、縄文時代早期の層は「土壌消失現象」によって削平を受けていることが挙げられる。よって、I群及び、配石を持たないⅡb、Ⅲb群、また炉穴に伴う土器との関連性の評価は難しいという問題もあるため、時期によって遺跡内で空間利用がどのように変遷するかは検討できていない。

陥し穴状土坑の分布

本遺跡では一次調査において、陥し穴状土坑が2基確認されている。検出面に違いがあるため、深さにはばらつきがあり、底部に逆茂木の痕跡もみられない。陥し穴の厳密な時期比定は難しいが、いずれの土坑も、小林軽石を含む埋土から、小林軽石降灰以降、アカホヤ降灰以前のものの可能性が高く、後期旧石器時代終末～縄文時代早期の範囲に収まる。

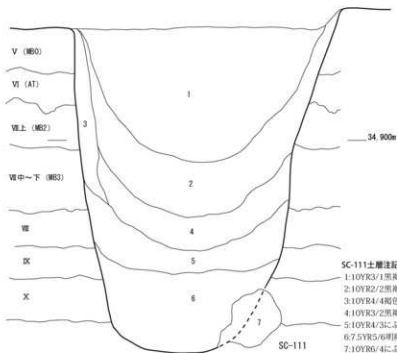
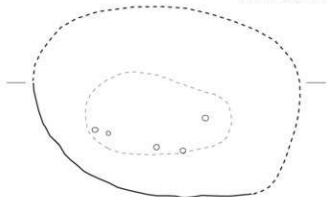


33,800m



SC-E02土層注記

- 1:10YR3/3暗褐色土。しまりが非常に強い、直径1mm程度の黄褐色・白色粒を非常に多く含む。
- 2:10YR3/4暗褐色土。しまりが非常に強い、直径1mm程度の黄褐色・白色粒を非常に多く含む。
- 3:7.5YR3/4暗褐色土。しまりが非常に強い、ザラザラした感触。直径1mm程度の黄褐色・白色粒をやや多く含む。
- 4:10YR3/3暗褐色土。しまりが粘性がやや強い、ザラザラした感触。浅黄褐色ブロックを塊状に含む。
- 5:10YR3/4暗褐色土。しまりが粘性がやや強い、直径1mm以下の白色粒をやや多く含む。
- 6:10YR3/2黒褐色土。しまりが粘性が強い、黒色ブロックを塊状に含む。直径1mm以下の白色粒をやや多く含む。
- 7:10YR3/4暗褐色土。しまりが粘性がやや強い、ザラザラした感触。直径1mm以下の白色粒をやや多く含む。
- 8:10YR3/2黒褐色土。しまりが粘性が強い、浅黄褐色ブロックを塊状に多く含む。
- 9:10YR3/2黒褐色土。しまりが粘性が強い、ザラザラした感触。
- 10:10YR4/3に多い黄褐色土。しまりが強く、粘性が非常に強い、ネジリ鎌で削るとケバ立つ土質。



SC-111土層注記

- 1:10YR3/1黒褐色土。しまりが非常に強い、小林粒石粒を非常に多く含む。
- 2:10YR2/2黒褐色土。しまりが非常に強い、小林粒石粒をやや多く含む。
- 3:10YR4/4黒褐色土。しまりが非常に強い、小林粒石粒をわずかに含む。ブロック状に崩壊。
- 4:10YR3/2黒褐色土。しまりが強い、オガクズ状に崩壊。一部にクミナ構造。
- 5:10YR4/3に多い黄褐色土。しまりが強い、ブロックの集合。一部にクミナ構造。
- 6:7.5YR5/6暗褐色土。しまりが弱い、クミナ構造。
- 7:10YR6/4に多い黄褐色土。粘性が強い、遺構の崩壊。X層を伴い、部分的に7層の土壌が混入。

0 S=1/40 1m

第 88 図 縄文時代陥穴状遺構実測図

第2節 黒曜石の原石について

本遺跡では、F区で桑ノ木津留産と推定される黒曜石が65点出土している（すべて肉眼観察による）。いずれも剥離面はほとんど見られない原石であった。出土層位は、IVb層～V層に集中しており、出土状況もまとまりが見られる（第90図）。これらは、出土層位からすると後期旧石器第VI～VII期の遺物としてとらえられるのだが、層位が下層になるにしたがって数が少なくなるといった円錐形状の出土状況から、ビット状の掘り込みを掘り、その中に原石を埋めたとも考えられる。しかし、調査段階ではビットの存在や、それを掘り込んだ面が特定できない状況であった。また、本遺跡では細石刃だけではなく、石鏃でも桑ノ木津留産の黒曜石を素材とするものもあるということからも、出土原石が後期旧石器時代のもか縄文時代のもかといった時期の確定が難しいことが問題である。

（1）分量について

本遺跡で出土した65点の原石の形状は縦長が多く、最大長の平均2.34cm、最大幅の平均1.79cm、最大厚の平均1.2cm、重量の平均4.81gと、親指の先ほどの大きさの原石が多い。少量だが、石器製作には適さないような小型のものもある（第91・92図）。

（2）県内出土黒曜石の石材組成

以下では、数点程度の製品のみ出土しているものは省き、素材の搬入や、遺跡内で石器製作した可能性を示す原石・石核・剥片が一定量出土している遺跡を挙げ、概要を述べる。

【後期旧石器時代】

後期旧石器時代における黒曜石の利用は主に細石刃製作である。ただし、現段階で、原石での流通は認められず、遺跡内で見られるものは、細石刃核・細石刃が主であり、遺跡内から原石の状態出土する例は1.2点と少ない。細石刃製作に利用される黒曜石の種類は桑ノ木津留産が大半である（文献17）。

【縄文時代】

縄文時代では、早期において石鏃・楔形石器・異形石器などの小型の素材として黒曜石が利用されている。

県内で確認されている原石が出土している遺跡はえ

びの市妙見遺跡と宮崎市天ヶ城跡と本遺跡の3遺跡のみである。いずれも50点以上の原石がまとまって出土している。その中に石器製作に適さない小型の原石が含まれることは注目すべき点であり、交易を考える上で重要な視点となるだろう。

（3）出土原石の用途について

【石器素材としての黒曜石】

宮崎県内における桑ノ木津留産黒曜石の原石を素材とする石器は細石刃、もしくは石鏃である。細石刃の素材として搬入されたと考えると、一次調査で出土している石核や細石刃の存在から、本遺跡出土原石は細石刃の素材として搬入した可能性が高いことが伺える。ただし、接合関係による十分な検討がなされていないため、可能性を越えない。また、打製石鏃に関しては、出土したものはすべて製品であったことや、接合関係が不明瞭のため、調査区内で製作した可能性はきわめて低い。よって、石鏃の素材として搬入されたと考えがたい。いずれにしても、本遺跡内での石器製作状況が明らかでないため、現段階では積極的に出土原石を石器製作のために搬入されたものと評価するに至っていない。

【交換財としての黒曜石】

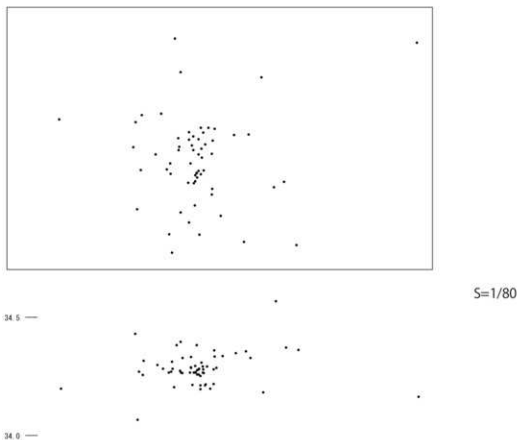
黒曜石の利用目的としてもう一つ挙げられるのは、代価として黒曜石を利用することである。このように考えた理由として、①原石の状態出土している、②石器素材として適さない大きさのものが含まれるといったことがある。そこで、研究が進んでいる関東・中部地方の縄文時代前期と中期末葉における黒曜石交易システムを参考に考えてみたい（文献16）。概要を挙げると、前期から中期初頭までは内陸と沿岸部では交易が異なり、主に石器素材取得を目的とした流通であり、一部に威信財としての原石流通が存在するといったものである。中期初頭で黒曜石の交易は一旦下火になるが、中期末以降に再び黒曜石の流通が活発になり、交易システムが変化する。活発な流通により、粗悪な原石を流通せざるをえない状況になったことで産地の違いに関わらず超小型原石の混入が見られる。石器製作に適さない超小型原石の流通の背景には素材としての原石獲得を目的とした交易ではなく量単位での流通による交易があり、後・晩期の特徴であること

が挙げられている。本遺跡出土原石の中にも「石器製作に適さない小型の原石」が混入している。元来小型である桑ノ木津留産黒曜石だが、その中にも石器製作に適さない「小型」品が含まれることは、石材として搬入するというよりも、黒曜石自体に価値があり、交易が行われていたと考えられる。しかし、先に挙げたように、現状では宮崎県内で50点以上の原石がまとまりをもって出土している例は旧石器時代では確認できていない。また、縄文時代早期でも原産地に近いえびの市妙見遺跡や、宮崎市天ヶ城跡と本遺跡を含めても3遺跡とごくわずかである。また、本遺跡を含め宮崎県内で出土している黒曜石の石材組成が十分に明らかにされていないため、交易の根拠としては薄い。

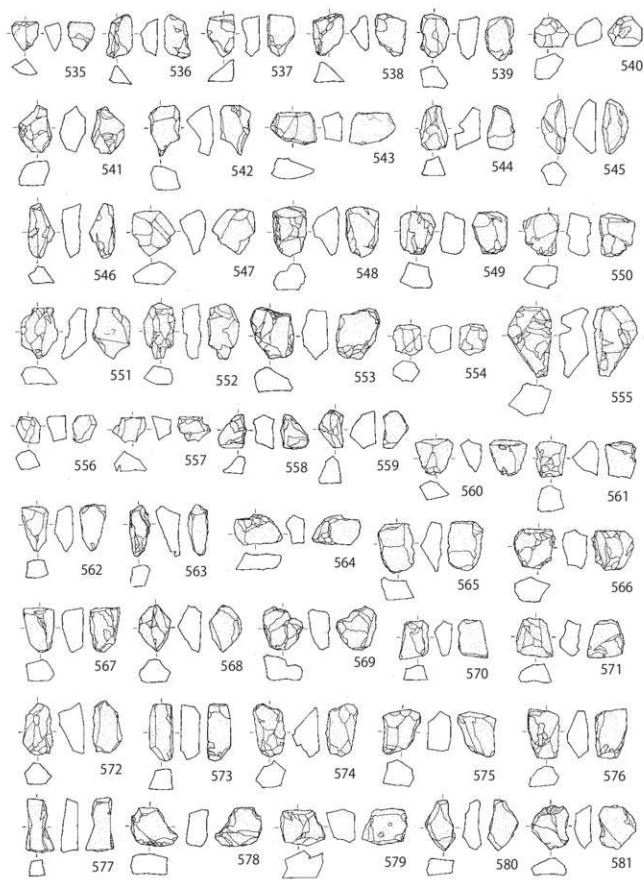
(4) 今後の課題

今回の調査では、野首第2遺跡に原石がまとまりをもって状態を持ちこまれていたことを確認することができた。これらの原石がどのような状況下で野首第2遺跡までもたらされたのかは不明である。また、搬入時期についても疑問が残ったため、今後の資料増加と検討を待ちたい。

今後の課題としては、宮崎県内における桑ノ木津留産黒曜石は小型石器の素材として組成の主体占めることから、後期旧石器時代から縄文時代にかけての小型石器の石材組成の再整理と桑ノ木津留産を素材とする石器における製作技術の検討を行うことが必要である。それにより、本遺跡出土原石のあり方が明らかになるであろう。

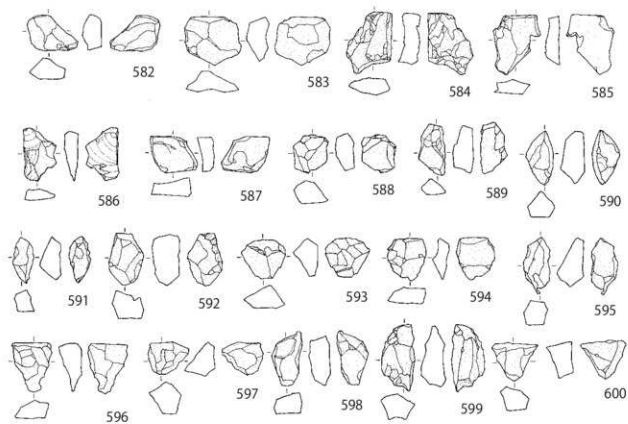


第 89 図 黒曜石原石出土状況図 (S=1/80)



0 S=1/2 5cm

第90图 F区出土黑曜石原石实测图(1)



第 91 图 F 区出土黑曜石原石实测图 (2)

第V章 まとめ

今回の調査をもって、東九州自動車道建設に伴う高鍋地区の発掘調査は全て終了となる。そこで、野首第2遺跡を中心とした周辺遺跡の発掘調査成果をまとめてみたい。

旧石器時代

野首第2遺跡に人々の生活の痕跡が残されたのは今から約25,000年前以上も前のことである。

遺跡の近隣では、谷地形である野首第1遺跡から、現在も湧水がみられ、野首第2遺跡のC区南側にある南中原第1遺跡でも湧水地点が確認され、恵まれた水利環境であるといえる。本遺跡の南西側に台地が広がり、過去には絶好の狩猟場として利用されていたであろう。それを裏付けるように、周辺には大野寅男氏の表面採集活動によって確認された遺跡が多く存在する。

近年では、東九州自動車道建設に伴う発掘調査により、A層を境に、下位・上位ともに資料数は増えている。本遺跡ではA層を境に計7時期の遺物および礫群の集中層が認められる。第1期の石器組成は安定しないが、第Ⅱ・Ⅲ期では、二側縁加工ナイフ形石器や台形鏢石や、接合資料などが出土している。第Ⅳ期のA層直上での切出形石器（埋谷型ナイフ形石器）が一定量出土したことや、第Ⅴ期は、大型・鋸歯状縁加工を特徴とする石器群であること、第Ⅵ期は、ナイフ形石器の終末期に関わる石器群が多く出土しており、ほぼ同じ層から、第Ⅶ期の細石刃石器群も出土している。以上のことから、本遺跡が該当期において、長い間生活の場として機能していたことがうかがえる。

縄文時代

本遺跡では縄文時代草創期後半～早期初頭と想定される爪形文土器が1点確認されている。縄文時代早期には、この地域には数多くの集石遺構と炉穴が残される。集石遺構が多数検出された周辺遺跡には野首第1遺跡、崩戸遺跡、南中原第1遺跡、老瀬坂上第3遺跡、下耳切第3遺跡、大戸ノ口第2遺跡が挙げられる。本遺跡もその一つに挙げられる。縄文時代早期中葉～後葉をピークに牛牧台地には集石遺構と炉穴が大規模に作られている。本遺跡の炉穴は二つの土坑を連結して使用するものを基本とするが、中には複数の炉穴が切り

合った状態であるヤツデ状もしくはアメーバ状に広がりを持つものもあり、焚き口とされる赤化部分を複数持つものがある。一方、集石遺構は炉穴と切り合うものは見られるが、集石遺構同士で切り合うものは少なく、単独で存在するものが多い。集石遺構には5タイプあり、それぞれの分布区域や時期は異なる。縄文時代前期に関しては、宮崎県下でも著しく事例は少ない。野首第1遺跡、崩戸遺跡、大戸ノ口第2遺跡で前期の土器が出土している。中期では下耳切第3遺跡の集落が確認されている。本遺跡では、後期中葉の堅穴住居跡（凹地状遺構）と、後期後葉以降の堅穴住居跡の計26軒の堅穴住居からなる集落が確認されている。円形プランを基調とするが、隅丸方形のものも確認されている。後期後葉以降は、土地改変の可能性を示す痕跡がみられる。土地改変に関しては、調査成果では自然現象か人為的な現象なのか判断としないため一概には言えないが、人為的な現象であれば集落形成に伴い、立地する台地上は、この時期に大規模な造成が行われていると捉えることができる。また、堅穴住居跡が集中する地区と「土器捨て場」のような空間が認められ、当該期の集落の在り方を示す貴重な調査成果となった。また、北陸地域からの流通品であろうヒスイ輝石製の玉類が一定量出土したことは特筆すべき点である。

弥生時代

中期～後期頃にかけて洪積台地上でいくつか集落が見られるのだが、前期の集落の数は少ない。その中でも持田中尾遺跡は前期末～中期初頭にかけての集落として希少な事例である。松菊里型住居に類似した住居跡が確認されており、大陸系磨製石器の出土からも、大陸との関係を知る上で貴重な調査成果となっている。大戸ノ口第2遺跡でも下城式の甕や瀬戸内系の壺の破片などが出土している。これらは、持田中尾遺跡出土の土器と共通する特徴をもつ。本遺跡では、弥生時代後期の土器片がわずかに確認されており、弥生時代に帰属する可能性が高い磨製石鏃、打製石包丁などの石器類が確認されている。周辺遺跡では、野首第1遺跡（県道）からは、弥生時代後期の土坑と土器集中区が確認されている。また遺構は確認されていないが、前期～後期にかけての破片が数十点出土している（東九州自動車道関連）。前述した大戸ノ口第2遺跡でも弥

生時代後期後半～終末の堅穴住居跡が12軒確認されている。特に一括資料が確認される住居跡からは、土師器にみられる特徴を持つものも見られる。

古墳時代

小丸川流域の台地の縁辺には古墳群や横穴墓群、それに伴う集落が集中して存在する。本遺跡の近隣の古墳群としては、小丸川右岸に牛牧古墳群・山王古墳群・野首古墳群、老瀬横穴墓群があり、左岸には持田古墳群や川南古墳群などがある。特に野首古墳群は本遺跡の北斜面上に立地し、近隣の野首第1遺跡では、古墳時代中期後半～後期初頭、後期後半～終末期にかけての集落が調査されている。野首1号墳は、出土遺物から7世紀前半と位置付けられており、後期後半～終末期にかけての堅穴住居跡2軒が、野首古墳群との関連性が高いとされている。その他の古墳時代の集落としては、大戸ノロ第2遺跡があり、その調査区は東側丘陵と西側丘陵の2分され、前者は6世紀初頭の堅穴住居跡が1軒、後者は堅穴住居跡16軒を中心とする6世紀後半の集落跡が確認されている。本遺跡では、34軒の堅穴住居跡が確認されているが、これら住居跡同士の切り合いは少なく、5～6世紀という限られた範囲に営まれた集落であることがわかっている。集落の中には、貯蔵穴も存在し、それらは一時期数軒の住居を一単位としたものに伴うということが調査の結果から明らかになっている。

古代

古代の遺構・遺物に関しては、数は少なく、第1章でも触れたとおり、老瀬坂上第3遺跡、下耳切第3遺跡などがある。老瀬坂上第3遺跡では、8世紀後半の転用された須臾器を蔵骨器としたものを埋葬した土坑墓が検出されている。年代測定で、790～880年といった結果が得られているため、埋葬された時期は平安時代の初期と考えられている。また、8世紀代の坏蓋を転用した硯が出土していることや、下耳切第3遺跡からも7世紀末に推定される円面硯が出土している。これらは、この頃に「識字者」がこの地域に存在していたことを示す貴重な資料である。本遺跡でも、坏蓋を転用した硯が表土中からではあるが出土しており、一次調査でも当該期と思われる道路状遺構・掘立柱建物跡が確認されており、土師器や緑釉陶器、布目瓦等が

出土している。これらの遺物の検討は不十分であるので、今後の課題である。

中世

中世になると、周辺に高城（山城）をはじめとした「耳川（高城）の戦い」に関連する遺跡・遺構が多数ある。近隣遺跡では、野首第1遺跡で掘立柱建物跡2棟・石塔群がある。掘立柱建物跡の立地する場所は、北西は木城から尾鈴山、東には川南・持田の台地と小丸川が見渡せる好条件の場所である。小丸川の水運を考えると、戦乱に備えた施設もしくは、交通の要所としての機能を果たした建物と推測されている。また、崩戸遺跡でも掘立柱建物跡2棟・土坑墓が検出されている。崩戸遺跡の北側は急激に下り、小丸川の現河床に至る地形からも小丸川の水運の要所となっていた場所といえる。本遺跡では、墓穴と考えられる土坑が確認されているが、遺物の出土は少ない。

近世

近世では、高鍋城は高鍋藩の藩庁となり、秋月氏が居城している。野首第1遺跡では、18～19世紀にかけての遺物が出土しており、大規模な造成によって作り出した平場に縁辺を石垣と土塁で囲む屋敷が確認されており、屋敷に関連する墓も2基確認されている。

近・現代

大正12年の高鍋～木城間の鉄道敷設経営計画の議決を受けて、高鍋停車場から木城へ向かう路線が計画された。野首第1遺跡（県道）から南側丘陵にかけて大規模な掘削の跡が3箇所確認されている。調査当初は中世の山城を想定していたが、調査の結果、この鉄道事業に関連するものと推測されている。

第二次世界大戦時には、高鍋は戦場となり、下耳切第3遺跡から老瀬坂上第3遺跡近辺の山中に機関銃台座や砲台を設置し、米軍に備えていた。関連遺物として、南中原第1遺跡で銃剣と認識票が、本遺跡では南部弾が出土している。また、第二次世界大戦前後の入植によってこの地区は大きく改変されており、現在の風景に至っている。そして、野首第2遺跡の三次調査をもって、高鍋町の東九州自動車道関連の調査は全て終了となる。現在、高速道路の建設が進み、周辺はわずかな宅地と畑が残るのみとなった。高速道路の開通により、かつての風景はさらに変わろうとしている。

引用・参考文献

- 文献1：北郡郷土 編1982『特田中尾道跡発掘調査報告書』高瀬町教育委員会
- 文献2：山本 裕 編1995『中尾・牛牧地区道跡農村基盤総合整備パイロット事業尾跡2期地区に伴う埋蔵文化財調査報告書』高瀬町文化財調査報告書第7集 高瀬町教育委員会
- 文献3：吉本正典 編2005『前戸道跡 東九州自動車道（都農～西郡間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書11』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第103集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献4：阿部直人・竹田享志 編2005『老瀬坂上第3道跡 東九州自動車道（都農～西郡間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書23』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第118集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献5：田中 光・藤本 聡・飯田博之 編2004『野首第1道跡 県道本城高瀬線高瀬開通道路・河川緊急整備事業（青木地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第86集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献6：柳田 晴子『尾花坂上道跡 一般県道高瀬美々津地方道路交付金事業（鬼ヶ久保1区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献7：出山高次・高橋浩子・松林豊樹他 編『尾花A道跡1 東九州自動車道（都農～西郡間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書62』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第185集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献8：堀田孝博 編2007『野首第1道跡II 東九州自動車道（都農～西郡間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書50』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第157集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献9：今福屋毅行・都成 量・永田和久 編2006『下耳切第3道跡 東九州自動車道（都農～西郡間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書30』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第125集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献10：岩永哲夫・戸高真知子 編1991『大戸ノ口第2道跡』高瀬町文化財調査報告書第5集 高瀬町教育委員会
- 文献11：松本 茂・重留康宏2007『野首第2道跡 第一分冊：後期旧石器時代～縄文時代早期編 東九州自動車道（都農～西郡間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書51』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第158集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献12：重留康宏・松本 茂2008『野首第2道跡 第二分冊：縄文時代後・晩期以降編 東九州自動車道（都農～西郡間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書59』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第172集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献13：堀江浩史 編2007『南中原第2道跡（一次） 東九州自動車道（都農～西郡間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書54』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第162集 宮崎県埋蔵文化財センター

- 文献14：土屋雄毅2009『南中原第2道跡（二次） 東九州自動車道（都農～西郡間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書61』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第179集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献15：今福屋毅行・松永幸幸2002『旧向における古墳時代中～後期の土師器—宮崎平野部を中心として—』『古墳時代中・後期の土師器—その編年と地域性』第5回九州前方後墳研究会実行委員会
- 文献16：大工原 豊2007『黒曜石交易システム—関東・中部地方の権相』『縄文時代の考古学6ものづくり道具製作の技術と組織』同成社
- 文献17：芝 康次郎2008『宮崎県における黒曜石製石器の原産地推定とその意義—細石刃石器群を中心として—』『宮崎考古』第21号 宮崎考古学会
- 文献18：藤本 聡2002『先史時代における黒曜石の利用—黒曜石の消費地 宮崎—』『Stone Sources』№1 石器原産地研究会
- 参考文献
- 文献：岩永哲夫2006『南九州の押型文』『宮崎考古』第20号 宮崎考古学会
- 文献：水ノ江和典1997『北部九州の縄文後・晩期土器—三万田式から畑川突帯文土器直前まで—』『縄文時代』第8号 縄文時代文化研究会
- 文献：坂本嘉弘1993『東九州における縄文時代晩期開始の問題—大野町夏屋道跡採集の遺物紹介を兼ねて—』『おおいと考古』第8号

第6表 旧石器時代礫郡集石遺構観察表

群No	出土層位	時期認定	調査区	礫分布	構成資料数	石器点数	共存石器	炭化物	備考
1	IV b上	V期	A	やや密	66	0	×	×	
2	V中	V期	A	疎	19	0	×	×	
3	V中+IV b中	V期	A	疎	6	0	×	×	
4	V上	V期	A	小密	11	0	×	×	
5	V上	V期	A	小密	16	0	×	×	10は配石
6	V上	V期	A	疎	12	0	×	×	
7	V上	V期	A	疎	8	0	×	×	完形円礫が目立つ
8	V上	V期	A	単	1	0	×	×	
9	V上	V期	A	小密	5	0	×	×	縄文早期か
10	V上	V期	A	小密	5	0	×	×	
11	V上	V期	A	疎	11	0	×	×	
12	V上~中	V期	A	疎	9	0	×	×	
13	V上	V期	A	疎	6	0	×	×	No. 14と近接
14	V上	V期	A	小密	4	0	×	×	No. 13と近接
15	V上	V期	A	疎+小密	73	0	×	×	広範囲に分布 層分可能か 構成種66・67はV下V上
16	V下VI上	IV期	A	密?	3	0	×	×	配石
17	V上~中	V期	A	やや密	64	0	×	×	構成種21はV中~下、63・64はV下VI上
18	V下VI上	IV期	A	密?	3	0	×	×	構成種1~3は同一個体
19	V下VI上	IV期	A	密			△	○	No. 19-1~7に細分 縄文早期のビットに切られる
20	V下VI上	IV期	A	密	31	0	×	○	
21	V上	V期	A	疎	23	0	×	×	
22	Ⅴ中	Ⅱ期	A	疎	2	0	×	×	
23	Ⅴ中	Ⅱ期	A	疎	7	0	×	×	
24	V上~中	V期	A	疎+やや密	62	0	×	×	
25	V上	V期	A	やや密	70	0	×	×	
26	V下VI上~IV b	IV期	A	疎	36	0	×	×	
27	V下VI上	IV期	A	密	79	0	×	×	
28	IV下V上	V期	A	疎+やや密	132	4	×	×	
28-3	V上~中	V期	A	やや密+密	121	0	×	×	
29	V下VI上	IV期	A	疎+密	76	0	×	×	
30	V下	IV期	A	やや密	10	0	×	×	No. 27・29とは若干レベル差があり上位に位置
31	Ⅴ中~下	Ⅱ期	A	疎	4	1	○	×	
32	Ⅴ中~下	Ⅱ期	A	疎+密	12	1	○	×	
33	Ⅴ上~中	Ⅲ期	A	疎	5	0	×	×	
34	Ⅴ中	Ⅱ期	A	疎+やや密	38	0	×	×	
34-2	Ⅴ中	Ⅱ期	A	密	74	0	×	×	
35	Ⅴ中	Ⅱ期	A	疎	1	0	×	×	配石に変更 近隣群と合成
36	IV b	V期	A	やや密	23	0	×	×	S194に隣接
37	Ⅴ中	Ⅱ期	A	疎+やや密	31	0	×	×	
38	VI下Ⅴ上	Ⅲ期	A	やや密	2	0	×	×	
39	Ⅴ上~中	Ⅲ期	A	疎	6	0	×	×	構成種6はⅤ下Ⅴ上(1期)
40	Ⅴ上	Ⅲ期	A	疎	26	0	×	×	
41	V上	V期	A	疎+やや密	17	0	×	×	
42	IV b	V期	A	疎	5	0	×	×	
43	IV b~V上	V期	A	やや密	35	0	×	×	
44	IV b	V期	A	疎	12	0	×	×	
45	V上	V期	A	疎	15	0	×	×	
46	V上	V期	A	疎	14	0	×	×	
47	V上	V期	A	やや密	25	0	×	×	
48	V上	V期	A	やや密	23	0	×	×	
49	V上	V期	A	疎	25	5	○	×	
50	V上	V期	A	疎	10	2	○	×	
51	Ⅴ上~中	Ⅲ期	A	疎	30	0	×	×	
52	Ⅴ中	Ⅱ期	A	疎	8	0	×	×	
53	Ⅴ中~下	Ⅱ期	A	密	80	0	×	×	
53+61	Ⅴ中	Ⅱ期	A	やや密+密	39	2	○	×	
54	Ⅴ中~下	Ⅱ期	A	やや密	32	0	×	×	
55	Ⅴ中~下	Ⅱ期	A	疎	8	0	×	×	完形円礫が目立つ

遺跡No.	出土層位	時期認定	調査区	横分布	構成資料数	石器点数	共存石器	炭化物	備考
56	Ⅱ中～下	Ⅱ期	A	疎	3	0	×	×	
57	Ⅱ中	Ⅱ期	A	密+やや密	128	2	○	×	
58	Ⅱ中～下	Ⅱ期	A	やや密	9	0	×	×	
59	Ⅱ中～下	Ⅱ期	A	疎+やや密	3	0	×	×	
60	Ⅱ下	I期	A	やや密	3	0	×	×	
61	Ⅱ中～下	Ⅱ期	A	やや密	11	0	×	×	
62	Ⅳa	Ⅵ期	A	やや密	7	0	×	×	縄文早期台石群と隣接
63	Ⅱ中	Ⅱ期	A	疎	6	0	×	×	
64	Ⅱ下～Ⅱ上	I期	A	やや密	8	0	×	×	
66	V上～中	V期	A	やや密	7	0	×	×	
67	V上	V期	A	疎	23	0	×	×	
68	V上～中	V期	A	疎	16	0	×	×	
69	Ⅳb	V期	A	やや密	13	0	×	×	
70	Ⅱ上～中	Ⅱ期	A	疎+やや密	35	0	×	×	
71	V下Ⅵ上	Ⅳ期	A	密	4	0	×	×	
72	Ⅱ中	Ⅱ期	A	疎	5	0	×	×	
73	Ⅳb	V期	A	やや密	40	0	×	×	
74	Ⅳbか	V期	A	やや密	25	0	×	×	
77	Ⅳb～V上	V期	A	疎+やや密	70	0	×	×	一部V下
79	Ⅱ中	Ⅱ期	A	疎	18	0	×	×	
80	V中	V期	A	やや密	68	0	×	×	
81	Ⅵ下Ⅱ上	Ⅲ期	A	疎	5	0	×	×	
82	Ⅵ下Ⅱ上	Ⅲ期	A	疎	4	0	×	×	
83	Ⅱ中	Ⅱ期	A	疎	5	2	○	×	
84	Ⅱ中	Ⅱ期	A	疎	9	0	×	×	
85	Ⅱ中	Ⅱ期	A	疎	12	5	○	×	
86	V上	V期	A	疎+やや密	29	0	×	×	
87	V中	V期	A	疎	9	0	×	×	
88	V中	V期	A	疎	2	0	×	×	
89	V上	V期	A	疎	17	0	×	×	
90	Ⅱ中	Ⅱ期	A	密	113	4	○	×	
91	Ⅱ上	Ⅲ期	A	疎	8	0	×	×	
92	Ⅱ上	Ⅲ期	A	疎	5	0	×	×	
93	Ⅱ中	Ⅱ期	A	密	57	0	×	×	
94	Ⅳb	V期	A	やや密	63	0	×	×	
95	Ⅱ中	Ⅱ期	A	疎	5	0	×	×	
96	Ⅱ中	Ⅱ期	A	疎	2	0	×	×	
97	Ⅳ	Ⅵ期	A	密	13	0	×	×	
98	Ⅵ下Ⅱ上	Ⅲ期	A	疎	6	0	×	×	
99	Ⅱ上～下	Ⅲ期	A	疎	33	5	○	×	
100	Ⅳb～V上	V期	A	疎	23	0	×	×	
101	V上	V期	A	疎+やや密	49	7	×	×	
102	V上	V期	A	疎+やや密	60	0	×	×	
103	V上	V期	A	疎+小密	11	0	×	×	
104	Ⅱ中	Ⅱ期	A	疎	5	0	×	×	
105A	Ⅱ中～下	Ⅱ期	A	疎	6	0	×	×	
106	Ⅵ下Ⅱ上	Ⅲ期	A	疎	7	0	×	×	
107	Ⅱ上	Ⅲ期	A	やや密	10	0	×	×	
108	Ⅱ上	Ⅲ期	A	疎	4	0	×	×	
109	Ⅳb	V期	A	疎	15	0	×	×	
110	Ⅳb	V期	A	疎+密	17	0	×	×	
111	V上	縄文早期	A	小密	11	0	×	○	
112	Ⅱ下	I期	A	やや密	5	0	×	×	
113	Ⅱ下	I期	A	疎	4	0	×	×	
114	Ⅱ下	I期	A	疎+やや密	7	0	×	×	
115	Ⅱ下	I期	A	やや密	5	0	×	×	
116	V下Ⅵ上	縄文早期	A	小密	11	0	×	○	
117	Ⅵ上～V中	Ⅳ期	A	やや密	9	0	×	×	No.9のみV中、要分離
122	Ⅳb	V期	C	疎+やや密	10	0	×	×	

標群No.	出土層位	時期認定	調査区	横分布	構成資料数	石器点数	伴石器	炭化物	備考
123	Ⅴ上～中	Ⅲ期	B	疎	8+2	2	○	○	
124	V上	V期	B	疎	1	0	x	x	
125	V上	V期	B	疎+やや密	6	0	x	x	
126	V上	V期	B	疎	2	0	x	x	
127	V中～下	V期	C	やや密	18	1	○	x	No. 4はナイフ形石器
128	V上	V期	C	疎	12	0	x	x	
129	V上	V期	C	疎	2	0	x	x	
131	V中～下	V期	C	やや密	4	0	x	x	
132	V中	V期	C	疎	4	0	x	x	
133	Ⅴ下Ⅴ上	Ⅲ期	C	やや密	9	0	x	x	
134	V下Ⅴ上	Ⅳ期	C	単	1	0	x	x	
135	Ⅴ中	Ⅱ期	C	疎	2	0	x	x	
140	Ⅴ上	Ⅲ期	B	疎	21	0	x	x	
141	V上～中	V期	C	やや密	32	0	○	x	
142	V中	V期	C	疎	5	1	○	x	
143	V中	V期	B	やや密	13	0	x	○	
144	V中	V期	B	やや密	15	0	x	x	
145	V上～中	V期	B	やや密	15	0	x	x	
146	V下Ⅴ上	Ⅳ期	B	疎	2	0	x	x	
147	Ⅴ上	Ⅲ期	B	やや密	8	0	x	x	
148	Ⅴ上～中	Ⅲ期	B	疎	2	0	x	x	
149	V中	V期	B	やや密	6+2	2	○	x	
150	V上	V期	B	疎	5	0	x	x	
151	V中	V期	B	やや密	11+2	2	○	x	
152	V中	V期	B	疎	2	0	x	x	
153	V上	V期	B	疎	4	1?	○?	x	
154	V下	Ⅳ期	B	やや密	4	0	x	x	
155	V下	Ⅳ期	B	やや密	3	0	x	x	
156	V下Ⅴ上	Ⅳ期	B	密	34	1	○	○	
157	Ⅴ中	Ⅱ期	B	単	1	0	x	x	
158	Ⅳb	縄文早期	B	小密	6	0	x	x	
159	V上	V期	B	疎	11	2	○	○	
160	V上	V期	B	疎	15	0	x	○	
161	Ⅳa～b	Ⅴ期	C	やや密	149	0	x	x	
162	V上～中	V期	C	やや密	4	1?	○?	x	
163	V中	V期	C	疎	4	0	x	x	
164	V上～中	V期	C	疎	13	0	x	x	
165	V中～下	V期	C	やや密	32	0	x	x	
166	V下Ⅴ上	Ⅳ期	B	疎	2	0	x	x	
167	V下Ⅴ上	Ⅳ期	C	やや密+密	69	0	x	x	
168	V上～中	V期	C	やや密	22	1?	○?	x	
169	V上	V期	B	やや密	8	0	x	x	
170	V上	V期	C	疎	4	0	x	x	
171	V上～中	V期	C	疎	4	0	x	x	
172	V上～下	V期	C	やや密	36	0	x	x	
173	Ⅳb～Ⅴ上	V期	C	やや密	4	2	○	x	
174	V上	V期	C	疎	8	0	x	x	
175	V上	V期	C	疎	2	0	x	x	
176	V上～下	V期	C	疎	7	0	x	x	
177	V上	V期	C	単	1	0	x	x	
178	V下	Ⅳ期	C	疎	3	0	x	x	
179	V上	V期	C	やや密	14	0	x	x	
180	V中～下	V期	C	疎+やや密	41	1	○	○	
181	V下Ⅴ上	Ⅳ期	B	密	89	0	x	x	
182	V下Ⅴ上	Ⅳ期	B	疎+やや密	5	0	x	x	
183	V中	V期	B	やや密	13	3	○	○	
184	V上～下	V期	C	疎	28	0	x	x	
185	V下Ⅴ上	Ⅳ期	C	疎+やや密	78	0	x	○	
186	V上～中	V期	B	疎	3	0	x	x	

遺跡名	出土層位	時期認定	調査区	横分布	構成資料数	石器点数	共存石器	炭化物	備考
187	V上	V期	B	疎	2	0	x	x	
190	Ⅴ中～下	Ⅱ期	B	疎	6	0	x	x	
191	V中	V期	C	疎+やや密	13	0	x	x	
192	V下Ⅴ上	Ⅳ期	C	疎	5	0	x	x	
193	V上～中	V期	B	疎	2	0	x	x	
194	Ⅴ上	Ⅳ期	B	密	2	0	x	x	
195	V中～下	V期	B	やや密	15	0	x	x	
196	Ⅳb	V期	B	疎	2	0	x	x	
197	V上	V期	B	やや密	9	2	○	x	
198	Ⅴ下	I期	B	疎	3	0	x	x	
199	V中～下	V期	B	疎	7	0			
200	V下	Ⅳ期	B	やや密	9	0	x	x	
210	V上～中	V期	B	密	10	0	x	x	
211	V下	Ⅳ期	B	密	3	0	x	x	
212	V上	V期	B	疎	7	2	○	x	
213	V上	V期	B	やや密	10	0	x	x	
214	Ⅳb～Ⅴ上	V期	C	疎+やや密	24	3	○	x	
215	V下Ⅴ上	Ⅳ期	C	単	1	0	x	x	
216	V中～下	V期	C	疎+やや密	17	0	x	x	
217	V上	V期	C	密	23	0	x	x	
217-2	V中	V期	C	やや密	31	0	x	x	
218	Ⅴ下Ⅴ上	Ⅲ期	C	疎	2	0	x	x	
219	V上	V期	C	疎+やや密	14	0	x	x	
220	V下	Ⅳ期	C	疎	2	0	x	x	
221	Ⅳb	V期	C	疎	2	0	x	x	
222	V中	V期	C	疎	6	0	x	x	
223	Ⅳa～b	Ⅴ期	C	やや密	12	0	x	○	
224	Ⅳb	V期	C	やや密	4	0	x	x	
225	V上	V期	C	疎	5	0	x	x	
226	V中	V期	C	疎	2	0	x	x	
227	V下Ⅴ上か	Ⅳ期	C	やや密	6	0	x	x	
228	Ⅳa～b	Ⅴ期	C	疎	213	0	x	x	
229M	Ⅳb～Ⅴ上	V期	C	やや密	46	1	○	x	
229S	V上～中	V期	C	疎	26	0	x	x	
230	V中	V期	C	密+やや密	25	0	x	x	
231	V下	Ⅳ期	C	やや密	44	0	x	x	
232	V上～中	V期	C	疎+やや密	14	0	x	x	
233	V中	V期	C	疎	8	0	x	x	
234	Ⅳb下Ⅴ上	V期	C	疎	4	0	x	x	
235	V上	V期	C	疎+やや密	6	0	x	x	
236	Ⅳb～Ⅴ上	V期	C	疎	4	0	x	x	
237	V下Ⅴ上	Ⅳ期	C	疎	8	0	x	x	
238	Ⅴ上	Ⅳ期	C	密	63	0	x	x	
239	V上～中	V期	C	疎+やや密	16	0	x	x	
240	V中	V期	C	やや密	17	0	x	x	
240-2	V中～下	V期	C	疎+やや密	20	0	x	x	
241	V上	V期	C	やや密	17	0	x	x	
242	V下Ⅴ上	Ⅳ期	C	密+やや密	56	1	○	x	
243	V上	V期	C	やや密	10	0	x	x	
244	V上	V期	C	やや密	8	0	x	x	
245	V中	V期	C	疎	7	0	x	x	
246	V中	V期	C	やや密	10	0	x	x	
247	V下	Ⅳ期	C	疎	6	0	x	x	
248	Ⅳb	V期	C	密	2	0	x	x	
249	Ⅳb	V期	C	疎+やや密	12	0	x	x	
250	Ⅳb下Ⅴ上	V期	C	疎	6	0	x	x	
251	Ⅳb下Ⅴ上	V期	C	疎	6	0	x	x	
252	Ⅳb	V期	C	疎	4	0	x	x	
253	V上	V期	C	疎	10	0	x	x	

標群No.	出土層位	時期認定	調査区	横分布	構成資料数	石器点数	共伴石器	炭化物	備考
254			C	礫	4	0	x	x	
255	V中～下	V期	C	礫	6	0	x	x	
256	IVb～V上	V期	C	やや密	84	2	○	x	
257			C	やや礫	18	0	x	x	
258	V上	V期	C	礫	10	0	x	x	
259	V上～中	V期	C	やや密	28	0	x	x	
260A	V下	IV期	C	密+やや密	40	0	x	x	
260B	V	V期	C	密	100?	0	x	x	
261	V上～中	V期	C	礫+やや密	10	0	x	x	
262	V下	IV期	C	やや密	2	0	x	x	
263	VI下Ⅷ上	Ⅲ期	C	礫	3	0	x	x	
264	V中～下	V期	C	密+やや密	99	0	x	x	
265	V中	V期	C	やや密	25	0	x	x	
266	V下Ⅷ上	IV期	C	小密	8	0	x	x	
267	IVb	V期	C	やや密	26	0	x	x	
268	V下	IV期	C	やや密	13	0	x	x	
269	V中	V期	C	やや密	7	0	x	x	
270	V下	IV期	C	やや密	71	0	x	x	
271	V下	IV期	C	やや密	53	0	x	x	
272	Ⅷ上～中	Ⅱ期	C	やや密	13	0	x	x	
273	V下	IV期	C	礫+やや密	9	0	x	x	
274	Ⅷ上	Ⅲ期	C	礫	2	0	x	x	
275	V下	IV期	C	密+やや密	46	0	x	x	
276	V下Ⅷ上	IV期	C	密+やや密	131	0	x	x	
E1	IVb	V期	E	やや礫	20	0	x	x	
E2	V上～下	V期	E	やや礫	15	0	x	x	
E3	V	V期	E	やや密	55	0	x	x	
E4	IVa	VI期	E	やや密	59	0	x	x	
E5	V	V期	E	やや密	63	0	x	x	
E6	V	V期	E	やや密	40	0	x	x	
E7	VI	IV期	E	小密	15	0	x	x	
E8	VI	IV期	E	小密	17	0	x	x	
E9	V～VI	IV期	E	やや密+小密	93	0	x	x	
E10	V	V期	E	やや密	23	0	x	x	
E11	V	V期	E	密	47	0	x	x	
E12	V	V期	E	小密	8	0	x	x	
E14	V	V期	E	やや密	137	0	x	x	
E15	V	V期	E	密	53	0	x	x	
E16	V	V期	E	やや密	42	0	x	x	
E17	IVb	V期	E	密	44	0	x	x	
E18	V	V期	E	密	190	0	x	x	
E19	V	V期	E	密	28	0	x	x	
E20	V	V期	E	やや密	7	0	x	x	
E21	V	V期	E	密	15	0	x	x	
E22	V下Ⅷ上	IV期	E	小密	43	0	x	x	
E23	Vか	V期	E	やや礫	14	0	x	x	
E24	V	V期	E	密	21	0	x	x	
E25	V	V期	E	やや礫	36	0	x	x	
E26	V	V期	E	密	63	0	x	x	
E27	V	V期	E	やや密	58	0	x	x	
E28	V	V期	E	密	29	0	x	x	
E29	V	V期	E	やや密	42	0	x	x	
E30	VI	IV期	E	小密	10	0	x	x	
E31	V	V期	E	やや密	76	0	x	x	

第7表 縄文時代早期集石遺構観察表

遺構番号	出土位置 (グリッド)	検出面 (層)	横範囲 (cm)		掘り込み (cm)			配石 有無	分類	備考
			長径	短径	長径	短径	深さ			
1	H 5	IV a	180	98	—	—	—	×	I? 散石か?	二・三次
2	H 5	IV a	40	38	—	—	—	×	I	二・三次
3	H 5	IV a	155	95	170	—	30	×	II b	水道管理設用溝により一部欠
4	I 5	IV a	183	127	200	143	65	○	III a	二・三次
5	I 5	IV b	103	82	88	—	22	×	II b	ゴミ穴により一部欠
6	I 4	III	97	72	85	—	20	×	II b	二・三次
7	H 5	IV a	155	150	157	165	56	○	III a	二・三次
8	N 5	IV a	103	79	108	100	16	×	II b	二・三次
9	O 5	IV a	67	65	67	60	8	×	II b	二・三次
10	O 5	IV a	110	105	93	—	8	×	II b	カクランにより硬散乱
11	P 6	IV a	95	92	80	67	9	×	II b	二・三次
12	Q 8	IV a	167	138	165	138	21	○	II a	二・三次
13	A A 1	VI	—	—	—	—	—	—	分類不可	配石のみ
14	B 2	IV a	200	70	125	87	5	×	II b	二・三次
15	C 1	IV b	127	116	140	122	16	×	II b	二・三次
16	C 1	IV b	82	50	107	—	10	×	II b	二・三次
17	C 1	IV b	85	63	101	74	40	○	III a	二・三次
1			233	124	137	96	42	○	III a	一次
2			110	142	133	111	37	○	III a	一次
3			113	104	109	100	52	○	II a	一次
4			149	141	180	153	11	×	II b	一次
5			114	103	123	122	49	○	III a	一次
6			125	96	72	70	16	×	II b	一次
7			158	138	103	104	36	○	III a	一次
8			100	103	103	85	21	×	II b	一次
10			96	78	112	83	9	×	II b	一次
11			200	50	84	79	11	×	II b	S111・S112隣接
12			—	58	110	93	10	×	II b	一次
13			98	79	85	77	11	○	II a	一次
14			146	122	145	138	40	○	III a	一次
16			135	98	—	—	—	×	I	一次
17			59	38	—	—	—	×	I	一次
19			113	99	110	102	45	○	III a	一次
20			105	83	—	—	—	×	I	一次
21			95	55	—	—	—	×	I	一次
25			113	110	116	114	78	○	III a	SP73と切り合う
26			68	57	82	95	9	×	II b	
27			130	102	98	80	32	○	III a	一次
29			138	87	—	—	—	×	I	一次
32			64	62	86	77	12	×	II b	一次
33			52	38	57	48	21	×	III b	一次
34			82	61	124	96	5	×	II b	一次
35			114	103	100	90	12	○	II a	一次

遺構番号	出土位置 (グリッド)	検出面 (層)	検範囲 (cm)		掘り込み (cm)			配石 有無	分類	備考
			長径	短径	長径	短径	深さ			
36			60	58	-	-	-	×	II b	一次
37			109	92	76	72	11	×	II b	一次
38			63	60	63	60	6	×	II b	一次
39			119	109	110	89	18	○	II a	一次
40			101	40	-	-	-	×	I	一次
41			98	85	95	83	35	×	II b	一次
42			113	109	100	87	33	○	III a	一次
43			138	96	107	104	26	○	II b	一次
44			137	116	132	135	45	○	III a	一次
45			233	118	100	92	34	○	II a	一次
46			-	88	-	-	-	×	I ?	一次
47			123	68	-	-	-	×	I	一次
48			50	40	-	-	-	-	配石のみ	一次
49			63	28	-	-	-	×	分類不可	一次
50			88	59	-	-	-	×	I	一次
51			93	89	90	78	12	×	II b	一次
52			225	100	135	134	31	○	III a	52→53
53			-	124	130	123	42	○	III a	52→53
54			111	87	103	-	10	○	II b	一部カクラン
55			147	123	-	-	-	×	I	一次
56			77	65	83	67	15	×	II b	一部カクラン
57			97	90	-	-	-	×	I	一次
58			144	128	178	163	45	○	III a	58～60
61			193	156	205	180	65	○	III a	一次
62			320	160	168	165	27	○	II b	63→62、一連の施設か？
63			-	-	-	-	-	×	分類不可	一次
64			130	100	150	145	23	○	II a	一次
65			50	50	85	85	10	×	II b	一次
66			90	61	105	80	20	×	II b	一次
67			210	100	100	90	15	○	II a	S168→S167
68			-	-	90	80	5	×	II b	一次
69			176	135	158	155	74	○	III a	一次
70			155	147	145	142	75	○	III b	93と一連
71			112	110	116	110	35	○	III a	
72			65	48	-	-	-	×	I	S171と一連か？
73			97	83	98	-	32	○	III a	一次
74			167	100	120	90	16	×	II b	一次
75			146	130	162	133	50	○	III a	ピットに切られる
76			109	107	113	108	41	○	II a	一次
77			137	122	141	125	63	○	III b	一次
78			143	113	159	128	12	×	II b	一次
79			256	152	132		23	○	II a	炉穴と切り合う
80			158	142	112	110	48	○	II a	炭化材あり

遺構番号	出土位置 (グリッド)	検出面 (層)	横断面 (cm)		掘り込み (cm)			配石 有無	分類	備考
			長径	短径	長径	短径	深さ			
82			78	73	73	58	8	×	II b	一次
83			135	113	127	104	32	×	II b	一次
84			128	123	123	118	35	○	III a	一次
85			75	73	-	-	-	×	II b	一次
86			180	169	121	116	45	×	III a	一次
88			80	58	90	65	10	×	II b	一次
87			113	78	87	58	16	×	II b	一次
89			130	90	75	70	13	○	II a	一次
90			137	126	140	140	42	○	II a	一次
91			105	72	90	-	22	×	II b	一次
92			120	100	-	-	-	×	II b	一次
95			183	152	168	140	9	×	II b	一次
96			153	146	-	-	-	×	I	一次
97			155	87	-	-	-	×	I	一次
98			68	40	-	-	-	×	II b	一次
101			83	74	105	110	14	×	II b	一次
103			134	96	85	55	57	○	III a	一次
104			73	26	-	-	-	×	分類不可	一次
105			125	210	131	116	45	○	III a	一次
130			342	248	-	-	-	×	数棟か?	一次
131			65	54	80	58	6	×	II b	一次
132			118	106	126	118	10	○	II a	一次
133			126	90	110	75	10	×	II b	一次
134			105	80	100	99	8	×	II b	一次
136			97	72	82	81	5	×	II b	一次
137			85	85	105	102	18	×	II b	一次
138			152	88	-	-	-	×	I	一次
139			74	63	82	68	18	×	II b	一次
140			-	-	-	-	-	-	-	炉穴と切り合う?
141			50	35	-	-	-	×	I	一次
142			92	78	80	78	5	×	II b	一次
143			127	83	103	100	18	×	II b	一次
144			130	87	-	-	-	×	I	一次
146										一次
148			110	106	102	97	6	×	II b	一次
149			113	52	117	-	63	○	III a	一次
150			51	52	108	99	4	×	II b	一次
152			147	125	156	137	40	○	II a	一次
153			173	162	167	166	63	○	III a	一次
161			123	119	137	133	54	○	II a	一次
162			152	118	133	120	43	○	II a	一次
163			149	145	175	172	75	○	III a	一次
169			105	73	100	77	12	×	II b	一次

遺構番号	出土位置 (グリッド)	検出面 (層)	検範囲 (cm)		掘り込み (cm)			配石 有無	分類	備考
			長径	短径	長径	短径	深さ			
135-1			228	63	95	91	25	×	Ⅱ	3基切り合う
135-2			—	48	89	73	11	○	Ⅱa	一次
135-3			—	35	—	—	20	×	Ⅱb	一次
②			110	93	75	68	18	×	Ⅱb	委託
①			100	106	113	97	27	○	Ⅱa	委託
15			178	108	145	155	62	○	Ⅲa	委託
22			77	68	85	74	7	×	Ⅱb	委託
23			117	107	125	105	45	○	Ⅲa	委託
24			100	90	97	96	20	○	Ⅱa	委託
2ES11			93	82	—	—	—	×	Ⅱb	E区
2ES12			97	67	—	—	—	×	Ⅱb	E区
2ES13			107	91	110	95	13	×	Ⅱb	E区
2ES14			72	55	—	—	—	×	I	E区
2ES15			160	105	57	50	12			E区
2ES16			141	110	91	90	21	○	Ⅱa	E区
2ES17			171	126	—	—	—	×	I	E区
2ES18			112	95	—	—	—	×	I	E区
2ES19			129	125	—	—	—	×	I	E区
2ES110			87	85	80	65	7	×	Ⅱb	E区
2ES111			107	103	90	80	7	×	Ⅱb	E区
2ES112			171	125	—	—	—	×	I	E区
2ES113			68	43	—	—	—	×	I	E区
2ES114			47	38	57	41	6	×	Ⅱb	E区
2ES115			70	52	—	—	—	×	I	E区
2ES116			37	27	—	—	—	×	I	E区
2ES117			130	90	83	—	8	×	Ⅱb	E区
2ES118			82	80	107	100	10	×	Ⅱb	E区
2ES119										
2ES120			88	71	—	—	—	×	I	E区

第8表 縄文時代早期炉穴観察表

遺構番号	検出面 (層)	遺構規模 (m)			扉面 (層)	供土面
		長軸	短軸	深さ		
1	IV b	2.36	0.80	0.36	V	×
2	IV b	2.02	0.70	0.47	VI	1
3	IV b	2.28	0.87	0.43	VI	1
4	IV b	2.21	1.25	0.61	VI	1
5	IV b	2.98	2.10	0.49	VI	4
6	IV b	1.62	1.42	0.38	VI	2
7	IV b	1.72	0.60	0.32	VI	×
8	IV b	—	—	—	VI	×
9	IV b	2.94	2.33	0.46	VI	2
10	IV b	1.93	0.94	0.20	VI	1
11	IV b	1.46	0.81	0.15	VI	1
12	IV b	3.01	2.10	0.36	VI	1
13	IV b	2.71	0.65	0.55	VI	2
14	IV b	2.86	2.70	0.30	VI	1
15	IV b	4.26	2.18	0.35	VI	1
16	IV b	4.02	1.56	0.27	VI	2
17	IV b	2.67	2.65	0.36	VI	×
1-1	IV a - IV b	1.33	0.83	0.40	—	×
1-2	IV b	(0.49)	(0.91)	0.50	—	×
1-3-3	IV a - IV b	2.55	1.17	0.32	—	1
1-3-4		1.62	1.03	0.41	—	1
1-4	V	1.46	0.72	0.35	VI	1
1-5	V	0.94	0.66	0.15	V - VI	1
1-6	V	1.52	(0.93)	0.24	VI	1
1-7-2	III	1.30	0.86	0.08	III - IV	1
1-8-2	IV	0.96	0.82	0.18	IV - VI	×
1-9	IV	0.88	0.60	0.13	IV - V	×
1-10	IV	3.00	1.33	0.37	V	△
1-11	V	2.26	0.84	0.10	V	×
1-12	IV	1.81	1.03	0.33	VI	1
1-13	IV	1.86	0.91	0.34	VI	1
1-14	IV b	3.46	2.04	0.51	V	1
1-15	V	1.42	0.41	0.10	V	△
1-16	IV	1.44	0.73	0.27	VI	△
1-17	IV	2.20	0.96	0.37	VI	1
1-18-1	IV III	(1.44)	0.54	0.24	V	△
1-18-2		(1.76)	1.06	0.20	V	△
1-18-3		1.26	1.00	0.57	VI	1
1-19	IV	0.72	0.56	0.34	VI	×
1-20	IV b	(1.15)	0.68	0.14	IV b	△
1-21-1	IV b	2.12	(0.78)	0.39	×	△
1-21-2		1.62	(0.90)	0.30	V - VI	△
1-21-3		(1.03)	(0.74)	0.23	×	△
1-22	IV b	(1.14)	0.59	0.07	IV b	△
1-23	V	(2.00)	(0.94)	0.13	VI	△

遺構番号	検出面 (層)	遺構規模 (m)			扉面	供土面
		長軸	短軸	深さ		
1-24	IV b	2.34	0.90	0.16	V - VI	1
1-25	IV b	1.51	1.06	0.10	V	△
1-26-1	IV b	1.97	1.03	0.35	VI	1
1-27-1	IV	2.50	1.66	0.41	—	×
1-27-3		1.29	(0.97)	0.31	IV	△
1-27-4		(1.17)	1.11	0.21	V	—
1-27-5		(1.94)	1.12	0.52	VI	1
1-27-6		1.36	0.66	0.40	VI	×
1-27-7		2.16	0.94	0.28	V	△
1-27-8		2.50	1.23	0.57	VI	1
1-28		V	0.49	0.41	0.16	VI
1-29-1・2	—	3.04	1.95	—	—	—
1-30	IV	2.18	1.17	0.54	VI	△
1-31	IV	(3.60)	1.34	0.51	VI	1
1-32	IV - V	1.13	0.86	0.39	VI	△
1-33	—	1.37	0.70	0.29	—	△
1-34-1	III	1.48	0.95	0.08	—	△
1-34-2		(1.76)	0.90	0.42	—	△
1-35-1	IV - V	1.46	0.97	0.24	—	△
1-35-2		1.16	0.70	0.14	V	△
1-35-3		2.05	0.80	0.43	—	△
1-36	—	1.46	1.20	0.22	—	△
1-37-1	IV	(1.70)	(0.83)	0.90	—	1
1-38	IV b	0.94	0.80	0.33	IV b - V	×
1-39	IV b	1.23	0.66	0.46	IV b - V	×
1-41	IV b	1.01	0.47	0.20	IV b - V	×
1-42	IV b	(1.66)	(1.31)	0.57	V - VI	×
1-43-1	IV b	1.07	0.81	0.69	VI	×
1-44-1	IV a - IV b	2.21	0.74	0.74	VI - VII	×
1-45-1	IV	(1.31)	(0.25)	0.32	IV	1
1-45-2		(1.65)	(1.08)	(0.12)	—	△
1-46	IV a - IV b	0.80	0.75	0.83	VI	×
1-47	IV a - IV b	1.74	0.78	0.16	IV b	×
1-48	IV a - IV b	(1.00)	0.59	0.19	IV b	×
1-49	—	1.03	0.93	0.13	—	△
1-50-3	—	1.42	0.50	0.30	—	△
1-50-4	—	1.60	0.70	0.52	—	△
1-51	III	1.74	1.11	0.41	—	×
1-52	—	2.50	0.95	0.31	—	1
1-53-1	—	2.50	1.01	0.39	—	1
1-54	—	(0.91)	0.39	0.09	—	×
1-55	—	1.25	0.63	0.26	—	×
1-56	—	1.76	0.91	0.34	—	1
1-57-1	—	1.47	(0.53)	0.23	—	1
1-57-2・3	—	1.94	1.24	0.32	—	2

道標番号	供出面 (層)	道標規模 (m)			床面 (層)	供土面
		長軸	短軸	深さ		
1-57-4	—	(1.50)	0.60	0.31	—	1
1-58-2	V	0.67	0.59	0.12	V-VI	×
1-59	V	1.02	0.48	0.70	V-VI	×
1-60	V	0.80	0.72	0.47	—	×
1-61-1	—	(2.15)	0.95	0.41	—	1
1-61-2	—	2.15	1.34	0.39	—	1
1-62	—	1.94	0.81	0.16	—	×
1-63	—	1.60	0.91	0.23	—	1
1-64-1	—	(1.24)	0.88	0.24	—	1
1-64-2	—	1.58	0.78	0.17	—	1
1-65	—	(0.45)	(0.72)	0.24	—	—
1-66	—	0.84	0.82	0.14	—	1
1-67-1	—	2.02	0.74	0.20	—	×
1-67-2	—	1.54	1.12	0.16	—	1
1-67-3	—	2.15	1.44	0.16	—	1
1-68-1	—	2.43	(1.30)	0.10	IV-V	×
1-68-2	IV	(1.14)	0.84	0.31	V-VI	1
1-68-3	—	1.99	1.30	0.45	VI	1
1-69	IV	2.40	0.98	0.38	VI	1
1-70	—	0.80	0.52	—	—	—
1-71	—	0.86	0.42	—	—	—
1-72	—	(2.16)	(1.15)	0.35	—	△
1-73-1	IV	2.95	1.03	0.47	VI	2
1-74	—	1.74	1.29	0.23	—	×
1-75	IV	(1.43)	(0.65)	0.13	IV-V	×
1-76	—	(1.84)	(0.81)	0.13	—	1
1-77-1・2	—	2.09	1.24	0.36	—	1
1-77-3	—	(1.26)	0.68	0.17	—	1
1-78-1	—	(1.38)	0.82	0.29	—	1
1-78-2	—	(1.31)	0.62	0.31	—	1
1-85178	IV b	(0.55)	(0.55)	0.20	IV b-V	×
1-79	—	1.82	1.22	0.22	—	1
1-80	—	1.24	0.67	0.47	—	×
1-81	—	(1.55)	0.56	0.27	—	△
1-82	—	1.04	0.74	0.19	—	×
1-83	—	1.03	0.81	0.30	—	△
1-84	IV b	1.96	0.78	0.27	IV a-V	×
1-85	—	1.03	0.70	0.18	—	△
1-86	IV b	(2.56)	(0.66)	0.30	IV a-V	×
1-87-1	—	1.36	0.62	0.20	—	1
1-87-2	—	(2.60)	1.56	0.76	—	1
1-88	—	—	—	0.24	—	—
1-89	—	0.72	0.36	0.10	—	1
1-90	IV b	1.58	1.00	0.09	IV b-V	×
1-91	IV	1.90	1.25	0.53	VI	×
1-92	IV b	(0.85)	(0.59)	0.31	V	△

道標番号	供出面 (層)	道標規模 (m)			床面 (層)	供土面
		長軸	短軸	深さ		
1-93	VI-VII	1.11	0.81	0.21	VII	1
1-94	IV b	—	—	0.15	IV b-V	×
1-S194	IV b	2.31	1.11	0.65	V-VI	1
1-95	IV b-V	(2.10)	0.84	0.59	—	1
1-97	IV b-V	(1.36)	1.38	0.17	V	△
1-98	IV b	(1.26)	0.62	0.24	V	△
1-99	IV b	2.12	0.84	0.15	V	×
1-100	V	(1.10)	(0.90)	0.18	V-VI	△
1-102	IV	1.31	0.62	0.33	V	×
1-103	IV	(0.76)	(0.58)	0.60	VII	×
1-104	V	(1.22)	(0.76)	0.13	V-VI	△
1-105	IV	0.75	0.29	0.21	V	×
1-112	V中-V下	1.51	0.79	—	—	—
1-120	—	2.45	1.10	0.33	—	×
1-121-1	—	1.90	1.20	0.62	—	×
1-122	IV b	2.30	0.84	0.49	V-VI	1
1-123	III	2.33	1.06	0.49	V-VI	1
1-125	IV a	1.23	0.68	0.11	IV a-IV b	×
1-126	IV a	1.80	0.37	0.19	IV a-IV b	×
1-127	—	1.03	0.58	0.27	—	×
1-157	IV a	2.29	1.18	0.40	V-VI	1
1-160-1	—	2.22	0.87	0.40	V-VI	1
1-160-2	IV	2.13	0.80	0.26	V-VI	1
1-161	IV	1.75	0.96	0.22	V-VI	△
1-162	IV	1.58	0.92	0.38	V-VI	△
1-163	V下-V上	2.04	0.82	0.18	VI	1
1-164	IV	0.52	0.42	0.21	V-VI	×
1-165	IV a	1.03	0.56	0.15	IV a-IV b	×
1-166-1	IV a	(1.55)	1.18	0.38	IV a-IV b	1
1-167	IV a	2.69	0.97	0.61	VI-VII	1
1-168	IV b	1.90	0.96	0.11	IV b-V	×
1-169	IV b	1.50	0.74	0.18	VI	1
1-170-1	IV b	0.64	0.44	0.25	—	×
1-171	IV b	0.94	0.50	0.21	—	×
1-172	—	2.52	0.99	0.50	—	1
1-173	IV b	1.85	1.12	0.57	VI	1
1-174	IV b	1.75	1.10	0.41	—	1
1-175	III	(2.16)	1.08	0.53	—	1
1-178	IV b	(1.19)	0.82	0.47	—	×
1-179	IV a	1.69	0.88	0.63	VI	×
1-184	IV b	1.35	0.59	0.05	IV b	×
1-185-1	IV b	1.61	0.78	0.48	—	1
1-185-2	IV b	1.19	0.66	0.32	—	×
1-186-1	—	(1.47)	0.60	—	—	×
1-186-2	—	1.06	0.69	—	—	×

第9表 旧石器時代石器計測表

№	器種	石材	出土地区	出土層位	計測値				備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
1	削片	Ssh I	I	V	3.0	1.2	0.4	2.0	
2	削片	Ssh I	I	V	2.6	1.3	1.0	3.0	
3	削片	Ho	I	V	5.1	1.9	0.9	7.0	
4	削片	Ssh I	I	V	5.5	4.3	1.3	14.0	
5	燧石	Ssh	I	V	5.0	2.9	1.4	20.0	
6	削片	Ho	I	V	6.4	5.5	2.4	71.0	
7	削片	Ssh	I	V上	4.45	7.55	3.1	73.4	
8	削片	Ho I	I	V上	6.4	7.2	2.45	77.1	
9	原石	Ssh	I	V上	8.0	7.4	6.1	491.0	
10	二次加工削片	Ssh	I	V上	4.35	4.1	2.0	26.3	
11	接合資料1	Ssh	—	—	7.9	8.4	5.2		
12	削片	Ssh	I	V上	4.6	4.7	2.25	47.1	
13	削片	Ssh	I	V上	3.0	6.15	2.65	41.9	
14	削片	Ssh	I	V上	5.0	4.1	2.0	34.2	
15	削片	Ssh	I	V上	4.95	5.1	3.3	52.4	
16	削片	Ssh	I	V上	5.8	4.1	3.05	56.0	
17	接合資料2	Ho II	—	—	10.2	8.5	6.9	407.1	
18	石核	Ho II	I	V上	8.4	8.5	4.8	342.6	
19	削片	Ho II	I	V上	10.4	4.9	1.6	64.5	
20	接合資料3	Ho I	—	—	8.45	7.1	4.1	241.1	
20 a	接合資料	Ho I	—	—	6.9	7.2	5.1	130.1	
20 b	接合資料	Ho I	—	—	6.95	6.3	3.65	111	
21	削片	Ho I	A	V	2.65	3.0	2.1	16.4	
22	削片	Ho I	A	V	5.95	5.45	3.45	94.6	
23	削片	Ho I	I	V	5.7	2.65	1.15	17.3	
24	削片	Ho I	I	V	4.95	1.8	1.45	12.0	
25	削片	Ho I	A	V	7.05	4.6	2.1	73.8	
26	削片	Ho I	I	V	4.1	1.95	0.9	6.1	
27	削片	Ho I	A	V	5.2	2.05	1.5	12.6	
28	ナイフ形石器	Oh I	F	IV a	4.3	1.30	0.5	2.5	
29	ナイフ形石器	Ssh I	F	IV a	4.7	1.8	0.8	7.0	
30	ナイフ形石器	Ry I	H	IV b	3.8	2.05	0.95	5.2	
31	ナイフ形石器	Ho II	H	IV b	4.4	1.9	0.7	5.0	
32	ナイフ形石器	Ssh I	F	IV b	4.1	1.2	0.6	4.0	
33	ナイフ形石器	Ssh I	H	V	6.35	1.6	1.0	7.2	
34	ナイフ形石器	Oh I	I	—	3.4	1.1	0.7	3.0	遺積埋土
35	ナイフ形石器	Ho I	H	V	4.8	1.98	0.8	8.73	
36	ナイフ形石器	Ssh II	H	V	3.2	1.1	0.5	2.0	
37	素材削片	Ssh II	I	IV	3.3	1.1	0.3	2.0	
38	ナイフ形石器	Ssh II	F	V	4.7	1.2	0.6	4.0	
39	ナイフ形石器	Ssh I	G	V	9.0	2.9	1.6	34.0	
40	角層状石器	Ry I	H	IV b	3.1	1.0	0.8	2.1	
41	角層状石器	Ho	H	V	2.7	1.4	1.2	3.5	
42	角層状石器	Ssh	H	V	4.6	2.1	1.7	13	
43	角層状石器	Ry I	H	V	6.35	2.30	1.5	17.9	
44	尖頭器	Ssh I	H	V	3.6	1.5	0.8	4.28	
45	附器	Ssh III	H	V	2.6	3.55	0.6	4.2	
46	ブランディングチップ	Ry I	H	V	1.9	0.6	0.5	0.56	
47	附器	Ry I	H	IV b	3.8	4.0	0.7	10.6	
48	削片	Ssh I	H	V	5.3	1.65	1.0	8.0	
49	燧石	Ssh I	H	V	4.3	2.45	1.65	18.9	
50	燧石	Ssh II	F	V	5.7	3.5	1.1	25.0	
51	燧石	Ssh III	G	V	4.2	5.45	4.2	45.8	
52	燧石	Ssh I	G	V	4.15	4.25	1.45	30.6	
53	二次加工削片	Ho	H	IV b	5.1	2.5	1.1	16.0	
54	二次加工削片	Ho	F	IV b	5.8	2.1	1.1	11.0	
55	削片	Ssh III	I	IV b	4.2	2.4	1.0	5.0	
56	削片	Ssh III	F	V	3.8	1.2	0.6	3.0	
57	二次加工削片	Ssh I	H	V	3.0	1.0	0.5	2.0	
58	二次加工削片	Ssh I	I	V	4.7	1.5	0.8	7.0	
59	削片	Ssh II	H	V	3.5	2.2	0.9	6.3	
60	二次加工削片	Ssh VI	H	V	4.3	2.0	1.2	10.32	
61	削片	Ssh II	H	V	2.9	2.1	0.4	1.8	
62	二次加工削片	Ssh I	H	I	8.7	3.1	1.6	17.0	

No.	形 種	石 材	出土地区	出土層位	計測値				備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	
63	二次加工割片	Ssh I	I	—	5.1	3.5	1.2	26.0	溝埋土
64	割片	Ssh III	H	V	5.25	2.3	0.95	9.1	
65	割片	Ssh I	H	IV a	6.9	3.60	1.5	37.2	縁部調整あり
66	割片	Ssh I	G	IV	4.3	2.5	1.1	17.0	縁部調整あり
67	割片	Ry I	F	IV b	5.4	2.2	0.9	10.0	
68	割片	Ssh II	F	IV b	4.3	2.1	0.9	7.0	
69	割片	Ssh I	F	V	4.9	2.0	1.0	11.0	縁部調整あり
70	割片	Ho I	F	IV a	3.3	1.3	0.4	2.0	
71	割片	Ry I	H	VI	2.15	1.45	0.35	0.8	風化著しい
72	割片	Ry I	H	V	5.3	4.15	1.05	30.0	
73	割片	Ry I	H	V	6.1	2.7	1.6	20.0	
74	割片	Ssh II	H	V	5.7	1.2	0.7	5.0	
75	割片	Ssh I	H	V	7.2	2.7	1.2	17.0	
76	割片	Ssh I	H	V	4.6	3.1	0.7	8.9	
77	割片	Ssh I	H	V	5.9	3.1	0.72	15.8	
78	砕石	Sa	H	V	7.1	5.2	2.8		
79	砕石	Se	H	V	7.6	4.7	3.5		
80	接合資料 4	Ho	—	—	17.80	15.70	8.9		
80 a	接合資料	Ho	—	—	8.0	13.9	3.4	205.3	
81	割片	Ho	F	IV b	1.9	7.6	4.85	57.4	
82	割片	Ho	F	IV b	4.6	10.5	0.8	75.9	
83	割片	Ho	F	IV b	3.6	7.4	1.2	22.6	
84	割片	Ho	F	IV b	4.35	7.55	1.5	33.0	
80 b	接合資料	Ho	—	—	6.0	11.1	5.3	249.0	
85	割片	Ho	F	IV b	4.15	6.3	1.1	32.8	
86	割片	Ho	F	IV b	3.0	3.0		9.3	
87	割片	Ho	F	IV b	3.05	4.4	0.85	10.3	
88	割片	Ho	F	IV b	4.6	4.6	1.15	24.4	
89	割片	Ho	F	IV b	3.45	3.15	0.9	6.4	
90	割片	Ho	F	IV b	3.1	2.9		9.3	
91	割片	Ho	F	IV b	6.15	6.6	1.65	49.9	
92	割片	Ho	F	IV b	6.1	6.95	2.7	77.0	
93	割片	Ho	F	IV b	5.0	5.2	1.85	29.6	
80 c	接合資料	Ho	—	—	8.1	14.3	2.5	2133.0	
94	割片	Ho	F	IV b	2.05	1.75	0.55	1.8	
95	割片	Ho	F	IV b	2.2	1.75	0.75	1.7	
96	割片	Ho	F	IV b	2.1	2.5	0.5	2.4	
97	割片	Ho	F	IV b	4.55	4.2	1.45	12.5	
98	割片	Ho	F	IV b	5.45	8.8	2.65	67.2	
99	割片	Ho	F	IV b	4.85	9.3	1.75	56.7	
100	割片	Ho	F	IV b	5.5	8.25	1.55	69	
80 d	接合資料	Ho	—	—	7.25	12.9	5.0	207.6	
101	割片	Ho	F	IV b	2.6	5.05		9.5	
102	割片	Ho	F	IV b	2.5	2.6	0.65	3.6	
103	割片	Ho	F	IV b	2.3	4.24	0.8	5.5	
104	割片	Ho	F	IV b	3.5	5.05	0.9	16.4	
105	割片	Ho	F	IV b	2.7	7.5	1.05	15.5	
106	割片	Ho	F	IV b	3.45	4.7	1.3	21.3	
107	割片	Ho	F	IV b	4.5	5.9	1.85	34.6	
108	割片	Ho	F	IV b	3.9	7.95	1.15	28.7	
109	石核	Ho	F	IV b	3.9	9.0	2.15	67.9	
110	割片	Ho	F	IV b	4.9	4.25	1.25	21.0	
111	接合資料 5	Ho II	—	—	8.4	13.7	4.9	182.5	
111 a	接合資料	Ho II	—	—	7.2	3.45	3.25	71.9	
112	割片	Ho II	H	IV b	4.25	2.1	1.4	12.9	
113	割片	Ho II	H	V	7.25	3.55	2.05	59.0	
111 b	接合資料	Ho II	—	—	10.4	8.3	2.85	110.6	
114	割片	Ho II	H	V	2.05	4.95	0.90	7.5	
115	割片	Ho II	H	裏サイ	3.8	3.75	1.1	14.7	
116	割片	Ho II	H	V	3.8	2.4	0.9	5.9	
117	割片	Ho II	H	V	2.5	3.3	1.1	6.9	
118	割片	Ho II	H	V	5.55	5.2	1.7	43.6	
119	割片	Ho II	H	V	6.5	5.15	1.3	32.0	
120	接合資料 9	Ho II	—	—	8.0	3.2	3.7	64.2	
121	割片	Ho II	H	V	8	2.7	2.1	40.2	
122	割片	Ho II	H	V	3.2	3.7	1	11.4	
123	割片	Ho II	H	V	2.4	4.3	1.6	13.1	
124	接合資料 6	Ho II	—	—	6.6	10.75	5.8	211.9	
125	割片	Ho II	H	V	3.25	3.0	1.15	10.6	
126	割片	Ho II	H	V	4.55	3.25	1.3	14	
127	割片	Ho II	H	V	5.6	6.05	1.65	37.6	

No.	器種	石材	出土地区	出土層位	計測値			備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	
128	刮片	Ho II	H	V	4.05	4.45	0.9	9.0
129	刮片	Ho II	H	V	2.9	3.8	2.6	21.3
130	石核	Ho II	H	V	6.4	5.55	3.3	96.3
131	刮片	Ho II	H	V	5.3	4.7	1.25	23.1
132	接合資料 7	Ssh I	—	—	7.2	14.1	7.5	
132 a	接合資料	Ssh I	—	—	6.0	11.95	4.8	
133	刮片	Ssh I	E	V	3.35	4.85	0.75	9.4
134	刮片	Ssh I	H	V	1.75	3.0	0.5	1.7
135	刮片	Ssh I	H	IV b	3.0	3.9	1.05	8.2
136	刮片	Ssh I	H	V	3.4	4.15	0.95	10.0
137	石核	Ssh I	H	V	5.7	5.3	3.01	59.4
138	刮片	Ssh I	E	V	6.85	5.4	1.8	41.0
132 b	接合資料	Ssh I	—	—	3.3	9.65	3.15	
139	刮片	Ssh I	F	IV b	3.0	2.3	1.15	5.3
140	刮片	Ssh I	H	V	1.85	2.45	0.85	3.5
141	刮片	Ssh I	H	V	3.65	5.4	1.9	26.0
142	刮片	Ssh I	H	V	3.55	6.8	1.95	31.2
143	接合資料 8	Ssh I	—	—	7.8	11.4	6.2	
143 a	接合資料	Ssh I	—	—	6.95	7.7	4.9	
144	刮片	Ssh I	C	VI a	1.5	1.2	0.7	0.9
145	刮片	Ssh I	C	V中	1.7	1.0	0.85	0.9
146	刮片	Ssh I	C	V下IV上	1.45	2.05	0.75	1.7
147	刮片	Ssh I	C	V中	1.65	2.35	0.6	1.1
148	刮片	Ssh I	C	V上~中 / IV上	2.5	2.45	0.75	2.7
149	刮片	Ssh I	C	V中	1.85	3.1	0.7	3.7
150	刮片	Ssh I	C	IV	2.7	2.8	1.05	4.5
151	刮片	Ssh I	C		3.65	3.5	1.6	20.0
152	刮片	Ssh I	C	IV	5.65	4.7	2.05	37.1
153	刮片	Ssh I	C	IVa / IVb / V	5.1	3.45	1.95	24.6
143 b	接合資料	Ssh I	—	—	8.55	6.9	5.25	
154	刮片	Ssh I	C	V上	1.35	0.85	0.75	0.6
155	刮片	Ssh I	C	IV	1.0	1.3	0.5	0.8
156	刮片	Ssh I	C	V下IV上	0.95	2.2	0.95	1.6
157	刮片	Ssh I	C	V中	1.65	1.3	0.55	0.9
158	刮片	Ssh I	C	V下	1.35	1.3	0.25	0.4
159	刮片	Ssh I	C	V上~中 / IV	1.6	2.65	0.65	1.6
160	刮片	Ssh I	C	IV b	3.05	1.65	1.05	3.6
161	刮片	Ssh I	C	V下IV上	2.9	1.9	0.65	2.7
162	刮片	Ssh I	C	IV b / V中	3.05	1.6	0.65	2.6
163	刮片	Ssh I	H	IV	3.05	2.6	0.7	4.4
164	刮片	Ssh I	C	V中	1.85	1.75	0.85	1.8
165	刮片	Ssh I	C	IV b	3.05	3.15	1.75	13.6
166	刮片	Ssh I	C	IV b	3.5	1.75	0.9	4.4
167	刮片	Ssh I	C	IV b	3.4	2.35	1.15	7.5
168	刮片	Ssh I	C	V中	4.4	3.25	1.6	15.8
169	刮片	Ssh I	C	V下	5.4	3.6	2.7	37.7
170	刮片	Ssh I	C	IV上	4.35	4.0	1.85	35.5
171	刮片	Ssh I	C	IVb下 / IV上	4.55	4.35		27.7
143 c	接合資料	Ssh I	—	—	6.45	7.1	2.9	
172	刮片	Ssh I	C	IV a / V下	3.35	1.95	0.95	4.4
173	刮片	Ssh I	C	V下	2.05	1.15	0.45	0.5
174	刮片	Ssh I	C	V上~中	1.5	1.0	0.85	0.9
175	刮片	Ssh I	C	V上~中	5.15	2.95	2.15	17.2
176	刮片	Ssh I	C	V下	3.25	1.95	1.15	6.2
177	刮片	Ssh I	C	V上	1.9	1.75	1.35	1.8
178	刮片	Ssh I	C	IVa / IVb / V中 / V下	5.3	4.8	2.55	35.4
179	細石刃	Ssh I	H	V	2.1	1.2	0.1	0.26
180	細石刃	Ssh I	F	I	2.2	0.6	0.2	0.32

第10表 縄文時代早期後・晩期石器計測表

No.	器種	石材	出土地区	出土層位	計測値			分類	備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)		
249	石鏃	Ob I	IV a	20 67	1.6 (1.35)	1.10	0.40	0.47	
250	石鏃	Ch II	I	2H-5B2	1.65 (1.4)	1.30	0.30	0.53	
251	石鏃	Ch I	III	2F-1H4	1.35 (0.9)	1.55	0.30	0.45	
252	石鏃	Ch I	I	2H-P5	1.75 (1.2)	2.10	0.30	0.77	
253	石鏃	Ch I	I	2F-J3	2.3 (1.7)	1.90	0.30	1.03	

№	部 種	石 材	出土地点	出土層位	計測値			分類	備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)		
254	石線	Ch I	I	2F-P4	3.0(2.25)	1.65	0.35	1.0	
255	石線	X II	I	ノクピ2	2.7(2.25)	1.75	0.40	1.72	
256	石線	Ssh I	I	2H-P5	2.55(2.1)	1.20	0.40	0.84	
257	石線	Ch II	I	2F-J3	2.85(2.05)	1.30	0.30	0.78	
258	石線	Ssh I	浮b	2F 23	2.05(1.7)	1.60	0.35	0.89	
259	石線	Ch I	Ⅲ	2F 31	(2.1)	1.70	0.50	1.95	
260	石線	Se	表土	I4	4.30	3.80	1.20	31.0	I
261	石線	Se	I	K3	4.90	3.60	1.50	40.0	I
262	石線	Se	表土	H3	4.40	3.40	1.30	32.0	I
263	石線	Se	埋土中	SA10	4.40	3.40	1.30	34.0	I
264	石線	Se	埋土中	S1	4.10	3.50	1.20	28.0	I
265	石線	Hb	表土	I4	4.70	3.70	1.00	32.0	I
266	石線	Se	埋土中	S1	4.60	3.80	1.00	26.0	I
267	石線	Se	I	H4	4.70	3.80	1.20	36.0	I
268	石線	Se	I	H4	5.60	3.60	1.10	40.0	I
269	石線	Se	I	H4	5.10	3.90	1.00	35.7	I
270	石線	Se	I	K3	4.20	3.70	1.00	34.0	I
271	石線	Se	I	2I	4.60	4.50	1.40	48.0	I
272	石線	Se	I	04	4.30	4.20	1.60	52.0	I
273	石線	Se	表土	2F	5.60	3.80	1.10	39.0	I
274	石線	Se	表土	K3	5.50	5.40	1.70	82.0	I
275	石線	Se	表土	2F	4.80	5.00	2.00	71.0	I
276	石線	Se	I	I4	5.30	5.20	1.60	70.0	I
277	石線	Se	I	H4	5.30	5.30	1.50	63.0	I
278	石線	Se	表土	G3	5.40	5.20	2.00	93.0	I
279	石線	Se	I	K3	5.90	5.40	1.60	82.0	I
280	石線	Se	I	04	5.30	5.50	1.30	69.0	I
281	石線	Se	表土	H3	6.70	6.40	2.40	180.0	I
282	石線	Se	I	G5	5.00	5.40	1.90	84.0	I
283	石線	Se	表土	G5	5.10	5.40	2.10	93.0	I
284	石線	Se	I	R8	5.70	5.50	1.70	81.0	I
285	石線	Se	表土	G7	5.60	6.50	1.90	122.0	I
286	石線	Se	埋土中	S1	7.00	7.20	2.50	202.0	I
287	石線	Se	埋土中	S20	7.80	7.10	2.10	197.0	I
288	石線	Se	表土	R9	7.60	6.40	3.20	244.0	I
289	石線	Se	埋土中	S105	7.60	6.10	3.70	255.0	I
290	石線	Se	I	F5	7.60	7.10	2.50	224.0	I
291	石線	Se	I	04	7.10	6.70	1.60	143.0	I
292	石線	Se	表土	ACア	6.60	6.90	2.70	183.0	I
293	石線	Se	I	K3	8.90	7.40	3.40	338.0	I
294	石線	Se	I	G7	9.60	7.00	2.90	330.0	I
295	石線	Se	表土	N4	9.30	4.50	1.40	124.0	I
296	石線	Se	I	H4	11.00	3.70	2.20	151.0	I
297	石線	Se	I	G4	10.40	5.30	2.70	304.0	I
298	石線	Se	I	K3	8.00	7.40	2.70	288.0	I
299	石線	Se	I	K3	9.70	8.20	2.00	265.0	I
300	石線	Se	I	2I	8.90	7.30	3.80	399.0	I
301	石線	Se	表土	2I'ウ本	10.40	8.00	2.70	361.0	I
302	石線	Se	I	K3	10.10	7.80	2.40	283.0	I
303	石線	Se	表土	I3	4.60	5.40	2.00	72.0	Ⅱ
304	石線	Se	I	N4	4.90	4.80	1.10	48.0	Ⅱ
305	石線	Se	表土	2F	4.60	5.20	2.40	85.0	Ⅱ
306	石線	Se	表土	2H	5.90	6.30	2.00	109.0	Ⅱ
307	石線	Se	表土	2F	4.50	5.80	1.30	61.0	Ⅱ
308	石線	Se	I	I3	5.40	6.50	2.50	132.0	Ⅱ
309	石線	Se	表土	N4	4.40	6.90	2.40	127.0	Ⅱ
310	石線	Se	表土	H3	7.30	7.70	1.20	128.0	Ⅱ
311	石線	Se	I	I3	6.80	7.20	2.10	167.0	Ⅱ
312	石線	Se	表土	I4	6.70	7.60	2.10	173.0	Ⅱ
313	石線	Se	表土	N4	7.60	6.30	2.20	177.0	Ⅱ
314	石線	Se	表土	I4	9.60	7.60	2.00	259.0	Ⅱ
315	石線	Se	I	L4	8.80	6.80	2.90	287.0	Ⅱ
316	石弁	Se	表土	ノクピ2	10.50	5.40	2.20	181.0	I
317	石弁	Se	I	I4	12.40	4.80	1.20	109.0	Ⅲa
318	石弁	Se	表土	ACア	12.90	5.70	1.90	196.0	Ⅲa
319	石弁	Se	I	J3	12.50	6.40	2.60	316.0	Ⅲa

No.	形 種	石 材	出土地区	出土層位	計測値			重量 (g)	分類	備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)			
320	石片	Ho II	表探	N4	10.70	4.20	2.50	176.0	Ⅲb	
321	石片	Ho II	I	K3	13.30	5.20	2.60	234.0	Ⅲa	
322	石片	Ho II	表土	I4	15.20	6.30	3.80	428.0	Ⅲa	
323	石片	Sa	表土	O6	11.60	4.90	1.40	132.0	ⅡVa	
324	石片	Sa	表土	21ウホ	14.20	6.10	2.20	307.0	ⅡVa	
325	石片	Ho	I	K3	14.40	4.70	3.30	288.0	ⅡVa	
326	石片	Ho	表土	2F	16.00	9.10	3.20	682.0	Ⅱb	
327	石片	Ho	I	T3	10.50	3.60	1.70	150.0	Ⅱb	
328	石片	Ho	I	G6	11.20	3.70	2.60	208.0	Ⅱb	
329	石片	Ho	I	L4	10.70	4.40	1.80	133.0	Ⅱb	
330	石片	Ho	表探	20I	9.60	5.40	2.70	196.0	Ⅱb	基部欠損
331	石片	Ho	表土	2H	7.50	4.00	2.50	121.0	Ⅱa	基部欠損
332	石片	Ho	I	L4	10.40	3.70	1.20	106.0	Ⅱa	刀部欠損
333	石片	Ho	I	M4	10.60	5.40	1.00	125.0	Ⅱa	基部・刀部欠損
334	石片	Ho	I	K3	11.30	4.10	1.80	219.0	Ⅱa	刀部欠損
335	石片	Ho	I	2F 扇形木炭	11.60	5.60	2.70	228.0	Ⅱc	刀部欠損
336	石片	Ho	表土	J3	12.90	4.30	1.20	131.0	Ⅱc	
337	石片	Ho	表土	J3	11.90	2.90	2.10	98.0	V	
338	石片	Ho	I	J3	12.50	6.40	2.60	316.0	V	
339	石片	Ho	I	G4	14.00	4.90	2.00	216.0	Ⅱb	
340	石片	Ho	I	K3	13.40	4.00	1.90	197.0	X	
341	石片	Ho	I	K3	14.10	4.00	1.60	177.0	X	
342	石片	Ho	表土	I4	11.30	5.70	3.40	335.0	磨製	基部欠損
343	石片	Ho	表土	旭ア	12.30	5.0	3.4	344.0	磨製	刀部欠損
344	石片	Ho	表土	G6	11.90	5.50	3.10	274.0	磨製	刀部欠損
345	石片	Ho	表土	20	9.90	5.00	2.70	179.0	磨製	刀部欠損
346	石片	Ho	I	旭ア	11.30	4.30	3.50	294.0	磨製	
347	石片	Ho	表探	2H	13.40	5.30	3.00	265.0	磨製	刀部欠損
348	石片	Ho	表土	20	13.90	4.90	3.70	292.0	磨製	刀部欠損
349	石片	Ho	I	K3	14.10	4.90	2.50	231.0	磨製	
350	石片	Ho	表土	21ウホ	12.20	5.50	2.70	265.0	磨製	刀部欠損
351	石片	Ho II	I	J3	8.70	2.80	1.50	54.0	磨製	
352	磨石	Os-Tu	I	F94/S	10.70	9.60	4.50	662.0	I	
353	磨石	Os-Tu	I	P5	7.00	6.70	3.10	206.0	Ⅲb	
354	磨石	Os-Tu	I	T3	6.60	5.70	2.70	156.0	Ⅲa	
355	磨石	Os-Tu	I	P5	6.20	5.60	2.10	122.0	Ⅲa	
356	磨石	Os-Tu	埋土中	S1	9.80	8.80	4.70	660.0	Ⅲa	
357	磨石	Sa	Ⅲ	H4	9.40	8.70	4.10	493.0	Ⅲb	
358	磨石	Os-Tu	I	T3	8.20	7.90	4.00	381.0	Ⅲa	
359	磨石	Os-Tu	I	G4	9.10	8.10	3.90	433.0	Ⅲb	
360	磨石	Os-Tu	I	K3	7.20	7.10	4.00	277.0	Ⅲb	
361	磨石	Os-Tu	I	K3	9.80	9.40	5.60	793.0	Ⅲa	
362	磨石	Os-Tu	I	T3	8.80	8.00	3.40	371.0	Ⅲa	
363	磨石	Os-Tu	I	T3	7.00	7.10	3.50	262.0	Ⅲa	
364	凹石	Sa	I	P5	9.90	8.50	2.30	320.0	-	
365	凹石	Os-Tu	I	T3	12.70	8.50	5.00	851.0	-	
366	凹石	Os-Tu	I	N4	12.00	6.70	4.00	394.0	-	
367	凹石	Sa	I	H4	10.00	8.70	8.60	979.0	-	
368	凹石	Sa	I	L4	7.50	5.60	2.20	153.0	-	
369	凹石	Os-Tu	I	H4	11.00	6.60	2.70	306.0	-	
370	凹石	Os-Tu	I	K3	9.90	6.80	3.30	247.0	-	
371	鉢石	Os-Tu	表探	G3	12.30	7.90	4.60	730.0	-	
372	鉢石	Os-Tu	I	H4	7.60	6.20	4.60	349.0	-	欠損
373	鉢石	Os-Tu	I	H4	10.40	8.00	4.30	464.0	-	
374	鉢石	Os-Tu	埋土中	P5	16.40	7.60	4.80	1018.0	-	
375	鉢石	Sa	表土	21ウホ	15.30	7.40	4.30	745.0	-	
376	鉢石	Sa	I	K3	10.50	4.60	2.60	181.0	-	
377	鉢石	Sa	ノクビ2	10.20	8.50	2.70	361.0	-	欠損	
378	鉢石	Os-Tu	I	I4	9.90	6.60	4.80	520.0	-	欠損
379	円盤状石器	Ho	表探	20	8.00	8.70	2.00	192.0	-	
380	円盤状石器	Ho	表探	S105	6.20	6.30	1.70	89.0	-	
381	円盤状石器	Ho	I	21	9.50	11.50	4.00	520.0	-	
382	台石	Sa	I	J3	26.20	10.80	6.90	2742.0	-	欠損
383	台石	Sa	I	J3	16.10	11.60	7.60	2345.0	-	欠損

第11表 縄文土器観察表

No.	出土地点	器種	部位	調整・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
101	1号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	緑褐色	緑褐色	赤褐色、白色粒子	
102	1号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	緑褐色	褐色	白色透明粒子	
103	1号伊穴	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子、白色透明粒子	
104	2号伊穴	深鉢	口縁部-胴部	ナデ-縦走する山形押型文	ナデ-縦走する山形押型文	緑褐色	赤褐色	赤褐色、白色粒子	
105	2号伊穴	深鉢	腹部	ナデ	ナデ	緑褐色	赤褐色	赤褐色、白色粒子	
106	2号伊穴	深鉢	腹部	ナデ	ナデ	緑褐色	赤褐色	赤褐色、白色粒子	
107	2号伊穴	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ-口唇部に	緑褐色	赤褐色	赤褐色、白色粒子	
108	2号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	褐色	褐色	黒色透明、白色粒子	
109	4号伊穴	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文(船丸)	ナデ	緑褐色	黄褐色	白色粒子-小粒	
100	4号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文(船丸)	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	透明粒子、黒色透明粒子	
191	4号伊穴	小型鉢	口縁部	ナデ	ナデ-口縁部上縁のみ横内押型文?	褐色	緑褐色	白色粒	
102	4号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	にぶい黄褐色	緑褐色	赤褐色粒子	
192	4号伊穴	深鉢	腹部	縦走する拡大横内押型文-口縁部上縁ナデ	ナデ	褐色	褐色	白色粒、小粒	縦溝痕
194	4号伊穴	深鉢	口縁部	縦走する拡大横内押型文	ナデ	褐色	褐色	白色粒、小粒	縦溝痕
195	4号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文-又縁一部ナデ消す	ナデ	黄褐色	褐色	赤褐色粒子、小粒	
196	4号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	緑褐色	にぶい褐色	黒色透明粒子	
197	3号伊穴	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文	ナデ-口縁部上縁に斜め方向の強いナデ	緑褐色	緑褐色	赤褐色、白色粒子	
198	3号伊穴	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文	ナデ-縦走する山形押型文	赤褐色	緑褐色	赤褐色、白色粒子	口唇部フック状
199	3号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	赤褐色	赤褐色	赤褐色、白色粒子	
200	3号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ヘラナデ	赤褐色	緑赤褐色	赤褐色粒子	
201	3号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	褐色	褐色		
202	3号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	赤褐色	赤褐色	小粒	
203	13号伊穴	鉢	口縁部	縦走する横内押型文-口縁部上縁ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	白色透明粒子、小粒	
204	15号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ、工具痕	赤褐色	緑褐色	赤褐色粒子、小粒	13と同一器体か?
205	15号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	赤褐色	褐色	赤褐色、白色粒子	
206	15号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	赤褐色	赤褐色	赤褐色、白色粒子	
207	15号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ、工具痕	赤褐色	緑褐色	赤褐色粒子、小粒	
208	5号伊穴	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文-口縁部ナデ	ナデ-口縁部上縁に斜め方向の強いナデ	褐色	黄褐色	赤褐色粒子、小粒	縦溝痕
209	5号伊穴	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文-口縁部ナデ	ナデ-口縁部上縁に斜め方向の強いナデ	褐色	黄褐色	赤褐色粒子、小粒	縦溝痕
210	5号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ-補修孔(赤貫通)	緑褐色	黄褐色	赤褐色粒子	
211	5号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	褐色	褐色	小粒(少ない)	縦溝痕、12と同一器体
212	5号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	褐色	褐色	小粒、白色粒子	縦溝痕
213	5号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文	ナデ	褐色	褐色	小粒(少ない)	縦溝痕
214	16号伊穴	深鉢	口縁部-胴部	縦走する横内押型文- once にナデ消す	ナデ-縦走する横内押型文	緑褐色	緑褐色	赤褐色粒子、小粒	
215	16号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文赤貫通に once ナデ	ナデ	褐色	褐色	白色、黒色透明粒子	
216	17号伊穴	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文- once にナデ消す	ナデ-縦走する横内押型文	緑褐色	緑褐色	赤褐色粒子、小粒	12と同一器体?
217	17号伊穴	深鉢	口縁部-胴部	縦走する横内押型文- once にナデ消す	ナデ-縦走する横内押型文	緑褐色	緑褐色	赤褐色粒子、小粒	12と同一器体?
218	17号伊穴	深鉢	腹部	縦走する横内押型文- once 孔(赤貫通)	工具ナデ	緑褐色	赤褐色	赤褐色、白色粒子	
219	17号伊穴	深鉢	腹部付込	縦走する横内押型文	ヘラナデ- 透け付透けナデ	赤褐色	緑褐色	白色粒子、小粒	
220	G 2	深鉢	口縁部付込	縦走する山形押型文	ナデ	赤褐色	黄褐色	小粒、白色粒子	
221	F 4	深鉢	腹部	縦走する山形押型文	ナデ	褐色	黄褐色	小粒、透明粒子	
222	J 3	深鉢	腹部	縦走する山形押型文	ナデ	赤褐色	緑褐色	小粒、赤褐色粒子	
223	H 2	深鉢	腹部	縦走する山形押型文	工具ナデ	緑褐色	赤褐色	小粒、赤褐色粒子	
225	J 3	深鉢	腹部	縦走する山形押型文	ナデ	緑褐色	黄褐色	赤褐色粒子、砂粒	
226	I 3	深鉢	腹部	縦走する山形押型文-又縁ナデ消し	ナデ	緑褐色	緑褐色	赤褐色粒子、砂粒	
224	K 3	深鉢	腹部	縦走する山形押型文	ナデ	緑褐色	赤褐色	赤褐色粒子、砂粒	
227	H 4	深鉢	腹部	縦走する山形押型文	ナデ	赤褐色	緑褐色	小粒、赤褐色粒子	
228	G 2	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文	ナデ	赤褐色	赤褐色	赤褐色粒子、小粒	
229	A B 2	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文	ナデ-縦走する横内押型文	黄褐色	緑褐色	白色粒子、砂粒	
230	2 F ベルト	深鉢	口縁部	縦走する横内押型文	ナデ-縦走する横内押型文	褐色	褐色	砂粒	

№	出土地点	器種	部位	調査・文様		色紙		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
231	H 4	深鉢	口縁部	縦走する横門押型文	ナデー口唇部に影み	暗褐色	褐色	赤褐色胎子	
232	G 3	深鉢	口縁部	縦走する横門押型文	ナデー縦走する横門押型文	暗褐色	赤褐色	赤褐色胎子・砂粒	
233	M 4	深鉢	口縁部	ナデー縦走する横門押型文	ナデ	赤褐色	暗褐色	赤褐色胎子・小礫	
234	H 2	深鉢	口縁部	縦走する横門押型文	ナデ	褐色	褐色	砂粒・白色胎子	
235	Z 1 東西ウネ	深鉢	口縁部	縦走する横門押型文	ナデー口唇部指押さへ	赤褐色	暗褐色	赤褐色胎子	
236	G 3	深鉢	口縁付足	縦走する横門押型文	ナデ	黄褐色	褐色	赤褐色胎子・砂粒	
237	M 4	深鉢	胴部	縦走する横門押型文	ナデ	赤褐色	暗褐色	白色胎子・金葉層	
238	H 4	深鉢	胴部	縦走する横門押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色胎子・砂粒	
239	H 4	深鉢	胴部	縦走する横門押型文	ナデ	赤褐色	暗褐色	赤褐色胎子・砂粒	
240	H 3	深鉢	胴部	縦走する横門押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色胎子・砂粒	
241	G 4	深鉢	胴部	縦走する横門押型文	ナデ	赤褐色	褐色	白色胎子・砂粒	
242	Z 1	深鉢	胴部	縦走する横門押型文	ナデ	暗褐色	暗褐色	赤褐色小礫・白色胎子	
243	H 3	深鉢	胴部	縦走する横門押型文→縦走する横門押型文	ナデ	暗褐色	暗褐色	白色胎子・金葉層	
244	A C ア	深鉢	胴部	縦走する横門押型文→ナデ消し	工具ナデ	赤褐色	暗褐色	小礫・黒色透明胎子	
245	H 4	深鉢	胴部	縦走する横門押型文→ナデ消し	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒・黒色透明胎子	
246	I 3	深鉢	胴部	縦走する横門押型文→縦走する横門押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色胎子・砂粒	黒化著しい
247	M 4	深鉢	胴部	縦走する横門押型文→ナデ消し	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色胎子・白色胎子	
248	A B ア	深鉢	胴部	ベルト状の縦目筋糸文	ナデ	褐色	褐色	白色胎子・黒色透明胎子	

縄文時代後・晩期

384	H 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ→貝殻条痕刻突文	貝殻条痕→ナデ	暗褐色	褐色	白色胎子	
385	H 4	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ→2段貝殻条痕刻突文	貝殻条痕→ナデ	暗褐色	赤褐色	砂粒	
386	I 3	深鉢	口縁部	ナデー口縁部上縁二条沈線	ナデ	赤褐色	褐色	赤褐色胎子・砂粒	
387	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	褐色	赤褐色胎子・砂粒	
388	J 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒	外面に入付層
389	H 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	暗褐色	赤褐色	赤褐色胎子・砂粒	
390	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	赤褐色胎子・砂粒	
391	東西ウネ	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ	ナデ	褐色	暗褐色	赤褐色胎子・砂粒	
392	T 3 (確認)	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐色	褐色	赤褐色胎子・砂粒	口唇部に圧痕?
393	H 4	胎台付鉢	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	褐色	白色胎子	口唇部に胎土粒?
394	G 4	胎台付鉢	口縁部	ミガキ	胎部ミガキ/口縁部ナデ→竹管文	黄褐色	黄褐色	小礫	口唇部赤胎
395	K 3	胎台付鉢	口縁部	貝殻条痕→ミガキ	貝殻条痕→ナデ	褐色	褐色	赤褐色胎子・砂粒	口唇部に胎土粒2つ
396	S 3 G	胎台付鉢	口縁部	ミガキ	胎部ミガキ/口縁部ナデ→竹管文	褐色	褐色	赤褐色胎子・砂粒	口唇部赤胎
397	H 4	胎台付鉢	胴部	ナデ	ナデ	黄褐色	褐色	赤褐色小礫	胴部に赤胎
398	P 5	胎台付鉢	胴部	ナデ・工具痕	ナデ	赤褐色	暗褐色	砂粒	
399	I 区ウネ	深鉢	口縁部	ナデー口縁部上縁二条沈線	ナデ	褐色	暗褐色	白色胎子	
400	I 3	深鉢	口縁部	ナデー口縁部上縁二条沈線	ナデ	赤褐色	褐色	赤褐色胎子・砂粒	
401	I 4	深鉢	口縁部	ナデー口縁部上縁二条沈線	貝殻条痕→ナデ	黄褐色	暗褐色	赤褐色胎子・砂粒	
402	I 4	深鉢	胴部	工具によるナデ→ナデ	ナデ→条の凹線	暗褐色	赤褐色	小礫	
403	H 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ	ナデ→条凹線	暗褐色	赤褐色	砂粒	外面に入付層
404	I 3	深鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ→口縁部上縁一条凹線	褐色	赤褐色	白色胎子	
405	G 4	深鉢	口縁部	ナデ?	ナデ→条凹線	褐色	褐色	白色胎子・砂粒	
406	南北ウネ	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	赤褐色胎子・砂粒	
407	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→条凹線	褐色	褐色	砂粒	
408	Z F	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→条凹線	褐色	褐色	砂粒	外面に入付層
409	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色胎子	
410	H 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	褐色	褐色	砂粒	
411	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	口縁部胎土粒付・ナデ	褐色	赤褐色	白色胎子	
412	J 3	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	褐色	赤褐色	白色胎子	
413	T 2 (確認)	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→条凹線	褐色	赤褐色	白色胎子・砂粒	
414	K 3	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→条凹線	暗褐色	赤褐色	白色胎子	
415	T 3 (確認)	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→条凹線?	赤褐色	赤褐色	白色胎子	

№	出土地点	器種	部位	調査・注釋		色澤		胎土	備考
				外蓋	内蓋	外蓋	内蓋		
416	J 3	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→一色出線	赤褐色	褐色	砂粒・黒色透明粒子	
417	2F	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→二色出線	褐色	褐色	砂粒	
418	G 6	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→口縁部敷彩	赤褐色	赤褐色	砂粒	
419	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→一色出線	褐色	褐色	砂粒・赤褐色粒子	
420	I 4	深鉢	口縁部	ナデ→口唇部に注線	ナデ	褐色	褐色	砂粒・白色粒子	
421	T 3 (確認)	深鉢	口縁部	ナデ→一色注線	ナデ	褐色	赤褐色	砂粒・白色透明粒子	
422	I 4	深鉢	口縁部	貝殻委縮→ナデ	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・黒色透明粒子	
423	J 3	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	赤褐色	砂粒・白色粒子	外蓋未入付蓋
424	H 4	深鉢	口縁部	ナデ→ミガキ	ナデ	暗褐色	褐色	砂粒・黒色透明粒子	
425	F 区	深鉢	腹部→脚部	ミガキ→一色消線文	ミガキ	褐色	暗褐色	白色粒子	
426	I 3	深鉢	腹部	ミガキ→一色消線文	ミガキ	褐色	暗褐色	白色粒子	
427	L 4	深鉢	腹部	ミガキ→一色消線文	ミガキ	赤褐色	褐色	白色粒子	
428	T 3 (確認)	深鉢	腹部	ミガキ→一色消線文	ミガキ	暗褐色	褐色	白色粒子	
429	I 4	深鉢	腹部	ナデ→三色注線→一色注文	ナデ	褐色	褐色	赤褐色粒子・白色粒子	
430	J 3	深鉢	腹部	ナデ→直線状の2条注線と弧状の2条注線	ナデ	暗褐色	褐色	白色粒子	
431	S 1 7	深鉢	腹部	縦文直線→2条注線・波状注線→一色注文	ナデ	暗褐色	褐色	黒色透明粒子・白色粒子	外蓋未入付蓋
432	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二色出線	ミガキ	暗褐色	暗褐色	赤褐色粒子・白色粒子	
433	J 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二色出線	ミガキ	褐色	褐色	小礫	
434	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二色出線	ミガキ	赤褐色	赤褐色	砂粒	
435	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→三色出線	ミガキ	褐色	褐色	砂粒	
436	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二色出線	ミガキ	赤褐色	赤褐色	白色粒子・砂粒	
437	S 1	浅鉢	口縁部	ミガキ→二色出線	ミガキ	赤褐色	褐色	砂粒	
438	T 3 (確認)	浅鉢	口縁部	ミガキ→三色出線	ミガキ	暗褐色/褐色	暗褐色	白色粒子	
439	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二色注線	ミガキ	赤褐色	褐色	小礫	
440	G 5	浅鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ→一色出線	暗褐色	暗褐色	白色粒子少量含む	
441	J 3	浅鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ→一色出線	暗褐色	暗褐色	白色粒子少量含む	
442	J 3	浅鉢	口縁部	ミガキ→口唇部に一色注線	ミガキ	褐色	褐色	白色粒子少量含む	
443	J 3	浅鉢	口縁部	ミガキ→一色出線	ミガキ→一色出線	黄褐色	褐色	白色粒子少量含む	
444	J 3	浅鉢	口縁部	ミガキ→一色注線	ミガキ→一色出線	暗褐色	暗褐色	黒色透明粒子を含む	
445	S 4	浅鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ→一色出線	赤褐色	赤褐色	砂粒様わずかに含む	
446	K 3	浅鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ	灰褐色	灰褐色	砂粒様わずかに含む	注線あり
447	Z F	高沖	脚部	ミガキ→横帯と直線の連続的に二色出線	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	
448	G 5	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付(実帯状)	ナデ	黄褐色	黄褐色	小礫・赤褐色粒子	
449	H 4	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付(実帯状)	ナデ	褐色	灰褐色	小礫	
450	G 5	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付(実帯状)	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	
451	S 1 7	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付(実帯状)	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子様わずかに含む	
452	H 4	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付(実帯状)	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	
453	G 5	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付(実帯状)	ナデ	褐色	褐色	白色粒子様わずかに含む	
454	Z 1 3 5	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付(実帯状)	ナデ	暗褐色	黄褐色	砂粒	
455	S 2 0 6	深鉢	口縁部	貝殻委縮→胎土縁貼付→凡列文	貝殻委縮→ナデ	黄褐色	黄褐色	砂粒・赤褐色粒子	
456	P 5	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付→凡列文	ナデ	赤褐色	黄褐色	砂粒多く含む	
457	S 2 3 8 9	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付→凡列文	ナデ	褐色	黄褐色	小礫	
458	I 3	深鉢	口縁部	ナデ→胎土付け足し→凡列文	ナデ	褐色	褐色	砂粒	
459	H 4	深鉢	口縁部	ナデ→胎土縁貼付→凡列文	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	
460	H 4	深鉢	口縁部	貝殻委縮→ナデ→胎土付け足し→凡列文	貝殻委縮→ナデ	黄褐色	赤褐色	白色粒子	
461	H 3	深鉢	口縁部	ナデ→凡列文	ナデ	黄褐色	黄褐色	小礫	
462	J 3	土器片種	-	ナデ	ナデ	褐色	褐色	白色粒子・赤褐色粒子	
463	G 4	土器片種	-	ナデ	ナデ	褐色	暗褐色	砂粒	
464	Z F	土器片種	-	ナデ	貝殻状腐→ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒様わずかに含む	
465	G 4	土器片種	-	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒様わずかに含む	
466	川 東西 3 5	土器片種	-	縄文 5 5 山形押型文	ナデ	黄褐色	黄褐色	細い砂粒	
467	L 4	土器片種	-	ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	砂粒多く含む	

№	出土地点	器種	部位	図説・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
466	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒わずかに存在	
469	I 3	深鉢	口縁部	ヘラナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	赤褐色粒子	
470	H 4	深鉢	口縁部	ミガキ	ナデ	黄褐色	黄褐色	砂粒、黄色透明粒子	
471	J 3	飯台付蓋?	口縁部	ヘラナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	砂粒	
472	I 4	鉢	腹部	ナデ→急激的な沈線	ナデ	黄褐色	黄褐色	砂粒	
473	T 3 (確認)	飯台付蓋?	腹部	ミガキ→正倉沈線、斜め目、穿孔	ミガキ→口縁部に斜め目	暗褐色	暗褐色	砂粒、白色粒子	
474	T 3 (確認)	飯台付蓋	腹部	ナデ	ナデ→二条沈線	黄褐色	黄褐色	赤褐色小礫	
475	J 3	鉢	口縁部	ナデ→胎土粘り(裏配器) →ナデ	ナデ	褐色	褐色	砂粒	
476	2 I ウホ	鉢	口縁部	ナデ→口縁部に斜め方向の斜め目、穿孔	ナデ	黄褐色	黄褐色	砂粒	
477	H 4	深鉢	底部	ヘラナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	
478	T 3 (確認)	深鉢	底部	ナデ	ナデ	黄褐色	暗褐色	赤褐色粒子	
479	P 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	赤褐色粒子	
480	I 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	小礫	
481	I 3	深鉢	底部	ナデ	ナデ	暗褐色	黄褐色	小礫	
482	墓土	深鉢	底部	ナデ	ナデ	褐色	暗褐色	白色粒子	
483	H 4	深鉢	底部	ナデ	ミガキ	赤褐色	暗褐色	赤褐色粒子	
484	G 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	木の葉痕
485	K 3	深鉢	底部	ヘラナデ	ナデ	褐色	暗褐色	赤褐色粒子、白色粒子	内面ス入付蓋
486	T 3 (確認)	深鉢	底部	ナデ	ナデ	褐色	褐色	赤褐色粒子	
487	K 3	深鉢	底部	ヘラナデ	ナデ	褐色	暗褐色	赤褐色粒子、白色粒子	
488	P 5	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒	
489	O 4	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子	
490	O 6	深鉢	底部	ナデ	ナデ	褐色	褐色	砂粒、赤褐色粒子	木の葉痕
491	H 3	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	
492	F 区	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	黄褐色	暗褐色	赤褐色粒子、小礫	
493	H 4	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	暗褐色	小礫	
494	J 3	深鉢	底部	ナデ	ミガキ	褐色	黄褐色	白色粒子、金葉母	
495	H 4	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子、白色粒子	
496	J 3	深鉢	底部	ナデ	ミガキ	褐色	黄褐色	白色粒子、金葉母	
497	H 4	深鉢	底部	ヘラナデ	ナデ	褐色	褐色	白色粒子、褐色粒子	
498	J 3	深鉢	底部	ナデ→ミガキ	ナデ	暗褐色	褐色	白色粒子	
499	R 9	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	黄色透明粒子、白色粒子	
500	J 3	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	
501	I 4	深鉢	底部	—	ナデ	—	褐色	赤褐色粒子	内面ス入付蓋
502	I 4	深鉢	底部	ナデ→ミガキ	ナデ	褐色	暗褐色	赤褐色粒子、白色粒子	
503	K 3	深鉢	底部	ミガキ	ミガキ	暗褐色	暗褐色	白色粒子、黄色透明粒子	
504	T 3 (確認)	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	暗褐色	褐色	砂粒	
505	2 F	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	黄褐色	砂粒	
506	G 5	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子	
507	J 3	深鉢	底部	ナデ	ナデ	褐色	褐色	砂粒	
508	I 3	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒	内面ス入付蓋
509	G 5	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子	
510	I 区飯	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	暗褐色	砂粒	
511	H 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒	
512	I 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	赤褐色粒子、白色粒子	内面ス入付蓋
513	H 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子、透明粒子	
514	J 4	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	暗褐色	白色粒子	内面ス入付蓋
515	G 5	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒	
516	I 4	深鉢	底部	ヨコナデ	ナデ	褐色	暗褐色	白色粒子	
517	H 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	暗褐色	砂粒	内面ス入付蓋
518	J 3	深鉢	底部	ナデ→ミガキ	ヘラナデ	暗赤褐色	赤褐色	白色粒子	
519	K 3	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	小礫	内面ス入付蓋
520	F 5	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	

No.	出土地点	層様	部位	調敷・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
521	1.4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	小粒	
522	7.3 (確認)	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	内面黒染
523	1.4	深鉢	底部	ナデ→ミガキ	ナデ	赤褐色	褐色	小粒	内面ス入付着
524	1.4	深鉢	底部	ナデ (浅部付成ミコナデ)	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子・砂粒	

第12表 古墳時代以降遺物観察表

No.	出土地点	層様	部位	調敷・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
526	SA 8	土師器	ミコナデノ縁	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	
527	SA 8	土師器	縁	タタキ	ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	スス付着
528	SA 8	土師器	高坪・胴部	不明	不明	赤褐色	赤褐色	赤色粒子	
529	SA 8	土師器	蓋	ナデ→タタキ	ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	スス付着
530	SA 8	土師器	蓋	ナデ→タタキ	ナデ→ハハケ目→ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	スス付着
531	SA 8	土師器	蓋	タタキ、口縁部ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	
532	黒土	須恵器	高坪・胴部	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	灰褐色	灰褐色	砂粒少量	
534	黒土	須恵器	蓋部	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	灰褐色	灰褐色	砂粒少量	内面張り裏面V、環として観察中?

第13表 黒曜石原石計測表

No.	層様	石 材	出土地点	計測値			
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)
535	黒石	Ob 1	F	1.50	1.40	0.95	1.66
536	黒石	Ob 1	H	2.30	1.40	1.00	2.28
537	黒石	Ob 1	F	2.20	1.40	1.15	2.30
538	黒石	Ob 1	F	1.75	1.60	1.15	2.19
539	黒石	Ob 1	F	2.30	1.50	1.15	4.24
540	黒石	Ob 1	F	1.65	1.40	1.80	4.60
541	黒石	Ob 1	F	2.50	1.75	1.40	5.53
542	黒石	Ob 1	F	1.65	1.60	1.40	5.51
543	黒石	Ob 1	F	1.70	2.45	1.20	4.48
544	黒石	Ob 1	F	2.45	1.50	1.40	3.78
545	黒石	Ob 1	F	2.85	1.30	1.30	4.43
546	黒石	Ob 1	F	2.80	1.40	1.05	3.61
547	黒石	Ob 1	F	2.40	2.30	1.40	6.24
548	黒石	Ob 1	F	2.60	1.80	1.45	5.89
549	黒石	Ob 1	F	2.25	1.90	1.25	6.96
550	黒石	Ob 1	F	2.30	1.90	1.25	5.90
551	黒石	Ob 1	F	2.70	2.00	1.20	5.14
552	黒石	Ob 1	F	2.95	1.65	1.10	4.58
553	黒石	Ob 1	F	1.70	2.30	1.40	6.81
554	黒石	Ob 1	F	1.32	1.71	1.20	2.71
555	黒石	Ob 1	F	1.75	2.30	1.80	11.45
556	黒石	Ob 1	F	1.40	1.20	1.00	2.24
557	黒石	Ob 1	F	1.60	1.35	1.10	3.64
558	黒石	Ob 1	F	1.80	1.45	1.15	2.64
559	黒石	Ob 1	F	2.00	1.30	1.80	3.52
560	黒石	Ob 1	F	1.90	2.00	1.15	3.45
561	黒石	Ob 1	F	1.90	1.60	1.45	4.27
562	黒石	Ob 1	F	2.40	1.40	1.05	2.26
563	黒石	Ob 1	F	2.70	1.10	1.20	3.34
564	黒石	Ob 1	F	1.60	2.51	1.05	4.44
565	黒石	Ob 1	F	2.70	1.90	1.20	5.72
566	黒石	Ob 1	F	2.15	2.20	1.45	6.52
567	黒石	Ob 1	F	2.20	1.60	1.20	5.03
568	黒石	Ob 1	F	1.45	1.70	1.30	4.37

No.	層様	石 材	出土地点	計測値			
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)
569	黒石	Ob 1	F	2.30	2.15	1.40	5.55
570	黒石	Ob 1	F	2.05	1.55	0.90	3.12
571	黒石	Ob 1	F	2.10	1.90	1.10	4.16
572	黒石	Ob 1	F	2.70	1.60	1.40	5.41
573	黒石	Ob 1	F	3.00	1.25	1.15	5.95
574	黒石	Ob 1	F	2.80	1.70	1.50	5.91
575	黒石	Ob 1	F	2.00	2.40	1.40	7.14
576	黒石	Ob 1	F	2.60	1.70	1.20	5.18
577	黒石	Ob 1	F	2.85	1.45	1.05	4.10
578	黒石	Ob 1	F	2.10	2.50	1.30	6.77
579	黒石	Ob 1	H	1.90	2.30	1.60	7.27
580	黒石	Ob 1	F	2.70	1.60	1.05	3.81
581	黒石	Ob 1	F	2.20	2.00	0.95	4.05
582	黒石	Ob 1	F	1.95	2.60	1.20	5.59
583	黒石	Ob 1	F	2.55	3.00	1.20	7.78
584	黒石	Ob 1	F	3.20	2.40	1.05	7.21
585	黒石	Ob 1	F	3.20	2.50	0.95	5.81
586	黒石	Ob 1	F	2.80	1.70	0.75	2.21
587	黒石	Ob 1	F	1.90	2.50	1.05	5.15
588	黒石	Ob 1	F	2.10	1.80	1.20	4.94
589	黒石	Ob 1	F	2.70	1.40	1.10	4.50
590	黒石	Ob 1	F	2.80	1.40	1.30	5.46
591	黒石	Ob 1	F	2.40	1.10	1.10	2.80
592	黒石	Ob 1	F	2.80	1.80	1.40	8.67
593	黒石	Ob 1	F	2.10	2.30	1.45	5.93
594	黒石	Ob 1	F	2.20	2.00	0.95	4.10
595	黒石	Ob 1	F	3.00	1.40	1.40	5.39
596	黒石	Ob 1	F	2.60	1.70	1.20	5.09
597	黒石	Ob 1	F	1.70	2.20	1.50	6.62
598	黒石	Ob 1	F	1.90	1.55	1.20	5.37
599	黒石	Ob 1	F	1.70	1.50	2.20	6.62
600	黒石	Ob 1	G	2.00	2.40	1.40	6.25

図 版





二次調査区全景



三次調査区全景



11. 26号碟群



12. 30号碟群



13. 27号碟群



14. 28号碟群



15. 29号碟群



16. 4号碟群



17. 16号碟群



18. 19号碟群



19. 13号碟群



20. 2号碟群



21. 14号碟群



22. 9号碟群



23. 21号碟群



24. 5号碟群



25. 17号碟群



26. 32号碟群

卷末図版 4



27. 10号碟群



28. 20号碟群



29. 24号碟群



30. 22号碟群



31. 23号碟群



32. 11号碟群



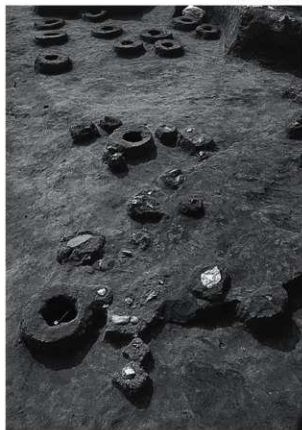
33. 23号碟群



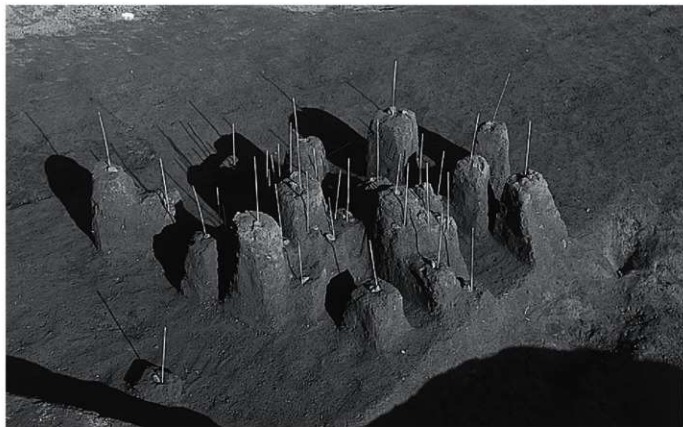
34. 11号碟群



35. 6号碟群



36. 7号碟群



37. F区出土黑曜石出土状况



38. 12号集石遺構



39. 12号集石遺構



40. 12号集石遺構 (配石)



41. 4号集石遺構



42. 4号集石遺構



43. 7号集石遺構



44. 4号集石遺構 (配石)



45. 8号集石遺構



46. 9号集石遺構



47. 5号集石遺構



48. 6号集石遺構



49. 17号集石遺構



50. 17号集石遺構



51. 11号集石遺構



52. 11号集石遺構



53. 3号集石遺構



54. 1~5号集石遺構検出状況



55. 1号炉穴



56. 3号炉穴



58. 4号炉穴



57. 4号炉穴



59. 9号炉穴



60. 13号炉穴



61. 2号炉穴



62. 2号炉穴



63. 10号炉穴



64. 11号炉穴



65. 10·11号炉穴



66. 7号炉穴



67. 16号炉穴



68. 16号炉穴



69. 15号集石



70. 17号炉穴半截



71. 16号集石配石



72. 17号炉穴完掘



73. 12号炉穴



74. 14号炉穴



75. 15号炉穴



76. 15号炉穴



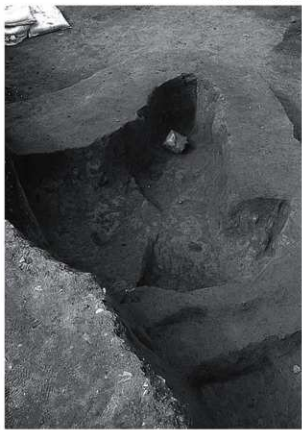
78. 8号炉穴



79. 5号炉穴



81. SA8遺物出土状況1



77. 6号炉穴



80. 5号炉穴



82. SA8遺物出土状況2



83. SA8小玉出土状況



84. SA8遺物出土状況3



85. SA8住居内土抗土層断面



86. SA8完掘状況



87. 後期旧石器時代①石器



88. 後期旧石器時代②石器1



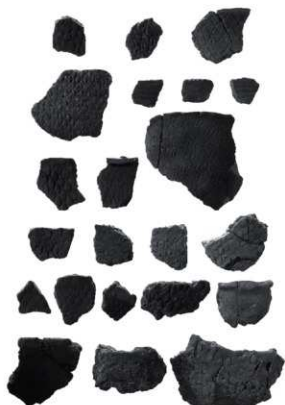
89. 後期旧石器時代②石器2



90. 縄文時代早期土器1 (表)



91. 縄文時代早期土器1 (裏)



92. 縄文時代早期土器2 (表)



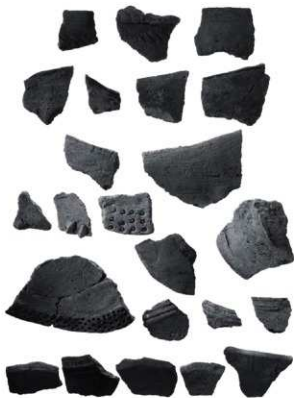
93. 縄文時代早期土器2 (裏)



94. 縄文時代早期土器3 (表)



95. 縄文時代早期土器3 (裏)



96. 縄文時代後・晩期土器1 (表)



97. 縄文時代後・晩期土器1 (裏)



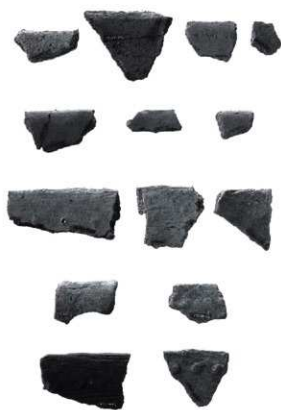
98. 縄文時代後・晩期土器2 (表)



99. 縄文時代早後・晩期土器2 (裏)



100. 縄文時代後・晩期土器3 (表)



101. 縄文時代後・晩期土器3 (裏)



102. 縄文時代後・晩期土器4 (表)



103. 縄文時代後・晩期土器4 (裏)



104. 縄文時代後・晩期土器5 (表)



105. 縄文時代後・晩期土器5 (裏)



104. 縄文時代石鏃5 (表)



477



477



479



478



478



481



483



482



484



486



485



485



487



488



489



490



491



494



496



497



498



499



500



501



503



504



505



506



508



509



510



511



513



515



518



518



519



520



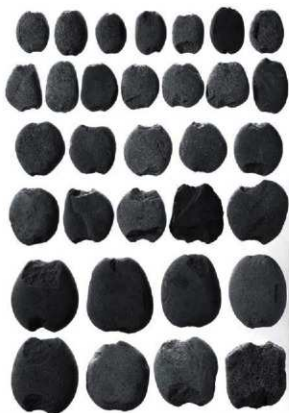
522



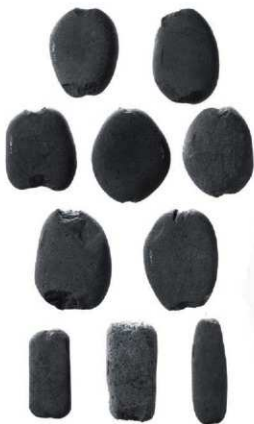
523



524



148. 縄文時代後・晩期石器1 (石錘)



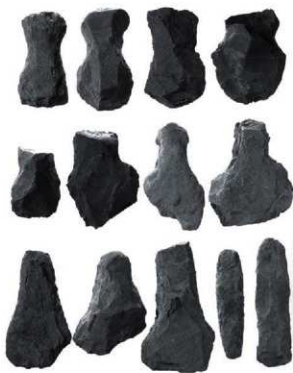
149. 縄文時代後・晩期石器2 (石錘)



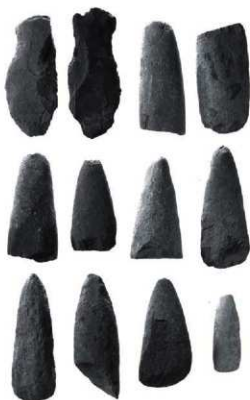
150. 縄文時代後・晩期石器3 (石錘)



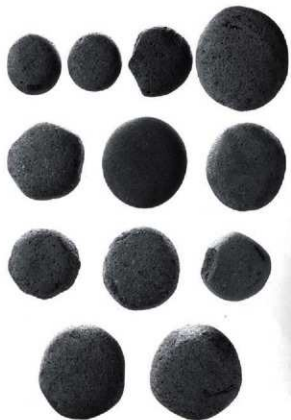
151. 縄文時代後・晩期石器4 (石斧)



152. 縄文時代後・晩期石器5 (石斧)



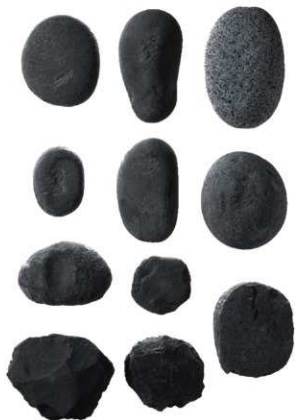
153. 縄文時代後・晩期石器6 (石斧)



154. 縄文時代後・晩期石器7 (磨石)



155. 縄文時代後・晩期石器8 (凹石・敲石)



156. 縄文時代後・晩期石器9 (敲石・円盤状器)



157. 縄文時代後・晩期石器10 (台石)



158. SA8出土土師器527



159. SA8出土土師器529



160. SA8出土土師器530



161. SA8出土土師器531



162.532



163. I区包含層出土須恵器534



164. I区出土533須恵器



165.南部弾

報告書抄録

ふりがな	のくびだいにいせき (に・さんじちょうさ)								
書名	野首第2遺跡 (二・三次調査)								
副書名	東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 63								
シリーズ名	宮崎埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ番号	第188集								
編著者名	石津晴菜・松本 茂								
発行機関	宮崎埋蔵文化財センター								
所在地	〒 880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地 TEL 0985-36-1171								
発行年月日	西暦 2010年2月26日								
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
のくびだいにいせき 野首第2遺跡 に・さんじちょうさ (二・三次調査)	こくぶんたかなべちよう 児湯郡高鍋町 おのあざうらえあざあむき 大字上江字青木	45401	2005	32度 08分 55秒 付近	131度 29分 12秒 付近	2007.07.17～ 2008.04.30	2,380㎡	東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
野首第2遺跡		後期旧石器時代	礎群	7基	石器				
	集落跡	縄文時代早期	集石遺構 竈穴	17基 17基	縄文土器				
		古墳時代中期	竪穴住居跡	1軒	土師器、須恵器、鉄製品				
		時期不明	土坑・ピット						
要約	<p>後期旧石器時代の礎群及び石器が、AT層の上下から出土。縄文時代早期の遺構・遺物は、集石遺構、土器・石器類出土。包含層中に、縄文時代早期～古墳時代中期にかけての土器・石器類が多数出土している。</p> <p>古墳時代の竪穴住居跡からは、土器と、瑪瑙製の小玉が出土している。また、桑ノ木津留産黒曜石の原石がまとまって出土している。</p>								

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 188 集

野首第 2 遺跡（二・三次調査）

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 63

2010年2月26日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒 880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地

TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印刷 株式会社 都城印刷

〒 885-0055 宮崎県都城市早鈴町 1618 番地

TEL 0986(22)4392 FAX 0986(22)4891
